

## メルマガ「頂門の一針」に書いたこと 上西俊雄

(末尾に目次)

「お上に傳へてくれ」!?

英語教育について

或る集りで『日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で』が話題になった。評價するといふ人もあつたけれど、日本語が亡びるとすれば内部からだとする長老の發言ではつた。かういふのが却って質が悪いと長老は仰せになる。

孫がテレビで覺えて「戀のバカンス」を歌ふ。バカンスをアバンスと言ふ。娘がそれをバカンスと正さつとする。「そんなことはどうでもよいではないか」とチヂ。チヂは先日近所で猿を見かけた。その話をしたところ孫が「この猿どうなったの」と訊く。「この」ではなく「その」と訂正したので娘が興がった。チヂは單語の問題とコソアドやテニヲハの問題は違ふと思つてゐるのです。

麻生さんののは單語の問題。文法からみて日本人かしらと疑ひたくなる識者は多い。「靖國を参拜する」、「西歐をあこがれる」、「何々を鑑みる」等、「に」といふところを「を」といふ人が増えてゐる。英語の得意な人に多いやうな氣がする。

たけしの演じた東條英機のドラマで近衛公が辭意を漏らすシーンで「お上に傳へてくれ」。日本語はすでにこんな程度なのだ。

ぼやが三件續いたがいづれでも「怪我人はあなかつた」とアナウンサー。普通なら「怪我人はなかつた」といふところ。

「怪我人はあなかつた」といへば、定冠詞がつくところだ。娘に汚水を注射しようとした女性の自宅で「少なくとも一本の注射器がみつかつた」。この「少なくとも」は一體どこからでてくるのだらうか。だんだんとバイリンガルな日本人が増えて、數のことを過剰に意識したためなのだらうか。 ◇1406(20.12.26)

• 前田さんの議論が公教育の議論と一緒くたにされることを恐れて一筆します。公教育では始めてアメリカの土を踏んだ時點での前田さんのレベルになつてゐれば十分ではないかと思ふ。いや十二分かもしれません。

英語教育の効果が悪いのは確かだと思ひます。英語教育の効果が悪ければまづ方法が問はれるべき。小學校英語教育を答申した委員には、非効率な英語教育の責任を問はれるべき、英語教師養成機關の人が多かつたのではないか。

英語教育といふ薬をのませてもなかなか効果が無い、どうしたものかと相談したら、もっと大量に服用させなさいといふのが小學校からの英語教育。相談した相手が業者であつた。麻薬賣人とどこが違ふかと言へば、悪事を働いてゐる意識がないことだと、さう見えてくる。

小學校から始めるのか、中學校から始めるのか、いづれにしても入門期に何をどう教へるかはきはめて重要であるはず。もし小學校からといふことにするのなら、中學校の英語教育は既に入門期の教へ方と異なるべきだ。さう言つた議論がないのは初手から方法論が抜け落ちてゐるからだ。

このことを訴えた小論があります。(洋泉社『英語は日本人教師だから教へられる』)一二部が三重大學奥村晴彦教授主宰の「E」のサイトで公開です。御一讀頂ければありがたい。

今は未曾有(みそつう)のとき、農村が疲弊して季節労働者を吸収する餘力がなければ役場の臨時職員に採用するなどしなければならぬ。無意味な出費は止めるべきだ。誰もが思ふのは裁判員制度に違ひない。私

の場合は A L T だ。

『日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で』も、前田さんの説くところも、物理や数学まで英語で教へるべきだとする風潮に掉差す結果になるのではないかと思ふわけです。◎1406(20.12.26)

●(一四〇七號)(十二月二十七日)の反響欄に前田さんの返事。書出しが「上西様の學歴も職歴も存じ上げております。そのような権威者に反論しようとは思ひませぬ。」)

前田さんは常連の寄稿者でいらっしゃる。それだけで敬意を抱いてをりますがいつも紙面でお目にかかってゐるうちに身近に感じるやうになってをりましたため「さん」付けに致しました。さうお呼びしますことをお許し願ひます。手前のごもさう呼んでいただけませんか。

前田さんが有り餘る英語力を持つと書かれたとき、さう自負なさるだけの人であるのだと素直に受取りました。さういふ前田さんの英語教育についての發言には説得力があります。公教育について述べられておいでのごもきはめてまっとうだ理解してゐます。

しかし、御論は英會話の能力を磨く方法の解説でもあるし、またその部分が讀ませる。今の時代、その部分しか見ない人が多いのではないかとこの危懼を述べたのでした。

ところで學歴など屁の突っ張りにもならぬこと、前田さんならご存知のはず。職歴も買いかぶりです。しかしそんな事情を説明しようとするとりネンを人前で洗ふことになる。

東京法令出版『月刊國語教育』(平成十八年十月號)所載の小文で「昔、出版社時代に或る企畫がどうしても通らなかつたことがある。顧問格の大學教授の眼鏡に叶はなかつたためだといふことは後になつて知つた」と書きました。御推察願

ひます。

それで個人的に文部省に意見書を提出したことがあります。もちろん梨のつぶて。御案内した小著はその延長です。三十年かかつても、恐らく文部省の役人の誰一人讀んでゐないのだと思ふ次第。當方の主張は疊の上の水練。實踐を踏まへての方から同じ主張だと言はれて權威づけられた氣持であるのが正直なところ。

小著のネットでの最初の評は、途中まではさうださうだと思ひながら讀みただけ、突然難しい議論になる。著者は編集者上がりらしいが悪い癖がもろに出た、トンドモ本だといふものでした。今回公開した部分はこの讀みやすい部分。

ここで書いたことは我々に假名があり、發音記號があることが英語教育の効率の悪さの疫學的原因だといふこと。それを論じるには發音記號が必要。それで「JEX」で組んだわけです。そのことは奥村先生の「JEX」のサイトの自著紹介に書きました。なほ四部よりなる小著の三部まで公開とあるのは間違です。

翌年、岩佐充則といふ人が讀書日記(十七年三月十八日)で小著を取り上げた中に「この書を買つたきつかけは、先日、BBCの報道の中で、英國でも移民の子供が増えてゐるが、アルファベットの發音をしつかり教へる教育方法を導入したら、大きな成果が現れてゐるとの事例が紹介されてゐたからだ。」とあります。

本國でもアルファベットの重要性は忘れ去られてゐたらしい。權威でなく異端であつたわけです。小著の後段で次のやうに書きました。

大事なことは教師自身の理解であり、納得である。自信もそこから生れる。自信がなければ權威は保てない。磁性體の極小磁石の方向がそろつて強力な磁石になる。この峠に立てば、これまでの知識が整理されて、より強いものに

なつたはずだ。

教師は方法的に訓練すればよく、さほどの熟練は必要ないと考へてゐるわけです。

しかし北郷山人の詳細な紹介（山人のサイトの小字報「近況」十六年四月二十五日）では、やはりさう簡單ではないだらうとあります。是非どこかでやつて貰ひたいものです。

國語教育が大事だといふ人がある。樋口一葉もできれば原文で教へるべきだと。この「できれば」といふのが判らない。歴史的假名遣が難しいと考へてをられるのだらうか。何時になつて切替へるのか。文部省が表音主義者に乗つ取られてから、國語教育はワ行音、八行轉呼音、ヂツを追放したままだから、何時になつても切替へることはできない。切替へるなら五十音圖をしつかり教へてからやるべきだ。では何時五十音圖を教へるべきなのか。

文部省が歴史的假名遣を否定しようとするのなら、假名遣の優劣を論じることができなければならない。五十音圖をこまかしてゐてはそれすら不可能なのです。

我國の社會及び政治を論ずるプロログ SHISAKU で慣れない英語にせよ假名遣を論じることができたのは五十音圖に對應する翻字式だったからです。

英語の場合は綴りを假名で教へるまではない。ローマ字のときに使ふはずのない O や X まで教へるのだらうけれど音聲と文字とは切離されたまま。だからこそ小學校へ英語教育を導入しながら、中學校の英語教育はそのままといふことが可能なのかも知れません。◎1408(20.12.28)

## 敗戦日本に残つてゐたもの

麻生内閣總理大臣の年頭所感に「六十年前、昭和の先人たちは、戰爭によつてすべてを失ひ、占領下の新年を迎へまし

た。」とある。すべてを失つたわけではなかつた。

昨年何十年ぶりに連絡があつた友人がかう書いてきた。

社内資料を調べてみると、敗戦後、會社宛の文書の封筒に變色したシールらしきものを見かけた。ぼろぼろなので、簡単に剥がれたのを、そのまま捨てようとしたが、何か文字が書かれてあつたので、改めて文字を讀んでみると「occupied Japan」と書かれてあつた。それでも何も感じなかつたが、しばらく経つてから氣付いた。何者かが、會社宛の封書を《開封》し、しかもそのことを明確に示してゐるといふことに氣付いた。即ち、通信が何者かによつて監視されてゐるといふことがわかつた。しかも英文表記のシールが使用されてゐるといふことは、占領軍によつて、通信が監視・檢閲されてゐるといふことだ。

ハツと氣付いたことは、昭和二十年八月の「終戦」時の首都圏の私鐵の交通網の姿だつた。東から東急電鐵（大東急電鐵とも稱される。京濱急行、小田急、京王帝都を合併してゐた）、西武鐵道、東武鐵道、京成電鐵が東京郊外にあつた。そして山手線の内側には、地上交通機關は東京市電、地下には營團地下鐵による地下鐵（現實には銀座線のみ）。乗合自動車（バス）、タクシード、それぞれ上記の交通機關に統合されてゐた。なお、上記の他に、當時の陸上交通の王者・日本國有鐵道があつた。

ここで何を言ひたいのかと言へば、戦後から今日に至るまで、敗戦直後の日本について「ゼロからの出發」といふ表現が使はれるが、それはとんでもない嘘っぱちだといふことだ。上記の交通機關を見てもわかるやうに、敗戦直後の首都圏には、立派な交通網が完備

されてゐたといふことだ。鐵・銅・ゴ  
ム、電氣・ガソリンなど必需物資がほ  
とんど缺乏してゐたが、とにかく交通  
機關は立派に存在してゐた。更に、忘  
れてはならないことが、戦争からの復  
員者のことだ。彼等が、敗戦後外地から  
引き揚げてくることによって、非常に  
上質（人間に對し失禮な表現だが）の勞  
働力が供給されたことだ。日本語で意  
思疎通が可能であり、規律を重んじる  
人間の社會復歸が、敗戦後の日本の經  
濟の復興にどれほど大きかつたか、ど  
うもまだ十分に説明されてゐないので  
はないだろうか。

しかり、日本語がすっかりしてゐた。こ  
の點も忘れるべきではない。しかし今や  
國語力の劣化は大臣の語彙（漢語を知ら  
ない）や假名遣に表れてゐる。簡単な漢語  
を説明するのに英語に頼る人もある。文  
部省に巢食ふ表音主義者のせいだ。表音  
主義者はローマ字化を目指した。ローマ  
字で書き表せない字母を削り込んだのが  
缺損五十音圖で缺損五十音圖で書くのが  
現代假名遣であり、芭蕉の句は「古池や  
買はずに飛び込む見ない音」だ。もとも  
と前提としたローマ字方式に問題があつ  
たことは、日米の圖書目録でさへ同一方  
式でないことによつても明らかだ。

大晦日の東京M Xテレビで改憲問題が  
話題になつた。押し付け憲法でなく押し  
頂き憲法だと西部先生は仰せになる。今  
の憲法は傳統に繋がつた表記。改憲の  
結果、押し頂き表記になるのは御免だ。

◇1417(21.1.6)

## ローマ字

●一四一五號（一月四日）反響欄の投稿  
で「日本文字」といふのがあるが意味が  
判らない。日本文字といへば假名しか  
ない。假名の次に思ひつুকのは國字。つまり

峠、榊、畑、厩、働など日本で作られた漢  
字。それから國內専用の新字體。漢字圏  
からの留學生にとっては頭の痛い問題だ  
らう。日本式ローマ字で<sup>1)</sup>でチ、<sup>2)</sup>でシ  
を表す類がある。これらは日本人相手の  
表記。日本文字と言はれて思ひつুকのは  
そんな程度。その他に辭書學でいふ faux  
amis（偽りの友）といふ問題もある。汽  
車のつもりが自動車であつたり、手紙の  
つもりがチリ紙であつたりする類。登録  
商標の問題を離れて言へば、田母神さん  
の問題の場合、侵略が faux amis である  
といふ事情も働いてゐると思ふ。侵略の  
掠は表外字。侵略は代用表記。掠には「か  
すめとる」といふ訓があつたが略にはな  
い。そのため村山さんなどは、軽い氣持  
で、つまり戰場が中國領土であつたとい  
ふ意味で言つた可能性がある。代用術語  
の問題については眞道重明さんのサイト  
の水産雜記(三)にある「濫獲」か「亂獲」  
か<sup>3)</sup>に寄稿した意見書で觸れた。中國が  
もともと金のためなら何でもありの「パ  
クリ」社會であるのなら、日本文字なるも  
のよることの意味があるやつにも思は  
れないのですが、日本文字の意味を知り  
たく一筆する次第です。◎1416(21.1.5)

●一四一六號反響欄で日本文字といふ  
語の意味するであらうところをいろいろ  
擧げて「日本式ローマ字で<sup>1)</sup>でチ、<sup>2)</sup>で  
シを表す類がある。これらは日本人相手  
の表記」と書いたところ一四一八號に長  
い書込みがあつた。へボン式を主張して  
ゐると受取られたらしい。

へボン式と日本式との間には烈しい論  
争があつたので、どちらが正しいかの問  
題であるかのやうに思ひこむ人があるの  
は仕方がない。

手前の案は翻字式ローマ字。擴張へボ  
ン式と稱してゐますが五十音圖にこだは  
る點では日本式以上。ですから擴張日本  
式と稱してもよかつた。かつて日本式の

人に案内したことがありません。

長文の返事の書出しに「實地で歴史的優位を保つハボン式ですが、この方式を擁護する論文はあまりなく」とあったことを覚えてゐます。末尾に「この提案はよい刺激になります。」とありました。相手は Sanzuseiki-no-Mori を井野の Xembho である Sanzuseiki-no-Mori の Romazi no Kusari の Yorimiti である Watasi no Kokugoron といふリンクがありますが、そこに書いてあることを平文で書けば「擴張ハボン式を推す方。メールで意見を闘はせたなか」とあります。

我國の社會及び政治を論ずるブログ SHISAKU に憤れない英語でローマ字のじゅを書いた。これが日本式批判と「これは一番判りやすいと思ひます。讀んで頂けるよめじがたい。」 ①1419(21.1.9)

●ローマ字のじゅが話題になつた。英語 wikipedia の romanization の解説の冒頭をかいた。

In linguistics, romanization (or latinization, also spelled romanisation or latinisation) is the representation of a written word or spoken speech with the Roman (Latin) alphabet, or a system for doing so, where the original word or language uses a different writing system (or none). Methods of romanization include transliteration, for representing written text, and transcription, for representing the spoken word. The latter can be subdivided into phonemic transcription, which records the phonemes or units of semantic meaning in speech, and more strict phonetic transcription, which records speech sounds with precision. Each romanization has its own set of rules for pronunciation of the romanized words.

ローマ字は翻字式 (transliteration) と表音式とに大別され、表音式は音韻論的表記と音聲學的表記とに分けられるとある。従来、我國で行はれてきたのは表音式であった。ハボン式も日本式も表音式だ。ハボン式は夕行の子音を t, ch, ts と書分けるが日本式は t で通す。それで日本式のじゅを音韻論的じゅとじゅがある。同じ t であっても後続の母音じゅじゅじゅと異なるとするわけである。

日本語を知らない人に對してローマ字で日本語の音を示す場合は音韻表記は結構面倒だ。t の音價は後続の母音によつて異なる。もし長音なるものを認めると日本語の音韻は五音でなく十といふことになる。延引記號を「ロン」で表せば、t の場合の t は英語の ch である。u の場合は英語の ts である。a a: e e: o o: の場合は英語の t であるといふことになる。

しかし、音韻論的といふこともちう徹底してゐるわけではない。日本式と言へども促音は調音點じゅに異なる字母を置ける。つまり音聲學的表記だ。

ハボン式が音聲學的表記かといふとジンの両方「ji」を置し、スシの両方「zu」を置つてゐる點では音韻論的だと言へるかも知れない。實際は英語の「j」は摩擦音であり、英語の「z」は摩擦音だ。

擴張ハボン式は翻字式だ。假名を轉寫するのだから長音といふものはない。

表音式と言へども、假名を無視するわけには行かない。或る意味で假名の轉寫でしかあり得ない。それで假名遣が問題になる。

ISO3602 は長音を認めない。しかしそれを依據あるとされる國會議圖書館の Japan/Marc は認めない。但し、あなかつぬ假名にじゅじゅ前處理をするじゅじゅなつてゐる。國立國會圖書館「圖書館員の方へ」のカナ表記要領を参照せよ

りたい。

國語問題協議會報『國語國字』第百八十八號所載の小文「にぎたまのローマ字」の一部をお目にかけます。

現代假名遣のアキレス腱は四假名ですが、ローマ字では長音が問題です。東京都パスポートセンターの説明は「へボン式で長音は表記しない」。へボンは長音を表記した。だから、「へボン式でないので長音を表記しない」と言ふべきです。「大阪」といふのに長音はあるのでせうか。「大」がさうだとするより、「大阪」は *saka* と書くといふことなのか。もちろんさうではない。 *osaka* と書くところを *osaka* と書くと言ひたいだけなのでせうが、これが非常に難しいのです。長音なるものはへボン式や訓令式で書いてみてはじめて存在するものだからです。ですから、精確に言はうとすると、「へボン式で書いてみて、マクロン付の字母が出現したら、マクロン無しの字母に置換する」とでも言ふよりない。

外務省も国土交通省も、へボン式を標榜しながら、マクロンを落とすことを標準だとした。我々が普通にへボン式といふのは、『和英語林集成』第三版の方式なので、正確には修正へボン式のこと。われわれは、修正へボン式を正しく用ゐずマクロンを落とした上に名稱もへボン式と略してゐるわけです。だから、外國の人はマクロンの無いのがへボン式だと錯覚してしまった。

最近、パソコンでマクロン付の字母の使用が可能になり、ウィキペディアではマクロンを用ゐることをもって修正へボン式（以下新米國式とする）と稱してゐる。名稱の混乱もさることながら、ほかに問題がある。へボン式では撥音を *pio* と文脈によつて切替入るのですが、新米國式は *pi* だけで通ず。

しかし何よりの問題は、一體どういふ假名を長音と看做すかといふことが一定してゐないことで、日本人と判断が分かれる可能性があるのです。現代假名遣を轉寫して示せば才列長音には *on* と *oo* の二つがありますが、後者だけを長音だとみて *o* とし、前者は *on* のままとすべきだとする論があるからです。つまり「大阪」は *osaka* で「欧米」は *oubei* になるかもしれない。表音方式でありながら假名を前提として論じることからかかる問題が生じてくる。

へボン式は五十音圖のジのところとヂのところ *ji* を繰り返し掲げておますが、これが間違ひ。ジヂを同一の音韻としてゐるのですから、*ji* の出現は一回でなければならぬ。その一回の *ji* に對してジヂ二つの假名を當てるのはかまはない。音韻数が異なるのだから五十音圖にはなりません。その上、へボン式も訓令式も長音といふことを立てる。長母音短母音といふのが音韻論的區別だとすると、日本語は十母音體系だといふことになる。到底信じられないことではありません。

擴張へボン式は最初假名漢字變換のために工夫したもので *ji* を *chi*、*zu* を *zu* に限定し、新たに *shi* に *chi*、*tsu* に *zu* を導入した。それから *wa* 行子音と *ha* 行轉呼音（語中の *wa*）は區切り符號であつて *a* 段でのみ兩唇半母音の渡り音として實現されると規定し、*wa* 行子音は *wa* で、語中の *wa* は逆アポストロフイ（*wa'*）で表記することとした。同じ區切り符號でも、*wa* 行の場合は音節間のそれであり、語中の *wa* は音節内部のそれだといふ違ひがあります。それから解釋規則といふのを顯在化して、*eu* は *Europe* のそののやうに、*an* は *autumn* のそののやうに發音するとしました。これは語中の *wa* の存在を妨げるものではな

い。iiiの場合にiiが半母音化することについては敢て觸れてをりませぬ。

戦後の國語國字問題は表音派對表意派の争ひであつたやうに言はれますが、表音派實は眞に表音といふことを理解してゐなかつた。傳統的假名遣こそ表音性といふ機能においても正しかつたのです。ある時代の音韻（共時態）を基準として他を否定するのではなく、素直に傳統の眞實（汎時態）に添つてみれば善かつた。

以上、ご参考まで。 ㊦1424(09.1.13)

## 姓名の順序

一四一八號（一月七日）反響欄の荒木純夫さんの「日本語の表記と數値表現」を見てみた。句讀點は横書の場合「（）」と「」と規定されてゐるらしい（JIS Z 8301）。これは知らなかつた。句讀點と言へば誰でも（。）と（）だと思ふだらう。縦組と横組でそんなものを別にすると不便ではないが、（）のことを讀點だと書いた辭書があるとも思はれない。これはコンマとかカンマとかいふものだ。句讀點に當たるものは歐文ではピリカンマ。假名漢字變換でも句讀點とピリカンマを對比しどちらを標準とするかを選択できるやうになつてゐる。

讀點にコンマを用ゐた文書にお目にかかつた記憶がないわけではないが、誤植か物を知らない人の作成したものだからいに考へてゐた。

横組で句讀點を一切使はずピリカンマで代用する場合がある。但しその場合、空白を入れることが前提だ。ピリオドの場合には小數點など空白を入れてはいけない場合がある。字母を節約しようとして句讀點の廢止を考へたものの、さうはできないと覺つて妥協した結果なのであらうか。とにかく役所の横書きの文書でも句

讀點は句讀點のままが普通だと思ふ。

パーキンソンの法則通り、これで役所にまた仕事が出来たとするのは僥目に過ぎるかも知れないが、どうしても現代假名遣や當用漢字表で國民の表記を監視しつつける文化廳のことを聯想してしまふ。

『言葉に關する問答集』總集編など全く無駄なことだと思ふのだが、これがなければ教師は試験の採點すらできないだらう。

役所が決めたことだから正しいとは限らない。役所も間違へることがある。その判りやすい例がローマ字書きの姓名の順序だ。

一四二二號（一月十一日）反響欄でも採り上げられてゐたが文部科學省の國際社會に對應する日本語の在り方（答申）には「ローマ字表記においても「姓 名」の順（例へば Yamada Haruo）とすることが望ましい。なほ、從來の慣習に基づく誤解を防ぐために、姓をすべて大文字とする YAMADA Haruo、姓と名の間にコンマを打つ（Yamada, Haruo）などの方法で、「姓 名」の構造を示すことも考へられる。」とある。

實際、國會議員會館の扉の議員名の表記はこの最後の方法だ。しかし、辭書をある程度つかつたことがある人なら、Mt や St など、配列に無關係な部分を後置する場合にコンマを用ゐることを知つてゐるはずだ。コンマは前後を入替へたといふ意味。姓で並べる場合、英米人であれば轉倒した表記になるから當然コンマを入れる。だから、その眞似をするといふのなら、これまでの慣用以上の英米追従だ。議員會館の轉倒した表記は外國人には逆の意味に受取られるか、コンマの意味も知らぬのかと侮りを受けることにならう。 ㊦1425(21.1.15)

## 常用漢字表など廢止するに限る

一月十六日、ニューヨークで飛行機がハドソン河に不時着した。鳥が衝突したためだとアナウンサーが言ふ。一瞬間な大型の鳥なのだらうと思った。飛行機が鳥の群に突っ込んで何羽もエンジンに吸ひ込まれたためだらう。

strikeを譯したものだらうが「衝突」といふ語に對する感じ方がまるで違ふ。漢字制限下の教育で育ったせいだ。

私も漢字制限下で育った世代の一人だが、子供の頃の本は戦前に刊行されたものしかなかった。今の人は漢字制限下で刊行された本しか知らないはずだ。

十七日の新聞に常用漢字表改訂原案なるものが出た。「銚鍾勺勿脹」の五字を削除し、新たに百九十一字を追加することのこと。廣く一般から異見を募集し最終的に平成二十二年二月頃に結論を出すといふ。削除候補をみれば過去のことと言語空間からも削除して構はないといふ安易さが窺へる。これでテレビの時代劇がまた一層つまらなくなることを請合ひだ。

漢字が技術的桎梏と感じられてゐた時代にあつては漢字制限論者の意圖に拘すべきものがなかつたわけではない。しかし今その桎梏はない。だから常用漢字表の改訂作業などパーキンソンの法則によつてしか説明できないだらう。一般の國民は無視すればよい。しかし教育界は混亂するだらう。

漢字のことはあまり關心がないので、假名遣の例を擧げると、絆は戦前キツナであつた。昭和二十一年の「現代かなづかひ」でキズナとなり、昭和六十一年の「現代假名遣」でキツナでもキズナでもよくなつた。

手許の國語辭書（平成十四年刊行）では當然のことながらキズナで立項されてゐてキツナで引き當てることはできない。

平成七年發行の『言葉に關する問答集』

總集編には次のやうにある。（引用も支障のない限り傳統的表記）

「ず」と「づ」の書き分けも、基本的には前書「じ」と「ぢ」の書き分けと同じである。すなはち、原則として「ず」を用ゐる中で、「同音の連呼」によつて生じた「づ」と「2語の聯合」によつて生じた「づ」の2つが例外で、「づ」で書き表す。

まづ、「同音の連呼」は「づみ(鼓)」「づく(續く)」などがその例である。歴史的假名遣で「ひとづつ」と書くと同音の連呼のやうであるが、「このづつ」「はいつも」「で終わる數詞の後に付くわけではなく、「十ずつ」「少しずつ」「半分ずつ」なども用ゐられるので、同音の連呼とは言へない。

次に、「2語の聯合」であるが、「こどもづくえ(子供机)」「きつかれ(氣疲れ)」などがその例である。しかし、「ずつ」「は、今日、つつ」と言ふことがなく、常に濁音で現れるので、2語の聯合とはし難い。そこで、「ずつ」「づつ」「つづつ」と書くわけである。なお、2語の聯合については、實際問題として、語の構成に對する分析の仕方でも相違も出る。

「現代かなづかひ」では、次のやうな語は、「2語の聯合」と認め、「づ」を用ゐることとしてゐる。

あいそづかし かたづく  
とつて たづな 等

また、次のやうな語は、現代語として語構成の分析的意識がないものとして、「ず」を用ゐる「と」にしてゐる。

うなずく おとずれ おのず  
からきずな 等

要するに、「たづな」「づ」を用ゐる「きずな」に、「ず」を用ゐるあたりがその境目である。

つまり、昭和六十一年の現代假名遣以



前の考へ方が平成になってから再度公的参考資料として記載されてゐるわけだ。

似たやうなことは漢字にもある。break rankを手許の英和辞典は「落後する」と書く。手許の國語辞典では「落伍する」だ。ただし「伍」には常用漢字表にない字であるとの印がついてゐて「落後」は代用表記だとある。

「落後」は別の意味の語だから、これが代用表記とされるについては何か文部省の方で決めたことがあったに違ひない。それが何時であり、何時沙汰済みになつたのかをつまびらかにしないが、英和辞典の表記は、そのときの國語辞典に従つたためだらう。

英和辞典が文部省の表記改革にさう丁寧に付合つて来た可能性はないからだ。小學生用國語辞典は今でも代用表記だ。どうも表記に関する朝令暮改の結果が時差となつて小學生用國語辞典や英和辞典に残つてゐるやうだ。役所が言語の運用を指圖しよつといふのが間違ひだった。常用漢字表など廢止するに限る。◇1428(21.1.19)

## A L Tは廢止すべし

一四〇六號の反響欄でA L Tは廢止すべきだと書いた。補足したい。A L Tはもともと黒字減らしのためにはじまつたとされるもの。ネットで調べるとかうある。

A L T受け入れの母體になつたJET Program が Plaza 合意(昭和六十年)および前川レポート(昭和六十一年)を背景に、日米貿易摩擦を解消する手段として、外務省の主導で成立したことは確かなやうです。… 下記の高橋美津子氏(通譯・翻譯家・英語教育者)が神戸松蔭大學に提出された學位論文の五十八頁(論文ページでは四十七頁)には、明確に書かれてゐます。

實際には white elephant (お荷物) であり、自分達が何の役に立ってゐるのか納得できないままに歸國する人もあるはずだ。國費を投じて自國を侮蔑する外國人を育てる結果になつてゐるのではないか。 구글で「外國人指導助手」と「效果的活用」とを and 検索すると膨大な数のヒットがある。まだ方法が検討中であることを窺はせるものだ。

語學教育がたとへ華道や茶道のやうな實技教育であつたとしても、こんどは如何なる流儀かが問題になるから出身地などを限定しなければならぬ。

語學教育が實技教育であるとすると、たとへば written English であれば字の上手下手が問題になる筈だ。しかし、視覚言語としての英語では字は正しいか間違つてゐるかであつて、上手下手はまた別の問題だ。 spoken English でもそのやうな單位があるのではないか。これが、小著で訴へたことでした。

高給を拂つてでもしつかりした外國人教師に習ふべきレベルもあるのかも知れない。しかし公教育の場合には廢止するのがよいと思ふ。◎1431(21.1.22)

## オバマは黒人にあらず

前田さんのひそみにならつてセンター試験の英語の問題をみてみた。それで思ったことが二つある。一つ目は同一の綴りを含む複数の語を擧げて、該綴りの發音の他と異なる語を選べといふ問題について。

一四〇六號反響欄で小論を讀んで欲しいと書いた。ここにあるのは第一部と第二部。後段に次のやうに書いた。

試験問題に「次の語のうちで下線部分の發音が異なる語を選べ」といふのがある。發音のことを紙に書かせて何になるかといふ批判を聞くことがある

が、これは言い換へると「次の語のうちシボレスはどれか」といふことだ。つまりは英語の綴りの文法の知識を試してゐるわけで、英語の習熟度を知るまじつに格好な問題だといへる。

順序が逆になるが、シボレスについては次のやうに書いた。

舊約聖書に次のような件がある。

And when any of the fugitives of Ephraim said, "Let me go over," the men of Gilead said to him, "Are you an Ephraimite?" When he said, "No," they said to him, "Then say Shibolet," and he said "Shibolet," for he could not pronounce it right; then they seized him and slew him at the fords of the Jordan: and there fell at that time of the Ephraimites forty and two thousand. (Judges 12:5-6)

エフライムを逃げ出した者が、「渡らせてほしい」と言つて来ると、ギレアド人は、「あなたはエフライム人か」と尋ね、「さうではない」と答へると、「ではシイボレットと言つてみよ」と言い、その人が正しく発音できず、「シボレット」と言ふと、直ちに捕らへ、そのヨルダンの渡し場で亡き者にした。そのときエフライム人四萬二千人が倒された。

私ならシボレットはチボレットと譯したいところだが、とにかくシボレスは部族によつて發音が微妙に異なる語だった。

この故事に由來して、シボレスは合言葉といふ意味で使はれる。

筆者はヨーロッパ辭書學會のセミナーで、外國人をして發音を惑はせるような綴りの語を shibolet と呼ぶことを提唱したことがある。シボレスとみるかどつかは、綴りの文法をどこまでみる

かといふことと表裏をなすことである。以下にその例を掲げる。

break, great, steak, year, bear, pear,  
swear, tear (v.), wear

...

だからこの種の問題にも教育的効果があると信ずる次第。

さて二つ目であるが、ある程度の長さの英文を掲げた問題の中に學習者はすべからく英々辭典を使ふべしとするものがあつて、我が意を得たりといふ氣がした。英和辭典で譯語(對當日本語)を見るだけでは、英單語の意味を正しく知ることが難しい。英々辭典なら water が日本語で湯でも水でもあることが判るといふのである。

二つ目で聯想が跳ぶのであるが、今はさう牧歌的な時代ではないといふことを思ふ。ひまつとしたら、湯のことを水と呼ぶやからが出てきはないかといふことだ。かつて「勝つ」といふのは「負ける」と對の語であつた。win the race は「一等になる」とか、「優勝する」とか譯すしかなかつた。今は競技で一番になることを「勝つ」といふ。日本語が變つたわけだ。オバラは本來日本語で言へば黒人ではない。どつ考へても混血であつて、我々からみれば白人の血も入つてゐるのだから、白人と呼ぶことも同等に可能であらう。一滴でも黒人の血が混ざつてゐれば黒人に分類するがごとき極論があるのは米國の特殊事情。それを我國が受賣りすることはない。第一、我國には外國人を皮膚の色で區別する理由などないのだから、黒人大統領などと形容詞を關することは端から無用のはずだ。

オバマ大統領の執務第一日目のことを NHK のアナウンサーは「事實上の初日」と言つた。事實上 (de facto) は法律上 (de jure) と對の語。まだ正式の大統領ではないのかと思つたら、宣誓のやりなほ

しがあったからなほならやせじこくな  
た。しかし「J」の「J」も「日本語がぞろ  
べい」になってきておる。誰に「やせじこ」感  
られる。

英語教師には國語力が必要だと強く思  
ふ次第。 ◎1434(21.1.25)

## Jyunichi 才變だ

一四三七號所載の「エ丁化高齢者の恐  
怖」に「アメリカでは躊躇ふことなく外  
國人が全員自宅にPCを置き、メール・  
アドレスを持ってゐる前提で新たなヴィ  
ザを與へるシステムを導入した」とある。  
ハードについては彼我に差があるとは思  
はれないのだが、メール・アドレスとな  
ると大きな違いがある。

それはローマ字の方式が確立してなく、  
名前の音もしくは假名がわかつて、ロー  
マ字表記はまったく見當がつかないとい  
ふこと。ローマ字方式が確立してゐないこ  
とは外國人にとつてもやっかいだと、これ  
は朝日新聞社「AERA」(平成十二年七月  
十七日號)の「Eye on Japan」で Andrew  
Horvat という人が述べてゐることだ。次  
のやうな箇所がある。

When my friend Junichi gave me his  
e-mail address, I was in for a shock.  
His name was spelled "jyunichi."

「J」Y の結びつきをなす者へる「J」も「や  
せ」ものだと「ふ」じよがわかる。マ行や  
ラ行に濁點がついたやうなものと「ふ」は  
みだらうか。英語母語話者はむしろ「ふ」  
感覺をもつてゐるわけだ。

ホロヴァット氏はまた次のやうに書く。

Today, romaji is the language of the  
Internet. Japanese software engineers  
who cannot input in romaji are un-  
able to compete with Indian, Filipino

or bilingual Israeli engineers, who have  
learned the Latin alphabet properly.

Worse yet, Japanese companies  
whose Internet addresses are spelled  
according to no known system will  
lose business. Such losses may already  
have cost Japanese companies trillions  
of yen.

ローマ字のせいで何兆圓もの損失だと  
いふのだ。確かにメールアドレスを電話  
で簡単に傳へあへる人にてあふことなど  
めつたにない。アルファベットが表音文  
字であるといふ根本的訓練がないから「  
」と「Y」の結びつきにショックを受けること  
もないわけだ。英語教育の前にローマ字  
教育がある。ぜひローマ字の方式につい  
て検討してほしい。 ◎1439(21.2.1)

## 「障害者」の表記について

一三七四號(二十年十一月九日)の反  
響欄で平井さんが「障がい者」といふ表  
記のことを問題にされた。

障害者の「障」の字の使用を制限したた  
めに代用表記の障害者としたところ、書  
は障害者を邪魔者にしてゐるやうだかか  
ら「障がい者」と表記する。その氣持は  
判るが、何時もの平井さんと同じでは  
や歯切れが悪いけれど、「」のやうな態を  
繰り返して日本語を壊すのだが、「べ」じせ  
GHQの指令だらうといふところ、  
もせうではなく、GHQに便乗して表音  
主義者がやったことのやうに思はれてな  
らない。醫療用語が判りにくいから「言  
換入案を考へる役所が今でもあるからだ。  
と」らで、その次の號にこの問題につ

いて埼玉のN生さんから、何か別の表現  
を工夫したらどうかといふ提案があつた。  
それが結局傳統を斷つこととなるのだと  
思ふ。第一、判りやすじよがそれほど  
大事なことなのだらうか。醫療用語など

は判りやすさより精確であることが重要だらうし、専門術語が一般の人に通じないことにも效能があるのだと思ふ。食事時のニュースなど、「刺し殺す」と判りやすく言ふより「刺殺」と漢語で言つてもらうた方がよい。◎1377(2011.11)

### 王様は裸だ

麻生内閣がたうとう議員定数削減のことまで言ひだした。國語問題も自分達の保身を考へずにやつてもらひたいものだ。

國語審議會でなく、今は文化審議會國語分科會と言ふらしいけれど、委員は國語研究所出身者であつたり、大學の人であつたり、とにかく文部當局の人が多い。戦後の國語行政の基本のところを質問したりするやうな人は排除してある筈だ。

一月二十九日の文化審議會總會で里中満智子委員が地面はデメンではないかと素人のやうな質問をしたのは當局としては豫想外だつたのではないか。いぶかしく思つてネットで調べたら彼女は著作權分科會分屬であつた。里中委員の質問に對する回答は「現代假名遣ひは多くの人に分りやすい書き方を定めてゐる。知識のある人ほど矛盾を感じる」といふもの。友人は「現代假名遣で執筆するには馬鹿にならないといけないといふことですね。いや大變だ。私は死んでも御免ですよ。」と言ふ。いや、矛盾を感じるのに知識は必要ない。里中委員は「王様は裸だ」と叫んだだけのこと。文部省式は分り易くはない。單に假名字母を節約することが大事だといふ考へを刷り込んで矛盾を矛盾だと感じなくしてゐるだけだ。膨大な國費を投じて國語の感覺の狂つた國語教師を育て、全國民の感覺を狂はせてゐるのが今の公教育だ。國語の感覺をまだ損ねてゐない人も、つまり變な知識のない人なら誰でも矛盾を感じるはずだ。

文部當局の寄つて立つ究極のものはチとジとは同音だといふこと。ローマ字で書き分けなければならぬ。假名以上にアルファベットのの方が破擦音と摩擦音の區別は鋭い。それを區別しないローマ字の方式にこそ問題があつた。表音主義者は音を主とし表記を従としたから、國語の先生は教へることがなくなつた。戦前のやつに正書法(語によつて同音の假名を書き分ける)といふことがない。そのやうなものに煩はせられなくてもよしとしたのだ。だから國語を教へるはずが内容ばかりを問題にする。一度、小學校の國語の研究授業を見る機會があつたが、驚いたのはコミュニケーションといふことを標榜してゐたことと、太郎や花子の行動の意味を問ふ一種道德教育のやうなものであつたこと。試験問題は作成するのも大變だらうが採點するとなるとなほ大變だらうと感じたものだ。三つの教室を見たがどこでも文字の書き方や読み方を教へることとはなかつた。

實際、音聲が基本であり、言語がコミュニケーションのためのものであれば文字の必要はない。コミュニケーションは水平方向のもの、同時代だけが問題だ。文字は垂直方向のもの、傳達を可能にする。人類にはDNAに蓄積された情報のほかに、外部記憶装置に蓄積された膨大な情報がある。その利用法を次世代に傳へること、教育とはさういふものではないのか。常用漢字表における削除候補をみれば、文部科學省はさう考へてゐないのだ。

假名字母の節約の結果、戦前の漢和辭典でチであつた「地」の音が今は殆どの漢和辭典でジだ。前に常用漢字表を廢止すべしと書いたが、もし廢止すれば漢和辭典も作りかへねばならなくなる。常用漢字表を廢止すればデータ検索で字體の違いを氣にせずに済むし、漢字圏からの留學生にとつても朗報であらうが、教科書を

はじめ國語辭典や漢和辭典の改定など膨大な作業を伴ふことを覺悟せねばならぬ。出版業や印刷業にとつての内需擴大とみることはできないか。 ①1445(21.2.8)

### Jyunichi ち變だ(一)

(一四四五號反響欄に)「私達 日本人の感性から言ひますと、ju(ジュ)とjyu(ジユ)とjyu(ジュ)とjyu(ジユ)は、構はないうやうに思ひます。たしかに、jyu は、y が入つてゐる分、ユ音がダブるやうな氣もしますが、各前で、博、博士、これは、じちらも、ヒロシですが、最初、博士を見た時、ヒロシ、と思つたが、これでヒロシと讀むんだと聞いて納得したことがあります。そんなふう考へていけば、ju と jyu の差異は氣になりません。最近、日本食が世界的なブームになつてゐるやうですが、以上のような日本的感性も日本語のローマ字表記の世界に、もっと自信をもつて取り入れてほしいと思ひました。さらに本音を申し上げると、ju よりも、jyu と表記する方が日本人には表記しやすいやうにも思へるのです。…英語の know の k が音として脱落しているやうに、ある事情があつて、jyu の y は、zyu の形式に倣つただけで、實際は、jyu の y の音は音としては脱落して考へると説明して、違和感を感じる外國人の方に、納得していただきたいものです。日本語の音韻事情からそのような表記になつてしまつた自然な事情を、そのやうに説明することで、誤解なく納得していただけるのではないかと筆者は思ふのです。」この投稿)

アルファベットは letter、これはは元來音の單位をも意味した。ですから一字一字發音して行く。わじやうじのあとの y でつまつくといふだけのこと。英語ももちろんこれが原則。御説に従へば日本人に學びやすいように英語を變へてしまつ

てかまはないではないかといふことなる。もじらな、英語だこの原則が貫徹してゐるわけではない。閉鎖音に始まる重子音は該子音が流音でない限り頭の閉鎖音を發音しないといふ規則があるからです。know だけではありません。gnomon, bdellium, Ctenoid, knight, pneumonia, psychology, ptomain, xylophone などへくわひなのじや。true, plural では發音する。

せめてローマ字のやうな場合は規則は簡單であるべきだとするならまだしも、ローマ字の場合にわざわざ規則を複雑にする必要はないと思ふのです。

我々は親を選ぶことができない。母國も母語も、そこに生まれ落ちるもの。外國語を學ぶ場合も、謙虚にそれを受け入れるしかない。表音主義者はさうは考へない。常にリセットしてその時点で最適なものを求めて行かうとするわけです。常用漢字表の改定が永遠に繰り返されるのはそのためです。傳統をそのままに、それに寄りさふといふことをしない。さうしてみると、その合理性がわかるはずなのですが。

ホルバット氏が損失を兆の單位とされたのは平成十二年。今は如何ほどになるのでせうか。なほホルバット氏はへボン式の缺陷はおわかりでなかつた。だから假名の問題を抜きにしての算定。假名のために國語教育が被つてゐる損失ははかり知れない。試験問題のことを書いたのはそのためです。 ①1446(21.2.9)

### Jyunichi ち變だ(三)

子供はローマ字のことを英語といふことがある。文字と言語はまったく別であるから、この言ひ方は間違ひだ。しかし何がしかの眞理を含んでゐるとも言へる。とにかくローマ字教育と英語教育は密接な關係があるのは事實だ。

しかし、今のローマ字教育はそんなことには斟酌しない。純一を Jyunichi のやうに綴る人もあるのはその結果だと思ふ。しかし、このやうな綴りは「と」の結びつきからして英語母語話者には不可能だといふことを書いた (1439 号 09.2.1)。

これに對して新埼玉さんより「jyu でもかまはないではないか。いやむじら jiu より jiu の方が日本人にとっては自然なのだ。このやうな日本人のローマ字表記を積極的に認めるべきだ」といふ趣旨の主張があつた (1445 号 09.2.8)。

それで「日本人に學びやすいやうに英語を變へてしまつて構わないではないかといふことになる」と書いた (一四四六號)。

しかし、そのやうなことは言つてないと仰せになる。もちろむ、そのやうな發言はない。ただ御主張の筋を追つていくと、英語を改良して構はないといふ主張と同じことになると思つた次第。しかし今回の御主張を拜見して、筋が見えてゐなかつたことがわかつた。英語とローマ字とは單音文字による表記といふ點でも共通ではないとされるのだ。これは「英語と日本語の音韻の言語上の差異に起因する表記差異」以前の問題の筈。

ではそもそも何故英語の表記のことを問題にされたのか。一般に外國語の入門書は最初にアルファベットの一覽表を掲げ、字母の名前 (nomen)、形 (figura)、音價 (potestas) とを説明する。なつてないのは英語だけだ。要するに英語が單音文字表記だといふ認識は一般に薄い。ローマ字を單音文字とせず、恣意的記號とみて、その意味は假名との關係で別に規定することは確かだ。それで英語の學習のときもそれであると非常に効率の悪いものになる。英語の力がついてきて、どうもローマ字とは違ふやうだと氣づく

と 1447 號 (09.2.9 夕刊) 反響欄の松戸市在住の異邦人子の奥方のやうに「ローマ字を習はなければ良かつた」といふ氣持になるのは當然だ。

歐米人でラテンアルファベットを本來とする複数の言語を操る人の場合、大抵は訛るのではないかといふ氣がする。つまり letter を媒介にして干渉が起ころだらうと思ふ。

英語について單音文字による表記であるといふことに御異論はないのか。またローマ字が單音文字による表記でないとした場合、一體いかなる原則に基づきどのやうな人が用ゐるものなのか。もし外國人に説明するとして假名が使へないときはどのやうに説明なさるおつもりなのか。いやそもそも單音文字による表記といふものをどのやうにお考へなのか。

單音文字表記といふことについては「letter が音の單位でもあつた」といふこと以上のことは書いてゐない。單音文字では音價と名前は原則的に同一だ。いや單音文字に限らない。音節文字つまり假名でも同様。イロハのイの字の名前はイであること明白。abc の a がエイであるのは、e の字の開音節における音そのものだ。子音の場合は名前として自然にある響き (母音) を伴ふ。p や t の名前は、それぞれ pe te だ。この e は英語の開音節ではイーだから字母の名前は即ちイー、ティーだ。s の場合は、e が前について es だ。e の閉音節における音價はエだから s の名前はエスだ。

「の」の名前は ja だ。ここに「の」の特殊性がすでにある。また y の名前は wi だ。ここにも特殊性がある。かういったことがわかつて來ると、また御主張される綴りの合理性も見え方が違つて來るかもしれない。

それから、jiu の合理性は昭和二十年代の人ならわかる筈だとの御主張は、別

の世代の人は又その世代なりに最適な方式を工夫すればよいとされるのか。いや、訓令式にもヘボン式にもない *ジヨウ* という表記が合理的であるとする授業をもし受けられたとすれば、それはきはめて特殊な経験で、お手前の教室だけだったかもしれない。全国はおるか全校に及ぼすのも勇氣がいるやうに思ふものです。いや、この議論は、そもそも、教へる場合の方式についても等しく考へることではないのか。もしさうであれば御自分の授業の體驗はいったん括弧にくくって議論の場に持ち出すべきではない筈。

なほ、ジイといふ表記ですが、これを何を表すのかまつたくわからない。昨年、岩波書店に質問の葉書を出したことがあつた。次のやうなものです。

先日、孫への土産に『ナルニア國物語』を求めて讀んできかせようとしてのでございますが冒頭の人名表記にまついてしまひました。ルーシーといふ名前です。これは如何なる音を表してゐるのでせうか。瀬田貞二先生の原稿からさつなつてゐるのでせうか。ルーシーがルーシーなら判るのですが、ルーシーばかりは見當が付きません。

當方、擴張ヘボン式なる翻字式ローマ字を提唱してゐて、五十音圖にあるものは悉く翻字できる方法だと自負してをりましたが、こればかりは思案の外で御座いました。諭吉はミツツルカラスと書いてゐたのにミツズルカラスと書いてゐたことになつてゐること、これについては北郷山人のサイトの月譚「遠景」(十七年四月十日)を参照いただければさいはひです。ニ云々

なほ、三文字による拗音表記は自然に身につくと仰せですが、幼児をみてゐるとなかなかさうではありません。まだよちよちあるきの段階では必ず三文字を別々

に讀む。歴史的假名遣で二文字の方が簡単かもしれない。謠曲で曾我十郎の十はジフ。現代假名遣だとジユウと三文字かも知れない。この最初の音をジと發音しないと何度も直されたといふことを聞いたことがある。

現代假名遣は各自最適な表記を工夫できるのが原則なのでバベルの塔を招來したわけだが、ローマ字では、それに輪をかけて大變な状態だ。吉祥寺の場合、*チ*に *ti, chi, ショー* に *zyou, zyo, zyo, zyo, jou, jo, jo, jo, jyo, jyo, jyo, jyo, jiô, chi, zi,* の組合せで四十八通りの表記があることになる。

外國人はローマ字を單音文字表記と見る。異なる綴りは異なる音を表すわけだ。つまり別の地名になる。いづれにしてもさう覺悟すべきだと思ふ。もっとも、この覺悟は今の爲政者にもないのですが、以上筋が見えないままに一筆致しました。妄言多謝。

最後に、當方の舌足らずだつたと思ふところを少し補足します。

用語では流音と閉鎖音。流音は liquid の譯語。『と』の總稱。閉鎖音は破裂音と言はれることが多かつた。閉鎖したものが破裂して音となる。母音が續けば破裂音となる。子音が續けば破裂しない。この傾向があるから重子音のときに最初の閉鎖音が消滅することは自然なこと。流音は純粹の子音と異なり母音的機能を持つてゐるわけだ。

國語表記に準へて言へば英語の綴りは歴史的假名遣で現代假名遣に當たるのは發音記號による表記といふことにならう。音を基本とした發音表記は一つの語に對して種々異なるものになる。現代假名遣も方言による書き分けを一部認めてゐたこともあるが、とにかく「表記のぶれ」を許容する。英語の綴りにも規則があるの

ではと考へたものの一つが閉鎖音に始まる重子音のことであった。xylophone について言へば、x は k+s だが、強母音の前では有聲化するので g+z の g が發音されずザイロフォンとなるわけです。ついでながら anxious の場合 an k s i o u s となる。前半の n は k の前なので軟口蓋鼻音となる。語尾の o u s は全體として弱化しアスとなる。弱母音の前の i は口蓋化し、直前の齒莖音を同化するのでシャスとなる。それで結局アंकシャスとなるわけだ。つまり xylophone も anxious も發音記號で書けば全く異なる表記になるがアルファベットの組み立てで説明できない發音ではない。

語末の o u s がアスだと書いたが母音連続は単一の母音を表すことが多い。ロドリゲスの場合を見ると、アクセント符號を用いて母音連続をたたみ込んである。この方式で表されたものを一般に長母音と呼ぶが、どうも母音連続を減らすのが本来の機能だったのであるまいか。といふのも、日本語の母音連続はたたみ込んでよい場合とさうでない場合が明確に區別されてゐたからだし、また用ゐられたアクセント符號には二種類あって、元來は長短二種のアクセントを示すものであったからだ。

だから、歴史的假名遣を不合理として現代假名遣なるものに切り替へたことが、かへって合理性を損ない、ローマ字に翻字したとき讀みにくいものとなった。

◎1448(21.2.11)

## 文部官僚の面従腹背をこそ

平成二十一年二月二十一日土曜日の日本經濟新聞最終頁の文化欄は「ネット時代の書き言葉論争」といふ題で國語の未來をめぐる諸氏の議論を取上げてゐる。しかし戦後の國語行政に觸れたものがないのが不思議だ。

同じ日の夕刊一面のコラム「あすへの話題」は物理學者にして俳人の有馬朗人氏の「教師の情熱」。濱松中學三年のときに敗戦。戦災で焼け出され教科書などは全くなく、ノートもからうじて手に入れた藁半紙であつたとき、國語の三浦利三郎先生は萬葉集から授業を始められた由。三浦先生は「よく聞きなさい」と言つて、「籠もよ／み籠もち／掘申もよ／み掘申持ち」と讀み、漢字や難しい言葉を黒板に書く。「書きなさい」ともう一度讀み上げる。生徒は一生懸命書き取る。先生はもう一度讀み上げる。ちゃんと書き取つたか確かめさせた後、言葉の意味や、歌の解釋などさまざまな話を付け加へて下さる。

かうやつて三年のとき萬葉集、四年の一二期は古事記の出雲神話の一部と日本武尊の東征から白鳥になるまでの話、三期は奥の細道の初めを學んだといふ。教科書はなく、先生の聲と目と手で進められる授業は遅々として進まなかつたが、一語一語が心や體にしみこんでいったさうだ。敗戦直後、日本文化に對する痛烈な批判が充満し、萬葉集、特に古事記は、誤れる皇國神話として唾棄されんばかりであつた時代であつたにもかかはらず三浦先生のこのやうな授業を受けたお蔭で萬葉集の歌の美しさ、古事記神話の面白さ、奥の細道の素晴らしさを學ぶことができたと有馬氏は言ふ。

そして、教師の情熱の大切さ、教育は量の多寡が問題ではなく最小限でも教へたことをきちんと覚えさせ、その知識を基に、自ら學び考へ應用していく力を身につけさせることだと結んでをられる。

では今の授業はどうなのか。まづ三浦先生のやうな存在は難しくなつてゐると思はれる。有馬氏の場合は小學校から歴史的假名遣で教はつてゐたことも忘れてはならない。今は全國民が漢字を初め、歴



史的假名遣など否定されるべきものとして刷り込まれてゐるわけであるが、國語教師となると一層その度が進むはずだからだ。

翌二十一日のテレビ朝日の日曜討論、出席は櫻井よしこ、西部邁、中谷巖、姜尚中の諸氏。司會者の「日本の依つて立つものは」といふ問に對して、違つた表現ながらも伝統のことを言はれたし、中には國語のことに觸れられた方もあったが、やはり表記のことへの關心は低かつた。といふのも、姜先生に對して「キヤウ先生」といふ呼びかけをした人が一人もなかつたからだ。いや、近い間柄であれば、現地音で呼ぶ關係になるのは當然。しかし、だからと言ってアメリカ人に「Joins」をイエスと言へといふ人はあるまい。まあキヤウとカンと同じ漢字の日本語と朝鮮語による違ひだからまだしも、現地音主義を互恵主義でやるなら、我が國の名前は訓もあるのだから、それをしも日本語式に讀めといふのであらうか。

「ネット時代の書き言葉論争」にも古典教育の重要性の指摘はあつたし、元文部大臣の有馬朗人氏をはじめ識者はみなそのことを言ふ。新しい學習指導要領にも「傳統的な言語文化に關する事項」として、「親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大體を知り、音讀すること。」が採り上げられた。ではすべてはその方向に向かつてゐるのであらうか。

實は新指導要領解説なるものが存在する。その中に「神話・傳承については、古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に傳はる傳説などが教材として考へられる。その際、兒童の發達の段階や初めて古典を學習することを考慮し、易しく書き換へたものを取り上げることが必要である。」とあり、また「古典を解説した文章を讀むことによつて、そ

れぞれの時代における人々がどのやうなものの方や感じ方をしてゐたのか、傳統的な言語文化がどのやうに變遷してきたのかを、生活や文化とともに知ることができる。解説の内容を基に、昔の人々の生活や文化など、古典の背景をできる限り易しく理解させ、昔の人のものの見方や感じ方に關心をもたせたり、現代人のものの方や感じ方と比べたりして、古典への興味・關心を深めるやうにすることが重要である。」ともある。要するに内容を問題にしてゐるのだ。國語は形式の問題。まして古典はさうだ。換骨奪胎も極まれりといふべきだらう。

「言葉は、時間の経過によつて變化する。兒童は、傳統的な言語文化に觸れるうちに、古典の言葉の中には、自分たちが普段使つてゐる言葉とは同じではないものがあることに氣付く。それが「時間の経過による言葉の變化」の結果であることを押さへ、自分たちの言葉への關心を深めるとともに、そのやうに變化する言葉の特質に氣づくこと。」といふころもある。これこそ表音主義者のテーゼだ。霞ヶ關の叛亂を言ふなら、文部官僚の面從腹背をこそ問題にすべきではないか。◇1456(21.2.25)

### 「未曾有」の讀み

未曾有はミゾウウと讀むのだと思つてゐたけれど、我が假名漢字變換ではミゾウでないと言換されない。どうもミゾウといふのが正しいとされてゐるやうだ。昭和十四年の誕生まれ。小學校入學は數へで八歳だから昭和二十一年。戦後教育の一期生。漢文は少ししか教はつてゐない。高校のときに廣島高等師範卒といふ老先生のガリ版刷りの教材による漢文の補講があつた。しかし、ミゾウウといふ語は會話の中で覺えたものかもしれない。

先日、或る酒席で未曾有の読みを話題にしたところ三拍に讀むといふ人が結構あったので驚いた。講談社『大字典』には「曾」は漢音ソウ、呉音ソウとある。ミソウでは「有」が落ちてしまふ。しかし、三省堂『新明解國語辭典』にはミソウウではなくミソウで立項されてゐる。但し、末尾に「最近、歴史を忘れ、ミソウといふ文字讀みをする向きが多い。ミソウも誤り」とある。辭書で「…も誤り」とあるのは、もう無視できないほど一般に行はれてゐることの證左であるから、ミソウウもミソウも選ぶところは無い。しかし何故誤りの方で立項するのだらうか。表音主義者のせいだ。編集部には「憂鬱」といふ語が無いと問合せがある由。ユウツで引くののださうだ。最近、早すぎて聞きづらいことが多いが、未曾有がすでにさうであつたわけだ。 〇1491(21.3.27)

## 官叩きの風潮

千五百號達成おめでたう御座います。巻頭記事「海千山千を知らない」とはいつもながら園田さんに對する哀惜の念のにじみでたもの。今の政治家のために爪の垢でも残つてゐればといふ氣持になります。ところで或る外務官僚が「海千山千」を知らなかつたといふことを一般化してよければ、高學歷の人における國語力の劣化はすでに當時から顯著であつたわけだ。

最後に「官僚を使いこなせる海千山千は與野黨のどこにもいない。舐められっぱなしだ。」とあるところ、そのやうな官僚に政治家を手玉にとるやうな藝當ができるのでせうか。

千五百二號巻頭記事「マスコミ用語の變遷」は世の師表たる人々の用語が如何に意味と乖離してゐるかを説いたもの。不透明といふ表現について「小澤が辭めるか否かは不透明ではなく御本人も決

斷できない状態であるのだから不透明といふべきでなく「判らない」と書くべきだ」といふあたり、思はず膝を叩きましたが、國語力の劣化は官僚やマスコミだけの問題ではない。驥尾に附して言へば「緊張感をもつて」ではなく「緊張して」と言つて欲しいし、説明責任といふ言葉も判らない。どうも「責任をとる」といふことは異なるやうだ。「緊張感をもつて」だと緊張すること自體が目的になつてしまふ。

『諸君』五月號で長谷川三千子氏が水村美苗『日本語が亡びるとき』を取り上げて、現地語こそ力の淵源であることを説いてをられるが、「海千山千」も現地語だ。さう考へてみれば、今評判の「犬と私の10の約束」の10「これがトホでなく、山堂さんのチャンの言葉でジフと讀まれてゐることの異常さはやはり氣になつて仕方がない。戦後の表記改革は學校教育ばかりでなく家庭における現地語をも劣化させた。

千五百二號の山堂コラム「犬も食はない男の涙」は民主黨代表たる一番ハッター「イチロー」の涙をいはばワニの涙と斷じたものですが、官僚作文の狡猾さを槍玉に上げて、公務員制度改革の實があがらないことを嘆じてをられる。

官僚にさう言はれるだけのことはあるのでせうが、しかし官僚の抵抗は絶對的に悪だとするマスコミの論調と同じやうなところが氣になります。

昨年、杉並區の小學校屋上で採光用天窓から生徒が墜落した。それで役所が指示した対策には落下を防ぐネットを張れといふのがあります。そのネットについての仕様はどうなつてゐるのか。強度の經年變化は天窓の強化プラスチックに比べてどうなのか。ネットを張るといふことは、さういふところでの遊びを認めることに通じる。むしろ、さういふ箇所は

危険であると教へるに如くはないのではないか。

官僚の制度設計、抵抗する側に個人的な意圖の働く餘地は少ないと思はれます。制度設計は生涯賃金で測るもの。私企業に行つて巨萬の富を稼ぐ頭腦を國家經營の方にもつてくる日本の制度は素晴らしいといふ論がかつてはあつた。制度疲弊が起きてゐることもあるでせうが、結局は運用の問題。ただ、かうまで官僚であること自體が悪であるかの如き論調がはびこること、これこそマッカーサーの狙つたことではなかつたかといふ氣がします。虎は死して皮を残し、人は死して名を残す。國家百年の計に携はるとなれば業務の繼續のために省益を主張する場合もあるはず。天窓の下にネットを張ればかえつて事故は増えるかもしれない。

角を矯めて牛を殺すではないが、人材確保はどうするのだらう。優秀な人間に官僚を目指して欲しいが、海外留學など美味しいところをつまんだだけで轉身し官叩きをこととする人が増えさうな氣がする。◎1507(21.4.8)

### NHKの表音主義者

NHKの番組で五十音圖について間違つた(と思ふ)ことを言つてゐたので典據を問合せたが、まだ返事がない。偶々名刺を買つてゐたNHKの研究所の人にメールで問合せたら、時間を貸して欲しいとのこと。とにかく黙殺はないだらうと思ふ。

轉居することになつたのでNHKとの契約を破棄。新居での契約はまだだ。

息子が契約してない同を見るのを氣にするので何度か催促の電話をしてゐる。問合せのとき、最初に名告らうとすると不要だと言ふ。端から聞き置くだけの態度。(平成十九年二月五日の最初の問合せのときはコールセンターチーフといふ人が出

てきて互に名告つての應接だつた。彼女は文書で傳へたと言ふ)

もつとも、彼女に教はつた部署に直接ファックス送信した際に「本日十五日の朝刊に あるある大辭典 のデータ捏造事件について 事實と異なる報道は重大な問題」との菅總務大臣の發言が報じられてゐて、教育テレビにおける誤つた解説はその比ではないと思ふ云々」と書いたのは少しきつかつたかもしれない。

NHKから巡回してきた人、出るのが遅れて歸りかけてゐたのを追ひかけて事情を説明した。二度めに來た人はえらく同情的で、あとで遡つて請求されないやうになつてゐるかを氣にしてくれた。それ以來、引繼ぎがあるのか我家には二度と來ない。もう電話をするのもくたびれた。もつとも我家の場合、地デジの問題だけなので甘いかもしれない。

NHKは契約してゐるときはほとんど見なかつた。最近朝の連ドラを見る。「つばさ」といふ川越の老舗和菓子屋甘玉堂が舞臺。この扁額が左横書き。家訓なのが一意専心と彫つてあるのが新字體。興を殺ぐことおびたしい。表音主義者が跋扈してゐると感じた次第。

自社廣告で絆といふ番組のことが出る。これがキズナ。昭和六十一年の現代假名遣でキツナと正しい表記でもよくなったのだが、昭和六十一年に「問答集」が再版されてゐて、ここでは昭和二十一年の形式が正しいとされてゐる。表音主義者からすれば昭和二十一年方が純粹のはずだ。

表音主義者は過去を否定するだけでなく、過去を今に併せて作り替へることに痛痒を感じないのだ。

臺灣統治時代についての報道は少し見た。少ししか見なかつたのは、むかむかして途中で止めたからだ。日本語の授業を、日本語を強制したと言ふ。植民地における言語教育をかういふ目で捉へるの

は言語學者に多い。植民地と臺灣を呼ぶこと自體が問題ではないのか。臺灣には日本國民として一視同仁の教育があった。當時日本人であったことが幸せであったかどうかは別問題だ。周婉窈『圖說臺灣の歴史』(濱島敦俊監譯・石川豪+中西美貴譯、平凡社、2007)を讀んでも歸屬意識の問題はきはめて微妙だ。

表音主義者がかねての主張に忠實であれば、歴史は常に無化されるから、臺灣が日本の版圖であった時代には彼らはまったく同等の日本人であったはずではないか。それに十七世紀英國の Levellers(恐らく水平社の名前の由來)の主張に、今風に言へば、言語教育こそ弱者救済の根幹をなすとする考へがあったと讀んだことがある。日本語を教へることにまったく逆の側面もあったわけだ。總務大臣はどし思ふだらう。◎1508(21.4.9)

### 挨拶の言葉も知らんもんで

一五〇七號所載の恩田宗氏の「未整備な日本語文法」は現代日本語の文法研究は日本語に印歐語(特に英語)の文法をあてはめて考へる所から始まったとある。そのことの意味を考へてみたい。あちこち脱線ばかりなので適宜、中見出しをつける。

まづ日本語とあるところ、國語とも言ふ。この二つは同じものを指してゐるかもしれないが、日本語は外から見たもので、國語は我々が其處に生まれ落ちたもので、内から見たものといふ違ひを感じる。西歐流の文法だと一層内から見た感覚があるそかになりさうな氣がする。

西歐流の文法で特に英語とあればソシユール以降の構造主義、特に音韻論が顯著だ。戦後の國語行政を領導した人も今の英語教育を唱へる人達も、いはゆる表音主義者。本来傳統を襲へべき表記を共時態に依據して初期化する傾向がある。

文法といふ語を辭書でしらべると、規範文法と記述文法といふ分類にぶつかる。しかし、その前に、あらゆる言語には、その運用規則とでもいふべき玄妙なものがあるのではないか。その玄妙なものを文法と呼ぶなら、未整備な日本語文法などといふものはない。まだ十分に記述されてゐないといふだけだ。

### 「僭在的文法」

たまに葬禮などで田舎から出てきた年寄りが「挨拶の言葉も知らんもんで」と斷つて悔やみを述べる場に行き合はせることがあるが、實に見事な言葉遣ひだ。しかし、そのやうな言葉の運用の妙をすべて記述できるものだらうか。修辭に屬するものもあるかも知れないし、僭在的文法といふものもあるかも知れない。

B.L.ウォーフは指示代名詞のやうにコソアドに關する語の場合の *th* は有聲音になるといふ規則を僭在的文法の例に擧げた。つまり *thing* の場合の *th* は無聲音で *this that then na* の *th* はさうでないといふわけだ。

國語の場合、地名は漢字といふのも僭在的文法かもしれない。さいたま市と書いてあると、漢字を知らない兒童の書いたものやうに見える。とにかく、平假名だと鍵括弧に入れて地の文と區別しないと讀みにくい。

日本語を外からみると、この讀みにくいといふ感じは斟酌されない。ソマリア沖に浮ぶ我が軍艦の名前は假名だ。漢字の方が視認しやすいにも拘らずだ。漢字だと外國人に讀めないではないかといふのだらうか。外國人のためにはローマ字が併記されてゐるはずだ。エレベーターの行き先表示が「地上」でなく「ちじょう」としたのもある。子供にも判るやうにのつもりかもしれないが、年寄りには見づらい。それに子供を馬鹿にしてはいけない。子供だって複雑な漢字の方が模

様として區別しやすいのだ。

表音主義者は一字一音を理想とし、ツとズの書分けを不要とした。小堀杏奴さんは「難し」を濁らずにムツカシと言ふ。これは御本人の口から聞いた。戦前のムツカシといふ表記はツとヅは通ずるといふ日本語の文法に適つてゐた。表音主義者はそんなことにかまはずムズカシとムツカシに分けた。

アリガタクの音便アリガタウをアリガトウとし、四段動詞を五段にしたのも表音主義、語意識など問題にしない。

長音といふものはあるのだろうか。表音主義者は長音といふものを立てたあげく、こんどは、その書分けを不要とした。結果、調布を *chofu* と書かなければならない。靴に合せて踵を切り落とし、寢臺に合せて手足を切るやり方だ。この痛みが解らないのだろうか。表音主義者は單に字母節約論者なのだ。

秋葉原はいろいろの読み方があるが、ちぢめればアキバだ。アキハとは言はない。どんな音でも、またはどんな音の組合せでも、日本語に可能なわけではない。NHKの職名に「ディレクター」といふのがある。「ディ」は日本語の音韻なのか。韓国の野球選手の名前を即座に覚えたりできただろうか。李さんはイーさんでもミスターが附くとリーさんだ。アメリカ人に「*cosus*」を現地語風に發音しろといふ人はあるまい。テレビで田原といふ人が萬景峯號の名前を朝鮮語風に發音しようとして苦勞してゐたの見たことがあるが、どうして、そのやうな苦行の道を選ぶのだろうか。

未整備な文法によつて戦前の日本語と戦後の日本語の間に楔が打ち込まれた。かくして我々が持つ國語辭典は、現代日本語のものでしかありえず、外國人への日本語教育は現代日本語教育でしかあり得ない。

ところがウクライナでは小學生で芭蕉

を、高校生で川端康成を學習してゐると言ふし、セルビアでは古事記の譯ができた。セルビアで日本語を學習する目的の第一は日本文化を知るためださうだ。現代假名遣で教へることの意味は何なのだらう。

「敬語」

「リンゴと柿、どっちが良い？」との臺所からの聲に「柿でいい」と答へて「重い思ひをして買つてきたのがっかりだ」と言はれたことはないだらうか。別に「柿で我慢する」と言つたつもりではないのだが、いはば無意識のものが表出されたとしてもいふか、さう言はれてみて表現の微妙さにあらためて氣づくわけだ。文法の問題でもあらうが禮の問題でもある。このやうな微妙な表現の問題に一般に敬語といはれるものがある。

戦後、敬語を封建制の遺物のやうに言ふ人があつた。NHKもさう考へてゐるのかもしれない。しかし實際に日曜討論で司會者の客（政府高官や公黨首腦）に對する詰問するやうな言葉、つかひを聞くといつても神經にやすりをかけられる氣がある。恐らく司會者自身尋常な神經を維持することは難しいはずだ。

天正遣歐少年使節を發案したアレシャンドロ・ヴァリニヤノ第一回の來朝の際その隨員としての行動を共にしたロレンソ・ノチアは日本語に關して次のやうに記してゐる（土井忠生『吉利支丹論攷』）

言語はあらゆる言語の中で最も豊富である。何となれば、多くの點でグレーシア（ギリシャ）語やラテン語に勝つてゐて、同一の事柄を言ひ表はすための無数の單語と言ひ方がある。従つて、それを學ぶのに爲すべきことが多く、二十年以上この地で生活したわが會の者はかりでなく、本國人でさへ新しく學ぶべき知らないことがある。更にまた、如何なる言語にも見られないことだと

私は信ずるのだが、それらの言葉と共に修辭法と立派な教養を學ぶのである。大人に話すか子供に話すか、目上話すか目下に話すかによって、如何に話すべきかの判断が即座にでき、誰と話す場合にも必ず守るべき禮儀をわきまへ、それぞれの場合に使ふべき特定の動詞や名詞、言ひ方があるのを知つたのでなければ、誰しも日本語がわかつたとは言ひ得ない。

敬語は畏敬の念をもつて見られてゐたのだ。敬語の一番の文法的歸納は待遇關係の指示だ。日曜討論の場合に氣になるのはそのせいだ。「客席にものをおかれたまま席を立たれないで下さい」といふ表示をみたことがある。こんなところでは不要だ。「ものをおいたまま立たないで下さい」でないとかへつて變だらう。

#### 「膠着語」

表音主義者は歐米流に單語に分けて書くことは何でもないと考へてゐるやうだ。實際にローマ字で轉寫してみると單語に分けるといふのは非常に苦しい。しかし、通常のローマ字では單語單位で分節しなければ母音連續が多くて讀むに堪へない。擴張へボン式で歴史的假名遣を轉寫すれば母音連續の問題がないので文節單位の分かち書きが可能だ。それでほとんど長くなつた。

たとへば桐壺の冒頭は高千穂大學教授 澁谷榮一氏にみるゝ次のやうになる。

Idure no ohom-toki ni ka, nyougo, kami amata saburahi tamahi kernu naka ni, ito yangotonaki kiha ni ha ara nu ga, sugurete tokimeki tamahu ari keru.

これは日本式だ。

へボン式なら次のやうになる。

Izure no oontoki ni ka, nyōgo, kōi am-ata saburahi tamahi kernu naka ni, ito yangotonaki kiwa ni wa ara nu ga, sugurete tokimeki tamahu ari keru.

擴張へボン式だと次のやうになる。

Idzureno o'ontokinika, nyougo, kami amata sabura'itamahi'ikernu nakani, ito yangotonaki ki'ani'a aranuga, sugurete tokimekitama'u anikeri.

文節單位の區切り方だ。かうしてみると日本語が膠着語に分類されたのもむべなるかなと思はざるを得ない。

#### 「英語の影響」

私は戦後教育の一期生だが、國文法といふのは習つた記憶がない。友人と話してゐて氣づいたことは、文法は英語の教師に教はつたといふことだ。古文の文法は教はつた。係り結びなど法則がきちつと當てはまるのが嬉しかつたことを覺えてゐる。

恩田氏によれば大野晋は日本語文法は學問としてまだ整つてゐないとして、「日本語で育つた人間が自分の言語を深く反省し、自分で自分の文法を組織立てていく以外に方法がない」といふ趣旨のことを述べてゐること。

事態は悪化してゐるやうに思ふ。國語教師は古文も國語學も履修しなくとも小學校の教師になれるものらしい。英語の教師は國語のことまで見据えて教へる力があるだらうか。國語の先生も、文法は英語で教はつたものが頭に残つてゐるはずだ。だから主語術語のしつかりした文を造れと教へてゐる可能性がある。

臺風の被害の報道で近頃は「二人が行方不明」といふ表現をきく。かつては「行方不明三名」だつた。火事があるや、「怪我人があなかつた」と言ふ。「怪我人はなかつた」でないと思ふ。「怪我人が」は定冠詞がつくやうに構想してゐると考へてあり、ゐなかつた」は意味のある主語に對つて用ゐるもので、發生したかどつたかの場合には馴染まないやうに思ふ。 ◇1512(21.4.13)

## ワヅウエヲ

山堂コラム、内容もさることながらテ  
牛屋の口上よろしく「政治家二世三世が、  
政治家繼ぐのはナニヌネノ。漸くオラに  
もワイウエヲ。政治家このころ金持で、ま  
つりことをやるよりも、儲けることばか  
り考へる。そんな卑しい商賣に、政治が  
なれば世の中の、政治不信が募るだけ。」  
(1518 號所載) とあるのは正に聲に出し  
て讀みたい名文。望蜀を言へばワイウエ  
ヲでなくワヅウエヲとして欲しかった。

もつともヅやエの入力は存外難しい。團  
地の自治會で柳やこゑん師匠に来てもらっ  
たときは案内文をどうしても入力できな  
かった。慣れないマックであつたからだ。  
今では我がパソコンは誰も知らない擴張  
へボン式。ヅやエは wi we と簡單なれど  
ワイやウエは wwi wwe とせねばならず、  
では子にしかならぬのが慣れない人には  
難しい。

かくして今や、我がパソコンは我しか使  
へず、我も他人様のパソコンは使へない。  
普通人は世間に自分を合せる。普通で  
ない人は世間を自分に合せようとする。し  
かりしかうして世の進歩なるものはすべ  
からく普通でない人の御蔭なのださうだ  
が、かういふのは引かれ者の小唄でせう  
な。 ◎1519(21.4.20)

## G H O に便乗した國語學者たち

「修身教育を復活せよ」と平井さんは  
仰せになる(一五二二號)。國史、地理と  
併せてこの三教科が廢止になつたのは G  
H O の命令があつたためだ。

私は國語教育のこと言ひたい。いかな  
占領軍でも國語を廢止することは考へな  
かつた。表記を問題にしたに過ぎない。G  
H O は日本語をローマ字化しようとした。  
ローマ字化を阻止するための妥協策が戦  
後の表記改革だつたと毎日新聞は傳へる

(平成十八年四月八日「戦後六十年の原  
点」)。その妥協が問題だつた。

漢字を廢止すべきだとする主張は幕末  
からあつたし、表音的主張は戦前からあつ  
た。G H O にローマ字化の意圖がどこま  
であつたかはわからないが、戦後の表記改  
革は表音主義者が G H O の方針に便乗し  
たものとみるべきものやうに思はれる。

ところで歴史的假名であつても假名は  
假名。表音主義者からすれば漢字こそ問  
題であつて假名遣のことは二の次であつ  
たはずだ。戦前のものを復刊するとき、新  
しい表記にすることが行はれた。では、そ  
の際、漢字を假名に開くことが眞つ先に  
行はれたかと言ふと、さうではなかつた。  
漢字より先に假名字母の制限が行はれた  
のである。

森田草平が漱石全集の編集について送  
假名をどうするかを論じたところに「違  
い棚だの、乗り手だの、振り假名だのと  
いうような、動詞と名詞とから出來た複  
合名詞では、動詞の語尾の「ひ」や「り」  
はだしたものであつるか」とある。「違ひ  
棚」でなければ動詞の語尾の「ひ」は意  
味をなさない。

假名の問題は重要でなかつた筈だが、修  
正作業が簡單であつたがために完璧にな  
されてしまつた。恐らく G H O の意圖を超  
え、文部當局の豫想を超えた結果だらう。

修身教育は修身といふ科目の授業での  
み、いや學校でのみなされたものではな  
かつたはずだ。

假名字母の制限は國語教材から記紀萬  
葉から淨瑠璃歌舞伎俚諺に到る豊かな文  
語の世界を閉出しただけではない。

戦前の家庭は文語に溢れてゐた。子供  
は伊呂波歌留多で口調のよい文句を覚え  
たものだ。

敗戦時、飯が満足に食へなかつたころ、  
母が口にしたのは「武士は喰はねど高楊  
枝」であつたし、また先代萩の話もよく聽

いた。出てくる科白は「腹が減ってもひもじくない」だ。孟母三遷の教へとか、渴しても盗泉の水を飲まずなどといふ蒙求の教へもよく聴かされた。さういふ者からみれば、假名字母の制限はキリスト教圏から聖書を奪ひ、イスラム社会でコーランを禁じることに等しい。

假名字母の制限の結果、國語の先生は「い」「ひ」「ゑ」の書分けを教へる必要はなくなつたわけだが、漢字も系統的に教へることが事實上禁じられたので（新字體で示偏をどう教へるといふのだ）、先生は専ら内容だけを教へることになつた。それが如何なる結果を齎したか。

學力テスト（平成二十一年四月二十一日）の問題をみてみよう。小學校國語Aは基礎知識を試すものださうだが、其の四番に實驗がある。實驗の目的は水に溶かした食鹽の重さはどうなるかといふもの。準備段階で、「水百グラムをはかりとる」といふ表現がある。「はかりとる」といふ表現は子供に通じるのだらうか。「容器に百グラムの水を入れる」といふのが普通ではないか。これに食鹽二十グラムを入れて重さをはかり、ついで食鹽を溶かした後の食鹽水をはかつて比べるのだ。

無造作に「食鹽水」といふ語が出てくる。まさか、食鹽が溶けただけで重さが變るわけがないから、食鹽水といふのは何かもつと別のものを加へたものかもしれないと悩んでしまひさうだ。眞面目な子供だつたら、溶かすときの棒にくつついて取り出された分だけ水は減つてゐるはずだから、もし非常に精密な秤があれば、少し軽い結果が出るはずだと思ふだらう。

内容はかりを問題にせざるを得ないわけだが單に理解力を調べるためのもの。無内容になるのは當然。

實驗の結果、「食鹽は、水に溶けてもその重さはなくならないと考へた」とある。

馬鹿馬鹿しいと言へばそれまでだが、此所は「考へた」と結ぶべきではなく、「食鹽は水に溶けてもその重さはなくなることが解つた」とすべきところ。我々は國語教育の崩壞の現場に立會つてゐるわけだ。せめて問題文くらいはきちんとして欲しいと望むなど詮ないことも知れない。◇1524(21.4.24)

### 韓国人の名前の呼び方

金正日をキンセイジツでなくキムジョニルと言ひ、萬景峯をバンケイホウでなくマンギョンボンと言ふのは日本語として無理があるが、これも過てる表音主義のせいではある。

或る外務省の役人に尋ねたら互恵主義だらうといふ。キンとキム、マンとバンは我國の字音で通ふところがあるけれど、我國の名前には訓もあるから、日本語式に讀むのはさぞ辛いはずだが、もつぱらハングルで表記するのであれば、音と訓の違いはないから成立つことなのかと勝手に理解してゐた。

一四六六號所載「朴正熙政治の再評價」の次の箇所

日本語讀みは「ぼく・せいぎ」。日本名は高木正雄（たかぎ まさを）（一九四五年）。日本では昭和五十九年の全斗煥大統領訪日を契機に韓國人人名の現地讀み化が行はれるやうになり、漢字表記のまま「パク・チョンヒ」と韓國語讀みされるのが一般的である。

を讀んだとき、これが互恵主義の典據だらうと思つた次第。それにしても、常用漢字音訓表によつて漢字の讀みを制限してゐる文部省方式とは背馳するやりかただ。

もつとも、文化廳の役人は人名は別だと辯解するかも知れない。「先生が名前を呼べない子供たち」『週刊文春』二十一年四月二十三日）から幾つか擧げると強



運(男子らつきい)、愛聲(女子あのおん)、希友(男子きつと)、楓(女子はいし)、天使(男子みかえる)、綺亞羅(女子ていあら)、英雄(男子ひいろ)、劍(男子ぶれいど)、星鈴(女子きらり)と、まあこんな具合だ。

これが漢字教育を怠ったことのつげなのだ。ひょっとして表音主義者は混乱が進むことによって漢字は不便だといふ輿論が醸成されるのをまってるのだからか。

最近、或る若者が泥酔したあげく深夜の公園で裸體であたところ説諭で濟まずトラ箱入り? となつて話題になつた。それで知つたことだが、若者は韓國ではチョナンカンと呼ばれてゐて日本語式でない。昭和五十九年の約束が雙務的であつたとしたら、あちらでは我國のやうには役所の威令が行はれてゐないわけだ。

正朔を奉じるといふ言葉がある。古代中國で新しい王が立てば曆を改めたことから、その統治に服することをいふ。言語についてこの片務的状况は何と呼ぶべきだらう。◎1526(21.4.26)

### 「確実性が高い」は變だ

「大流行、確実性高い」、これは豚インフルエンザから變異した新型インフルエンザについての記事の見出しであるが、記事を読めば、これが舛添要一厚生労働大臣の發言「パンデミック(世界的大流行)になる確実性が極めて高くなつてゐる」に基づくものであることが判る。

大臣の發言のパンデミックに注記があるのは親切だ。できれば注記の必要のない言葉を用ゐて貰ひたい。さう言へば、このところやたらフェーズといふ言葉もきく。英語ではないかと思當をつけて辭書で引かうにももとの綴りが判らない。危機管理では一瞬の誤解が事故につながる。是非、日本語專一に願ひたいものだ。

さて、「確実性が高い」であるが、この言ひ方は變だ。考へてみれば、この言ひ方が變だといふことは誰にも判るはずだ。すぐに變だと思ふのは、辭書出版社にゐたための癖で因果といふより仕方がない。確率が高いといふ場合は蓋然性が高いといふ。しかし蓋然性は日常語ではないので、可能性が高いといふのが普通だらう。確実性も日常語ではない。確実性とは「確實だ」を名詞的に表現したものだと思ふ。ものごとは確實であるかないかのどちらかだらう。だから「確実性が高い」といふ表現は變だと感じたのだ。

麻生さんが國語力の問題に注意を喚起してくれたので、國語のことがよく話題になるやうになつた。しかし、これは知識の問題なのだらうか。

さう考へて思ひ出したことがある。まだ昭和であつたか平成になつてからであつたか、或る席で太田行藏といふ方が當日の東京新聞「筆洗」に長谷の大佛の手にてんとう蟲が「日がなとまつてゐた」とあつたことを引いて「日がな一日」でなければ變だと、世の師表たる人の國語力の衰へを慨嘆された。

歸宅して此の話をしたところ、家人も筆洗を讀んでゐて氣づいたさうだが、恐らく一日中眺めてゐた上での表現でない、その後ろめたさが表れたものだらうと思ふ。成る程と思つたので、其の日英語のことで尋ねられて調べたことをお知らせする葉書の端に書き加へておいたところ、葉書の内容を披露してよいかとの電話を頂いたのであつた。補聴器を介しての電話といふのも始めてであつたが、葉書の内容についても斷りを入れる作法に肅然としたことを覚えてゐる。

今、太田行藏先生についてネットで調べたら前田嘉則氏のサイト「言葉の救はれ」の「歌人太田行藏の金田一京助評」の一節が出てきた。前田嘉則氏は正字正假

名遣の人。しかし引用は原文通りだ。當方は假名遣と字體について原文通りといふこだりはしない。以下、前田嘉則氏のサイトからの引用。

金田一のごまかし癖について、太田はかう記してゐる。

慣れといふものは恐ろしいものだ。いくら平安朝式が好ましいと言つて、今日あのやうな格好をしたらたいへんであらうし、言葉だつて、今、『さこそ侍らめ』『いとをかしうなむ』など言つたら、氣ちがひかと思はれやうから、つづり方だつて、『てふてふ』『けふ』『あふみ』の國、『とほたふみ』の國ではアナクロニズム以外の何物でもないはずなのに、それを思はず、これを當り前に思つてゐたのである。どこの世界に、千年前の人の書いたつづり方を、今日、小學校の子供らにまで朝夕の實用にさせている文明國があることが。

こんな話し方がウソであることは、最近では福田恆存氏がよくよく君に言つたはずだ。『さこそ侍らめ』と言ひたくて現代かなづかいに反對してゐる人があると思ふか。しかもありさうに思はせやうとしてゐる。千年前の書き方でも、通用すればいいではないか。通用しないものは改めてきてゐる。なぜ日本では外國ほど昔と今とにちがひがないかの理由を、君自身も、

一千年間の綴り方を今日なほ守るといふ國は世界に類のないことである。これは日本が東海に隔絶して、他民族の侵略を蒙らず、古今の變化が、諸外國に見られないほど小さいからである（ラヂオ新書（七十一）「國語の變遷」一六三頁）。

と言つてゐるではないか。君がかう

言つてから、まだ十五年ばかりしかたたない。君のこのごろは、世の中の風向き次第で何でも都合のいいことを言ふ人だといふことを自分で證明するやうなものだ。學説も日進月歩だなどと言ふな。過去の歴史事實が日進月歩すると思ふか。

金田一君。僕は君にこんなことを言ひたくない。しかし多くの人のだまされるのは黙つて見てはゐられない。君はそのあとのほうで、

發音が同じものでも、語によつて書き方がちがふことは、どの國にもあつて、それを一語一語學ぶのが國語教育だから、それからの困難は避けるべきではないのである。（一六六頁）

とも言つてゐる。『どこにもそんな國はない』といふのと、『どこの國にもある』といふのとでは全く反對だが、それが同じ人の口から時代がちがへば何の良心的反省もなしに、大手をふつて出てくる。（中略）

君といふ人間は、時世時節で何でも言ふといふ證據になるだらう。（前掲書 六「風向き次第」）

この逐語的な批評はきはめて説得的で、金田一は何も反論はできない。事實してゐない。變節漢は、詭辯の常態であるから、まつたくその通りなのである。それにしても太田の批評には、快哉を叫びたくなる。福田恆存は平和問題では孤立無援であつたが、國語問題においては、これほどに後方支援はあつた。しかしながら、である。私たち日本人は、自分の頭で考へないから、變節漢の言葉を見抜けず、「時世時節で何でも言つ」「ウソに騙されてしまふのである。」過去の歴史事實が日進月歩すると思つか、「私もまた今さう叫びたい。今、私でも「さこそ侍らめ」と言へなど

と言ふのではない。ただ假名遣ひに歴史性を持たせよと言ひただけである。

以上が前田嘉則氏のサイトからの引用である。先年、もと都廳にゐた友人の紹介で箱根の望月莊といふ宿に一泊したことがある。金田一京助の愛用した宿であった。京助の詠んだ歌が掲げてあったので知った。今更あらためていふのも無知をさらけただけであるが、これほどやっきとなつて歴史的假名遣の非をならした京助であつても興がのれば三十一文字をひねつたのだ。勿論正しい假名遣だ。我が母校の校歌も國語教師の作詞だつた。かつての國語教師の國語力をあらためて思ふ。

戦後育成された教師は假名遣も知らない。その教師に教はつた政治家の國語力など語るも愚かだらう。しかし、「確實性が高い」は國語力の問題ではない。誠實さの問題なのだ。どう考へたつて無理であるか、または問題の性質も説明されてゐない時期に「一年後に解決します」と無造作に言ふ。その癖が出たと言ふべきだらう。ゆっくりと言葉の意味を考へて話すことから始めて欲しい。◇1534(21.5.3)

### ローマ字をやつてみるべきだつた

八日、歸りの機内でみた朝日新聞のコラムに《作家の井上ひさしさんが週刊朝日で、オバマ米大統領の核軍縮演説を評價してゐた。原爆を落としたのは誰かといふ主語をはつきり語つてゐるからだといふ。核を使用した唯一の保有國として行動する道義的責任がある」と述べたくだりについてである。日本語は主語があまりないだ。》とあつた。

原爆死亡者慰靈碑の碑文、過ちは繰返しませぬから」の主語をもし顯現化すれば、一人稱複數であることは間違ひない。そして、それは人類一般を意味したはずだ。

この表現が米國が民間人大量虐殺の戦争犯罪國家であることを隠蔽するのに一定の役割を果たしたことは事實だと思ふ。

我々は歴史を學ばなかつた。だからイラクやアフガンで民間人が死んだことがニュースになると始めて何やらダブルスタンダードがあることを感じるのだ。

しかし朝日新聞のやうに「主語があまりないだ」と國語のせいにするのは二重に自虐的だと思ふ。

本日(十一日)の日本經濟新聞、ドコモの全面廣告の文句は《「氣つき」が仕事を變へていく》で、二面の記事の見出しは《「自民」「きずな」復活期す》だ。ドコモの廣告にはローマ字でKIZUKIとなつてゐる。文部省のローマ字ではツを表すことはできない。それで假名字母のツの使用を制限した。

一五三九號所載「日本が占領された八年間」昭和二十三年のところに日本語のローマ字化(斷念)と題して次のやうなことが書いてある。

チヨン・ペルゼルという若い將校の發案で、日本語をローマ字表記にしようとする計畫が起された。目的は日本人の識字率を高めるため。ところが識字率を調べてみる百パーセントに近かつた。調査に携はつた東大助手柴田武はペルゼルに呼び出され、遠回しに「字が讀めない人が非常に多いといふふうにしてくれないと困る」と言はれたが、「調査結果は捻ぢ曲げられない」と突っぱね、ペルゼルもそれ以上の無理押しはしなかつたといふ。

柴田先生に品川のホテルパシフィックでお目にかかり擴張へボン式について聞いてもらったのは平成十七年十一月三十日。識字率調査のことなど知らなかつたので訊ねてもみなかつたのであるが、現代假名遣がローマ字化のための一里塚として構想されたものであることは確かだと思ふ。

ローマ字化をやってみるべきだった。さうしたらとつくに不合理さが明らかにたつてゐたはずだ。 ○1544(21.5.12)

新常用漢字表案、應募意見はすべて公開すべきだ

朝日新聞五月十八日朝刊二十一面の文化欄を読むと新常用漢字表案に對する應募意見が公開になったとあるがネットで見ることが出来ない。文化廳に問合はせると漢字小委員會で資料として配布したとのこと。但し、すべての應募意見を配布したわけでなく、また將來、ネットで公開する場合もすべてを公開することはないだらうとのこと。

すべてを公開すべきだ。文部當局のフィルターをくぐつた意見だけを恰もすべての意見であるかのやうに報道してゐれば、恐らく、さういふ意見しかないはずだと記者も役人も思ひこんでしまふだらう。朝日の報道には「表内の字體に二重の基準があるのはをかしい」といった反対意見が「國語施策の一貫性を保つには遡などの印刷標準字體を採用すべきだ」といった賛成意見を上回つたとある。この報道も不思議だ。この二つの意見は對立するものでない。表内に二重の基準があるといふのは、しんにゆうの點を一つにするか二つにするかの問題だ。

間違つてもらつては困るが、漢字全廢の一里塚として例外的に使用を認められたのが表内字であり、それも一畫でも減じようとした結果が一點しんにようだったはずだ。「表内の字體に二重の基準があるのはをかしい」のではなく、表の内外で字體に二重の基準があるのがをかしいのであり不便なのだ。常用漢字表を廢止するのが一舉にできないのならせて字體については戦前の形を本則として、新字體は一種の筆記體として許容するやうな方策を考へて貰ひたい。漢字の書取り

で正字を書いたら間違ひだとしてもなくなるし漢和辭典の引き方を教へるにもデーターを検索するにも裨益するところ大であらう。 ○1553(21.5.21)

文部科學省はエイリアンに乗つ取られてしまったのだらうか

出版社へ入社したときに現代假名遣を身につけることを求められた。それまで假名遣のことを考へたことはなかった。戦前の本でも戦後の本でも讀むのに不自由はなく、讀んだあとで假名遣がどちらであるかなど訊かれても判らないのが實際であつたが、歴史的假名遣を書くことはできず、現代假名遣で書いてあるつもりであつた。

しかし著者の假名遣を文部省式に合ふやうに修正する作業のためには意識的に現代假名遣なるものを身につける必要がある。それで文部省の決めたものを讀んでみた。

讀んでみると判らないことが判つた。それから、漢字を表意文字と言ふが、表語文字といふべきだと思つた。何年か後に、表語文字といふことは河野六郎先生の言ひだされたことだといふことを聞いた。今はわりと普通に見かける表現だ。

日經新聞五月二十四日の文化欄に俳人宇多喜代子は國東中學で「ことばはだれの持ち物でもないのだから、自由につかつていいのだ」と述べたとある。漢字は表語文字であり、漢字制限は語の制限であつた。障碍者を障害者と書換へた結果、この語がつかひにくくなつたことを考へてみてほしい。

とにかく、學校で漢字教育はないがしるにされた。漢字檢定協會といふのがあらしい。文藝春秋四月號の高島俊男の批判を讀むと首を傾げる點があることは確かであるが、儲けすぎて顰蹙をかつて

あるのは漢字教育が商賣になるくらい面白いといふことを証明したわけだ。

文部省が公教育で漢字教育をないがしろにし、漢字検定協会のやうなところを助成してゐるのは變ではないか。

その公教育の實體を見る機会があった。或る小學校の運動會だ。1年生が見事なマスをゲームをやる。入學以來連日體育の授業だったのではあるまいか。2年生のマスをゲームは班編成。班ごとの生徒の名簿まで印刷したものである。これが全員假名表記。

男女の區別がない。徒競走はあらかじめ同じ速さの生徒を組分けしたとみえて、競争する組ごとに名前が読み上げられる。準備も大變だったに違ひない。我々の頃は、そのとき並んだ順で組合せは決まった。

運動會のプログラムには「1人ひとり」が全力で豊かさを表現する 協力してつくりあげる といふめあてをもって組んで参りました」とある。「めあて」といふ語を使ふべきところではあるまい。

「めあてをもって」といへば「目印にして、たよりにして」といふ意味だと思ふ。目的とか目標となぜ書かないのだらう。

協力といふ表現だが、校長先生の開會の際の言葉に「みんな協力して競争しませう」といふのがあった。それからあらぬか、PTAによる綱引きで、左右入換へてもう一度のときに「できれば引分けにもって行きたいので、先程勝った赤組の方よろしく願ひします」といふアナウンスがあった。普通なら、「先程負けた白組、今度は頑張つて下さい」だらう。これでは生徒に八百長を教へることになる。皆が仲良くなるのなら八百長も正しいわけだ。

號令のかけ方も變だった。「氣をつけ」はあるが「直れ」がない。すぐにだらだらしてしまふ。かういふことは教師養成のマニュアルにはないのかもしれない。

玉入れのとき、幾つ入ったか數へるのに「1つ、2つ」と10までは和語で2桁になつてから漢語になるのが普通だと思ふが、この學校では最初から漢語だ。今の學校教育ではアイウエオ順だからイロハ順は覺える必要はないと、覺えることを減らすやうに、生徒に易しくしてゐるつもりなのだらう。

さう言へば徒競走も1年生は50米、2年生は80米、4年生は60米、5年6年で初めて100米であった。

選手宣誓のやうなものも大勢が前にでて、一言づつ述べる形式。要するに、人權教育やフェミニズムのほひ芬々たるものがあつた。

父兄の中にも困つたと思つてゐる人があるに違ひないけれど、子供が人質に取られてゐるわけだから下手なことは言ひだせないのだと思ふ。

おんば育ちは3文安といふが、それどころではない。おまけに英語もやらなければならぬのだらう。

「破綻した流感ガイドライン」(一五五二號)に「日本の官僚は有能だとよく言はれるが、今回の騒動で見えてきた彼らのレベルは、その評價に値しない」とあるが、厚労省の役人はそれでも舵を切る。文部行政の結果は何世代も経たなければ判明しない。だから戦後の表音主義がそのまま續いてゐるわけだが、それがこのやうな段階にまで進化を遂げてゐることは、ひよつとしたら當局も知らないのかもしれない。それとも文部科學省はエイリアンに乗つ取られてしまったのだらうか。◎1556(21.5.25)

## NHK抗議行動に参加して

NHKを正す會のこと、受信契約を破棄してゐるので参加する資格がないと諦めてゐます。せめてもと五月三十日のNHK抗議集會には八千公前の集會から参加。

日章旗、草莽掘起といふ幟、緑の模様の旗がある。「頂門の一針」で知って来たと言つても「頂門の一針」を知つてゐる人がある。プラカードか何か持つて欲しい言はれて緑の模様の旗を持った。チャネル櫻の旗かと思つたが臺灣旗であることを後で知つた。

NHKの取材を受けた柯徳三さんが録音で参加。「NHKが臺灣にあれば焼討ちに遭つたところだ」といふ意味の言葉が耳に残つた。

それから代々木公園けやき竝木中央といふNHKの脇のところに移動。どんどん人が増える。札幌医科大学高田純教授の「シルクロードロマンを煽つたNHKは、核実験場であることを隠した偽装番組だ」は代讀。加瀬英昭氏の話もきけた。

やがてデモ行進にうつるために二組四列縦隊に並び直す。列がどんどん延びて行くが、我々のところになると動きだすまで團子状態。それをチャネル櫻の水島さんが列の数を数へていく。随分控へめな数にしかならなかつたはずだ。実際に動きだしてみると、我々のところからも後ろまで見通せない。

皆、日の丸の小旗や風船を持つ。結構若い人が多い。訊いてみるとネットで知つての参加とのこと。飲み過ぎて腹具合が悪く、朝も晝も絶食だと言つたら飽くれた。

NHKの周りを廻つて代々木公園の脇の小さな公園で隊列を解く。旗竿を一時間ほどもつてゐたことになる。雨が降らなかつたので助かつた。それををはりかと思つたら、今度はめいめいの自由行動だといふ。結構大勢の人が取つて返す、NHKの構内に入って抗議した人もかなりあつた。結局デモコースを往復したわけだ。

國語の問題でNHKを批判する人には出逢はなかつた。

友人からこんなメールが届いた。

今日六月二日の夜十時五十分から十一時までのNHK総合テレビ「あの人にいたい」は志賀直哉でした。番組の中で志賀自身による朗讀に合せて、小説の一節が字幕に出来ました。會話が國語假名遣(歴史的假名遣)で、地の文が「現代假名遣い」といふ代物でした。志賀がそんなことをするはずは無い。

NHKは假名遣を愚弄してゐます。視聴者をなめきつてゐます。視つてながら思つたこと。

日の丸の小旗をもつた若者に日の丸の位置を訊ねてみたところ、布地の中心より竿の方に幾分寄つてゐるはずだといふ。少し竿寄りであることは我々の世代は皆知つてゐた。小旗を作つてみるとのりしろの分だけ竿寄りになるのは仕方がない。百分の一などといふのはどうでもよいのだと思ふ。萬國旗なども細かい寸法にはこだはず世界縦横を同じ寸法につくるはずだ。

國家國旗法で明治三年の太政官布告第五十七號を廢し、「當分の間(略)寸法の割合について縦を横の十分の七とし、かつ、日章の中心の位置について旗の中心から旗竿側に横の長さの百分の一偏した位置とすることができ」と規定しなほしてゐるが、當分の間とはいつまでをいふのだらう。とにかくここでも傳統が斷られた。◎1570(21.6.8)

### 漢字は嫌ひだった

世の中に絶えて漢字のなかりせば春の心はのどけからまし。戦後教育の第一期生。漢字は嫌ひで嫌ひでならなかつた。書くのも嫌ひだつた。今以つてまともに字が書けない。

本があまり無く、主として戦前の本を讀んで育つたせいで、漢字を讀むのには不自由しなかつたが、漢和字典を引くのは苦手だつた。ほとんどが音訓索引で間

にあったのは、今にして思へば、形聲字が多かったからなのだ。

テレビで相當な人が、他人事をタニゴトと讀む。もし當字といふことを説明するならヒトゴトを人事と書くことはできないのだから、これほど恰好な例はないと思ふが、さういふことも教へてはゐないのだらう。後輩が有名出版社から出した本、直接教へを受けた人に對して私淑といふ表現を用ゐてゐて、その師に當る人が序文を寄せてゐる。序文を頼んだ側も頼まれた側も編集者も辭書で「私淑」の意味を調べたことがないのだ。

五月二十七日の日本經濟新聞によると小學生用の國語辭典が賣れてゐるとのこと。しかし、そこで採り上げられてゐる辭書は一つとして五十音の假名を網羅したものが無い。ワ行のヲはあるにはあるが、助詞「を」のためで、ヤやエに到つては完全無視だ。長じて戦前のものを讀み本物の辭書を引きたくなつたらどうすればよいのか。子供は背伸びしたがるものだ。語彙は大きい方がよい。

文字の大きさはどうか。これも子供の視力がよいのだから、子供用の辭書は文字が大きくなければならないといふのは商業主義だと、確かシドニー・ランドーも言つてゐる。

少し脱線したが、とにかく字を書くのは大の苦手だ。必要は發明の母。タイプライターの發明者はきつと字を書くのが下手な人だったに違ひない。ワープロやパソコンが生まれて救はれた思ひの人は多いはずだ。しかし綺麗に書くことができるとやうになると字の間違ひが判然とする。

パソコンで打つてゐるときは誤魔化せても、宅急便の宛先を書くときなど字を書けないことがある。さういふときはいい加減に書く。讀む方で適當に判讀してくれるからだ。ヘンリー・ブラッドレーは「話し言葉と書き言葉との關係につい

て」の中で

何年も前のことであるが、新聞の死亡廣告で「友人諸氏 (friends) にお知らせする」と始めるべきところを一字の違ひで「惡魔諸氏 (fiends)」となつてゐたことがある。切り抜いて裏打ちしたものを大勢の人に見せてみたが、何度も讀み返しながら誰も誤植に氣づかなかつたのである。

と述べてゐる。これも同じ現象について述べたものだ。

NHKクロージング現代「虎は良くても鷹はダメ? (常用漢字大論争)」(六月十九日)で生徒を生徒と書き、卒業を卒業と書く例が出てきた。今の人は字を間違つてゐるくせにしつかり書けるのだ。とんでもない事態だと思ふ。漢字教育がなされてない、いや本末を取違へた教育がなされてゐるわけだ。漢字制限をするからこんな結果になる。似たやうな字は並べて言語學でいふ辨別の特徴を教へるしかない。

筆者は鹿兒島育ちで三鷹市に長年住んでゐたけれど「鹿」も「鷹」も常用漢字でなかつたことは、今度の新常用漢字表の問題が報じられるまで知らなかつた。

子供の頃讀んだ大佛次郎の『赤穂浪士』に大石無人といふ坊主頭の男が出てくる。腕も立つが口も達者。口で負けた奥州上杉家の息のかかつた男の科白から

「だまれだまれ」

「ふウむ。口に年貢でもかかるとい

ふのか」

「……」

「そりゃア江戸ぢやア聞かない話だ。多分ずつと北の國の話だな」

覺えてゐるのは此所だけであるが、米澤藩より現代日本の規制が厳しいのは税金でなく使用禁止になつてゐることだ。

文化廳は使用禁止だとは言はないだら

うが、「外來語の表記」に用ゐる假名と符號の表にはちもツもない。

福原麟太郎のやうにチョンソン大博士と書くにはどれほどの年貢を納めればよいのか。かかることは多數決でなく權威によつて決めるべきだと思ふ。岡崎久彦氏に擴張へボン式について訊かれて、「<sup>1579</sup>でジはないでせう」と言ひをはらぬうちに、「成る程<sup>1579</sup>でジはフランス語式で英語式ならずだ」と納得されたのであつた。

鹿兒島縣人も三鷹市民も常用漢字表外字の使用を強ひられてゐた。表外字を使ふとなると字體の統一上、總べて舊字體にするしかない。鹿兒島や三鷹市では大手をふつて常用漢字表を無視すればよいのだ。残念ながら「鹿(カ)」が常用漢字表に取込まれることになつた。三鷹市は是非この特權を大事にして欲しい。

平井さんが秋波の讀みについて觸れておいでだ。この語を私を知つたのはルビ附の小説の中であつたのかどうか記憶にない。しかし比喩義の場合には音讀して意味を遠ざけるといふ感覺はもうあつたかもしれない。さうすると、ルビなしでもシウハと讀んだらうことは十分考へられる。この感覺、今の人にはあまりないやうで、「山積」を比喩義の場合でもヤマツミと讀むアナウンサーがある。實に耳ざはりだ。ついでに言へば、「冷水を浴びせかけられる」は比喩義でレイスイだけれど、「年寄りの冷水」は全體としての意味が比喩的に用ゐられるので、要素の冷水は具象的で「ヤミツ」なのだと思ふ。

子供の名前に秋波とした人がある。アキバと讀ませるつもりだらうか。辭典で意味を調べてゐたら避けたに違ひない。

日本經濟新聞六月十五日夕刊に慶大・シャープ基礎實驗成功として映像や文書が千年保存できるやうになつたとある。表音主義者のやうに次々と表記を變へてよいとなれば文書の千年保存に何の意味が

あらう。文部省は垂直方向の傳達に無關心であつただけではない。水平方向の通信に於ても新字體のやうに外國語を學ぶ場合のことも、外國人が日本語を學ぶ場合のことも斟酌しなかつた。

國家國旗法における日章旗の仕様の變更も世界中の國にきちんと通知したのだらうか。いささか疑問である。

◎1579(21.6.17)

### 英語教育に成功したはなし

前田さんの御論はいつも成るほどと思ひ、特に英語教育についての論はさうだと思ひながら讀んでをります。荒木さんが一五七九號で前田さんの書かれたこと引いて國際人の十分條件といふのを書かれた。

荒木さんの書かれるものも成る程と思ふのですが、理系の人らしく犀利といふのか緻密。しかし今回は氣になるところがありました。ポーランドのこと。英語は必要條件ですらなかつたことになりはしますまいか。

英語が出来やうと出来なからうと、實際であるかないかは別だといふだけでは足りない。國際人でない人が英語が出来るやうになることは、その個人にとつてはよいことかもしれませんが、國際的に日本の評價を下げる結果になることがある。

前田さんが一五七三號でテレビ朝が特ダネとして報じた金正男インタビューの英語について書かれたことにも通じること。高位高官の人を相手に取材するのであれば、相手の言語の使ひ手を差し向けるのがまづもつて禮儀ではないか。そして我國で朝鮮語の使ひ手を探すことが難しいとは言へない。

英語をむやみに教へるのは考へ物だと思ふやうになつたのは、或る縣の高等學校英語教育研究大會で研究授業をみたら



です。教科書の内容が、いはば白人が白馬にまたがった王子様よろしく差別されてゐる級友の黒人を助けるといふ話だった。

國際人でない人を地方人と呼べば、今の英語教育は日本風地方人を米國風地方人に變へるだけではないか。或る大學教授、三人の息子の英語教育に成功したため、三人は米國人と結婚して米國で暮らしてをり、孫に會ふのも簡單ではないといふ話があります。

財政が厳しくなつてから言ひだせば却つてやりにくくなる。今の内に小學校の英語教育も ATE も止めて貰ひたいものです。 ○1580(21.6.18)

## 英語教育に成功したはなし(二)

前田さん荒木さん御兩所の英語教育についての御發言、いつもさうだと思つて拜見してゐます。

荒木さんがポーランドでの經驗をもとに發言なさつたとき(一五七九)、用語のことで御主張が弱く受取られるのではないかと、補強のつもりで敷衍したところ(一五八〇)、文脈から必ずしもさうは映らなかつたやうで批判を受けた(一五八四)し、また前田さんは結論が必要ならと條件つきながら前田氏に近いと言はれる(一五八五)。

御兩所の驥尾に附して述べようとしたこと、結局は少し異なるところがあつたやうです。勿論、お二人のやうに英語を實務で使ふ立場にゐたことがないので當然と言へば當然かもしれませんが。

それで、少し外れるかもしれないところまで書いてみたい。

ポーランドや韓國の例が擧げてあつた。どちらも、独自の言語をもつ歴史のある文化圏。ポーランド語や朝鮮語ができれば必ずしも英語の必要はないのではないかといふ考へはすでに古いのかもしれない

せん。契約書が英語だとすれば、確かに英語は必須なのだ。

韓國なら鄰國。ポーランドとなれば途中いろいろの國を通る。そこで體調が悪くなつたら日本語やポーランド語では通じない場合がある。さういふときは英語が必要だといふこと。これもよく判ります。しかし體調を説明するとなると母語でも容易ではない。英語の能力を御兩所レベルまで身につけるのは容易ではないと思ふのです。

自動翻譯機といふのが結構役に立つものだといふことを聞いたことがあります。が、現在の程度に便利になつてゐるのか。自動翻譯機が発達すれば、この意味での英語の必要性は小さくなる可能性がある。

なほ、國際人といふこと、異文化に對するしなやかさといふか、頭の柔軟さ、もの考へ方の問題のやうに考へてゐて、あまり實務のことを考へてゐませんでした。

ベルグソンがヴォルテル高等中學校で行つた講演で「精神に柔軟性をもたせ、精神が自分の知つてゐることから知らないことへたやすく移れるやうにし、ある分野で手に入れた正確さを至る所に利用するやうにすることができると述べてゐるのは古典教育のこと。實務的な効果は端から考慮されてないわけです。公教育で語學教育をやる根本的理由は、やはりここにあるのではないか。

EUのやうな場合、多言語に對應するためのコストは相當なものにならう。共通言語が一つあれば便利だと思ふ人もあるかもしれない。もし英語ならどこでも通用するとなると遠からずして英語に呑み込まれてしまふ。

外國語を選択する場合、粹敬めをして、一定の人数には英語の修得を禁ずるといふか、英語以外の言語しか選擇させない方法を講ずべきだといふ考へがEUには

あるとする解説を聞いたことがある。つまり英語の通じないところをごまかしなければならぬとする考へです。或る席でこの話をしたところ日本があるから大丈夫だと請合はれてしまった。

エラスムス計畫がそれなのかどうか。實際はどうなっているのか。

千葉大学では未修既修に語學を分ける。ドイツ語は未修科目。英語は既修科目。三年生で留學できる能力の學生は既修の英語専攻より未修のドイツ語の方が人数が多いといふ報告がある。

中學校で六年かけて英語教育とは何であるのか。

高等學校英語研究大會で見た(一五八四)研究授業は音聲のみですすめるものであった。前置詞が脱落しやうと、Eのところで唇を閉じてゐなからうとおかまひなし。通じればよいとする教へ方なのだ。授業を受けた生徒の英語力が幾分でも上がったとはどうしても思へない代物であった。

小學校からの英語教育とA-L-T (assistant language teacher) は即刻やめるべきだと書いたけれど、會話主體の授業も止めるべきだと思ふ。◎1586(21.6.24)

故人献金での謝罪、苗字のことなど

・主宰者のアメリカが封建社會を忌避してきた逃亡者によって成立したとあるところ、それだけならまだしも、流刑地であったので悪黨も多かったのではないでせうか。

・鳩山由紀夫民主黨代表が政治資金収支報告書に故人の名前が献金者として記載されていることについて「國民に御心配、御迷惑を掛けお詫び申し上げます」と深々と頭を下げ謝罪した。

國民の一人として言ふが、心配はしなかつたし迷惑も掛かつたとはまったく思はない。「間違つたことをしたが、以後あ

らためるので許して欲しい」といふか、祕書のせいであるなら、「祕書が間違を犯したので解雇した。不明を恥ぢる」とでも言ふべきところだらう。もし祕書が間違を犯したのであれば、故人名義のところだけでなく、生きてゐる人の場合も正しいかどうか疑問になるのであるが、そのあたりについての報道はない。

「電車が遅れましたことを深くお詫び申し上げます」とよく聴くが、二分程度の遅れだったりするから、詫びるといふことをさうまともに受取る必要はないのかもしれないが、政治家は言葉が商賣。もっと言葉は大事に使つて欲しい。

第一、二分程度でいちいち車内放送など迷惑なだけだが、「お客様を案内したため」などと理由付けをされることがある。車椅子で案内された客を思ふと居たたまれない。

・一五九二號所載「苗字が先か名前が先か」で前田さんの言はれるところを読むまで「マイケルさん」が變だなどと氣づかなかつた。なるほど、マイケルはミハエルであり天使ミカエルなのだから洗禮名なのだ。苗字ではない。チャクソンさんと呼ぶべきなのだ。

名前を直接呼ばれることを忌むのは古くからあることで、本當の名前を呼ぶと魔法がとけたりする話が多い。名前を教へることは、今風に言へば携帯電話の番號を教へるやうなこともしれない。

苗字は形容詞。苗字で呼ぶ方が婉曲的で丁寧といふことになる。清水の次郎長に對して「清水の」といふ呼掛けはあらうが、いきなり次郎長は喧嘩のときだ。

歐米では形容詞は後廻し。だから第二次大戦は World War II であり、エリザベス二世は Elizabeth II となるのださうだ。我國では後醍醐天皇とか後白河天皇とか、形容詞部分が先になる。

私は英語を實務につかつたことがない

が、英文で手紙を書いた経験はある。姓名の順序を換へたことがない。但し、初めての相手の場合は必ず最初が family name であることを断ることにしてゐた。姓名の順序を換へるのが通例とされてゐたからだ。

文部科学省の国際社會に對應する日本語の在り方(答申)には「ローマ字表記においても「姓名」の順(例へば Yamada Haruo)とやるのが望ましい。なほ、従来の慣習に基づく誤解を防ぐために、姓をすべて大文字とする(YAMADA Haruo)、姓と名の間はローマ字を打つ(Yamada, Haruo)などの方法で、「姓名」の構造を示すことも考へられる。」とある。「ローマを打つ」のは順序を入換へたしるしだから、この注記は間違ひだ。

しかし、自分の姓名の順序に無關心であれば相手のことに對しての意識も薄くなりはしまいか。今、英米人の書いたものでも日本人の姓名の順序はまちまちだ。前田さんは「英語には我が國とは異なる姓名の呼び方がある」と、マスコミが先づ認識して統一すべきである。」と言はれる。私はそれに、我々が外國語で名告るとき姓名の順序を換へる慣用をやめるのなら、マスコミや役所など期日を決めてやるべきだとつけ加へたい。◎1593(21.7.2)

### 縦書か横書か

縄文塾の中村忠之さんが疑問となさる縦書か横書かの問題、一知半解ながら、かつて教育新聞に書いたことがあります。(教育新聞と「私の國語論」とAND検索で出てくるものの十番目のもの)「ここでは、縦書の場合の横文字のことを論じたのでしたが、header や footer のことまでは考へてゐませんでした。大文字ならば問題はないのですが、小文字の場合に「ヤ」また「ヤ」などで行間の調節が難しく。

要するに小文字を寝かせて組むと、行間を一定にすることがかなはなくなる。このことは考へてゐませんでした。もし一定にするなら、相當行間を大きくしなければならぬでせう。

和歐混植でないか、歐文が大文字もしくは算用數字しかないやうな和文が主の場合は縦組であるべきだとおもつてゐます。個々の字が縦組用に設計されてゐるので、行間が横組の場合より密にできるといふこともあります。紙の消費量からすれば縦組の方が環境にやさしい。

時事通信の記者が小著を讀んで「縦組にすべきであつた」と言つたことがあります。考へながら讀むには縦組でなければならぬとする信條があつたやうで、つまりは褒め言葉であつたわけです。

さういふ主張を、ある坊さんからもきいたことがあります。これが單なる習慣の問題なのかどうか判らない。判らないけれど、さうでないとする根據もない。もし本を出す機會があれば、縦組にしたいと思つてゐます。◎1594(21.7.3)

### 國語と外國語の錯綜

一五九四號「英語にローマ字は邪魔」はローマ字だけでなくカタカナ表記も英語教育上問題があるとされてゐるやうだ。確かに英語ができる人にはカタカナより英語のままがよいかもしれない。

マイケルさんと呼ぶのが變だといふことはすぐに判らなかつたと書いた(一五九三號)。マイケル・チャクソンといふ名前であることがすぐに思ひ浮かばなかつたからであるが、英語のままに Michael とあれば、天使ミカエルとの聯想は容易であつたはずだ。

同じやうなことはロシア語でもフランス語でもあるだらう。私は、漢字圏の場合の名前は漢字で書いてほしいと思ふ。『文藝春秋』6月號で關川夏央氏が韓國の野

球選手の名前をすべて漢字表記されたことにすこぶる感心した。

しかし、ロシア語やフランス語の人はさういふ事は言はない。英語ほど一般的でないといふこともあるかもしれない。英語の場合は特權的にさういふ主張ができるのかといふ疑問がまじある。

英語以外の外國語は英語をマスターしてからやるべきだと文部當局は考へてゐるのかもしれないが、ある言語の綴りの文法を身につけるといふのは容易ではなく、また幾つもの文法を同時に腦中に格納してゐることも難儀なのだと思ふ。

だからドイツ語専攻の人がエーと言へばAでひなくEであつたりするわけだ。しかし、その上で言ふのだが、今のカタカナに問題があることは確かだ。

市販の中學生用英和辭典の發音表記はカタカナだ。カタカナで英語が書けないわけではない。しかしそのカタカナの使用に制限があるのだ。文化廳のサイトで「國語施策情報システム」「内閣告示・内閣訓令」「外來語の表記」と辿ると「外來語の表記に用ゐる假名と符號の表」なるものをみる事ができる。ここをみるとチもツも使へないことが判る。

少し話題を變へるが、最近或る席で臺灣を植民地であつといふ事自體間違ひだと述べたら響聲をかつた。

植民地だから日本のやつたことはすべて悪であつたはずだと考へる人は多い。1593號の當時のロンドン・タイムスの記事のやうなことを知る人はほとんどないだらう。その悪とされる一つに言語のことがある。

ELEC (English Language Education Council) の會報『英語展望』第八十九號(昭和六十一年秋季號)「つづり字と發音」特集號に『表音小英和』といふ辭書の方法について英文で書いた。もともとロンドン大學のギムソン教授宛に書いたこと

だつたからであるが、最初はかつた。

Many attempts were made to overcome the seeming discrepancy between English spelling and pronunciation by reforming the former to conform to the latter with an expectation of orthoepic side effects.

orthoepic side effects といふのは方言矯正のこと。表記は發音に影響するわけだ。一五〇八號に Levelers の主張と書いたのと通じる。方言矯正は左翼の主張であつた。これは Listener で讀んだのだつたと思ふ。あつと思つたことを覚えてゐる。

『朝鮮人が日本人をあつかうの6ヶ條の秘訣』(一五八三號)といふのは完全なる漢文。朝鮮は庶民と士大夫と言葉の面でも相當異なつてゐたらしい。

SAPIO(二十一年六月二十四日號)に水間正憲の不連續連載「朝日新聞 朝鮮版の研究」第四弾は日韓併合以降の問題について

「言葉を奪つた」どころかハンゲルを廣め、教へたのは日本だつたとして、次のやうに言ふ。

總督府の文言一掃運動として取上げられるまで公教育でハンゲルが教へられたとする記録はない。

儒教社會で身分による格差が大きく、二つの朝鮮語で放送した。日本語を解する人、一九一三年で千人中六・〇八人、一九四三年で二二・五人。これが強制の結果であらうかといふ。

確かに戦時下一九四一年二月發令の國民學校令には朝鮮語及漢文の授業はない。しかし學校によつては隨意科目として教へるところもあつた。さらに教育令や學校令の對象外だつた師範學校では終戦まで毎週一乃至二時間の朝

鮮語教育が實施されてゐた。

これで愕然とするのは、我國のありやうだ。教員養成課程には國語音韻史もなく戦後の表記改革についても一切教へないままに小學校の教師として送り出されてゐるのだ。

我々は米國の植民地ではない。にもかかわらず、姓名の順序を逆にすることに何の違和感ももたず、昭和二十一年布告の現代かなづかひにはあつた注意書

「クワ・カ「グワ・ガ」および「ヂ・ジ「ツ・ズ」をいひ分けてゐる地方に限り、これを書き分けてもさしつかへない。

すら昭和六十一年の改訂で削除してしまつた。國語に對するかかる掣肘は植民地でもなかつたことではあるまいか。

私はハワイに行つてハワイ語の復活運動に協力する氣持はないが、國語が毀れていくのは見るにしのびないものがある。

今の子供は五十音圖といふのを教へられない。假名の表だ。ローマ字で書き表はさない中エがないのは勿論、濁音の表でもダ行はダデドだけでチもツもないのだ。玩具賣場にいつてもイロハ歌留多ではなくアイウ歌留多だ。孫の運動會、玉入れで和語で數へないのに驚いた。ひい、ふう、みいと唱へると異なり、一つ、二つと言ふときは和を意識するやうな氣がする。たとへて言へば、ヒトリ、フタリといふのと同じやうに感じるといふこと。

先日酔つぱらつて自轉車で轉倒。目を怪我して病院に行つたら、ものが二重に見えた。眼球を動かす組織は微妙だからレントゲンを撮らうかと言はれた。そこまではしなかつた。和語、漢語で數詞が二とほりあるのは贅澤だと、今の文部省の表音主義者（字母節約主義者）は考へてゐるやうだが、日本人の國語運用の脳内組織は微妙だから變容を蒙るだらう。そ

れが氣になる。 ◇1595(21.7.4)

音韻體系に併せて變化せざるを得ない

前田氏のカタカナ語についての論（一五九四號）に觸發されて考へたことを一九九五號で述べた。同じ號に他にも氏の論を受けたもの、それに對して氏の書かれたものなど澤山あつて、主宰者が身邊雜記で「英悟、ローマ字、カタカナ論、盛んにご意見を出し合つた方が良い」と言はれたほどだ。

氏はまた一九九五號で「英語に關する論議が盛んになり、背中を伸ばして姿勢を正しくして讀むべき投稿が多くなつたのは良いことだ」としてカタカナ表記のことについて述べてをられる。

ところで、マイケルでなくマイクルといふ表記、これは前田さんの持論のやうだが、これについては異論がある。

一九九五號で主宰者が引かれたものに、マスコミ各社が東京で會合しアメリカ大統領候補の呼び方をリーガンからレーガンに改めた例がある。

理由があつて從來の表記を訂正する、さういふことにすべて反對だといふわけではない。Regan の場合は改めるに十分の理由があつたと思ふ。といふのは、これは英語音をどう轉寫すべきかの問題でなく、英語の音が如何なるものであるかの問題。母音字 e はイーかエかが本來であるから、Regan の場合は例外的な發音であつて英米人でも間違ふ性質のものだ。このやうに綴りから發音の類推がつかないやうな綴りの語を shibboleth と呼ぶことをヨーロッパ辭書學會で提言したことがある。

もつとも Regan は語 (word) でなく名 (name)。語であれば shibboleth は不安定なる存在。相當に頻度が高くなければ、綴りから類推できる發音に變化して

しまふ可能性がある。shibboleth の例を  
挙げれば、English がせじだ。これはエ  
ングリッシュではない。

shibboleth ではないけれど、英語とし  
て間違つてゐると思ふ例がないわけでは  
ない。Peter Milward はピーター・ミル  
ワードと表記される。これはミルウォー  
ドとすべきではないかと、或る懇親會で  
御本人に伺つたところ、まあ、それはさ  
うですがと言はれただけであつた。しか  
しパソコンのマニュアルでワーニングと  
あるのは間違だと言ひたい。これは「擴  
張へボン式の提唱」の最後に、Linux を  
リナックスと表記することの問題などと  
併せて書いた。

もう一つ、日本語の音韻としてどうか  
といふ問題。

平成十八年十一月一日正かなづかひの  
會發行の『かなづかひ』といふ小冊子の附  
録にある五十音圖は擴張へボン式のロー  
マ字表である。外來語表記にしか用ゐら  
れない假名と國語音韻を表記する假名と  
は區別できるやうになつてゐる。ヂツは  
後者だがヴァやデユは前者だ。英語音が  
らすれば violin はヴァイオリンであるべ  
きだが、一度バイオリンと後者だけで表  
記される形が行はれるやうになれば、ヴァ  
の方に固執すべきではないとする考へだ。

さて、前田さんのカタカナ表記は英語  
につきすぎてゐると思ふ。もつ何十年も前  
のことだが或る雑誌の投稿欄で日本在中  
のアメリカ人がアルファベットよりカタ  
カナの方が英語を書くには適してゐると  
實際にやつてゐたのを讀んだことがある。  
確かに英語だと思つて讀めば英語として  
讀むことができた。彼の方式なら Michael  
はマイケルでなくマイクルもしくはマイ  
クーのやうに書いたはずだ。

ロシア語をロシア人に習ふと例へばモ  
スコワであれば最初は Moskva を音節「  
とに切つて」モー、スクヴァー」と教へる。

それから一語につなげて「マスクヴァー」  
とやつてみせる。

始めはモーと發音しておいて實際には  
マになる。この場合アクセントは第二音  
節にある。強音節直前の母音。は弱化し  
てアと發音されるといふ規則が働いてゐ  
る。この音質の違いを母語話者は意識し  
ない。

英語にも弱音節がある。弱音節は弱音  
節として發音することが大事で母音の區  
別は重要でない。弱音節はすべて曖昧母  
音で發音しても意味傳達に支障はないと  
される。曖昧母音とは發音記號では e を  
逆にした記號(シューワと呼ばれる)で  
表わされる。

Michael は二音節。マイケルでは四音  
節になつてしまふ。第二音節は弱音節だ。  
最後の「は母音的響きを持ち、單獨でも  
音節主音になり得る音だ。したがってシュ  
ワを括弧に入れたり斜體にしたりして  
省略可能とする表記もあるはずだ。だか  
らマイクルやマイクーの方が英語に忠實  
だと言へるかもしれない。

しかし、弱母音を母音の質まで氣にし  
て書分ければ收拾がつかなくなる。with  
の發音を十四通りも載せた辭典があつて  
話題になつたことがある程だ。ちよつと  
變な言ひ方だが、表記は楷書でなければ  
ならないが發音は草書になる。さう納得  
してかかればマイケルでもマイクルでも  
選ぶところはないはずだ。もし納得して  
掛からなければマイクルの方がマイケル  
より英語らしく響くだらうと期待するの  
は無理だといふことはマリークラー  
と音節單位で發音してみると判るはずだ。  
日本語は等時拍、どだい英語らしく發音  
すればなんとも据はりの悪いものになる。

英語で何故 Michael といふ綴りのま  
までよいのかを考へてみてほしい。Michael  
を ae の字母に戻つて、マイケルと寫した  
ことは先人の智慧であつたといふべきだ

らう。

今、手許で確認するじやうがでないが、POD (Pocket Oxford Dictionary) の古い版の巻末には外來語の發音といふ頁があつて、殆どフランス語のものばかりだつたと思ふけれど、原語の發音と、それが英語化された場合の發音とが並んであつた。この二つがどう違ふかといふと、英語化された場合は二つの音節が長母音になるといふこと、それから鼻母音が母音ブンス鼻音といふ形になること。

かこつ OED (Oxford English Dictionary) の supplement の編者 Burchfield 氏の講演が紀伊國屋ホールであつたとき、後に Hornby の辭書の改訂をやることとなる Cowie 氏の講演もあつた。氏の發音におけるフランス語系の語はフランス語そのままだったので、違ふぢやないかと思つたことを覚えてゐる。氏はフランス語専門だつたのだ。

とにかく、或る言語音は、別の言語に入つた場合、音韻體系に併せて變化せざるを得ない。變化してこそ外來語だ。更に言へば、意味まで變れば本當に外來語だと思ふ。さうでなければ、まだ外國語と言ふべきだらう。

弱音節は日本語表記に馴染まないものだと思ふ。實は拗音といふのも問題だと思ふ。琉球を舊假名の轉寫で書けば rikin だ。少し端折つて言ふが、この母音直前の i (prevocalic i) は子音化してゐるから y とすべきだとするのが現代假名遣だ。それで ryukyu となつた。等時拍からすれば一拍分の持續が失はれてしまつた。表記は分節的だ。その二つの記號と音との對應關係に嚴密であらうとすると何が毀れることがある。

臺灣のじやう London Times のサイトを覗いてみた。一七八五年の創刊號から讀めるやうになつてゐる。前回『英語展覧』「じりり字と發音」特集號に英文で書

いたものの冒頭を引いたが、最後に次のやうに書いた。

Brook told more truth than he meant when he said, "the pronunciation of English is constantly changing and we have reason to be grateful that spelling is not constantly changing along with it."

單音レベルで音と記號とに對應關係を求めてゐたらかかることはあり得なかつた。今、文部省が一部の漢字を圍い込んだうへに一般の漢字と字體を變へてしまつたことが、この情報化時代において如何に國益をそこなつてゐるか考へてみてほしい。

いや、そもそも我國には戦前戦後を通じる國語辭典すら存在が許されないのだ。教育の荒廢は當然だ。地方分權をいふなら、文部行政からの獨立を主張して欲しいものだ。

なほ、ローマ字も問題だとある。訓令式が英語の表記を學ぶのに邪魔になることは確かだ。ではへボン式ならよいのか。わたしはへボン式も問題だと思ふ。特にジに *z* を當てたことは問題だ。「で始る語の發音を英和辭典で調べると語頭に *p* があることが判る筈だ。」は夕行音なのだ。英語で綴りの發音を教へるなら「の名前はチエイにするよりないと思ふ。」のあたり、前田さんはどうお考へになるだらうか ◇1597(21.7.6)

#### 發音論考察若干

一五九八號で「の名前がジエイでは變ではあるまいかと書いたが、舌足らずであつた。どだい、アルファベットの字母 (letter) の名前を問題にすることが異常なのだ。といふのも letter をラテン語にまで遡つてみれば記された記號といふ意味だけでなく、その記號の表す音の意味

もあつたとされるのだから、字母はその  
夫夫名前でもあつたわけだ。

このことは、或る意味で現代の英語に  
もあつて vowel とか consonant と言へば  
母音とか子音とか音のことのやつでもあ  
るが、これらは同時に書かれた記號でも  
あるので、英和辭書では御丁寧に母音  
字とか子音字とかの譯語も並べなければ  
ならぬ。

少し廻り道かもしれないが何故さう考  
へるかを述べてみたい。適宜小見出しを  
たてる。

#### 【音の訓】

徳川家にテクセンケとルビを振つたも  
のを見たことがある。音と訓と讀みが異  
なつても同じ字を指すやうな理解は我々  
には馴染みのものだ。家康はイハヤスと  
訓で讀むが慶喜はケイキと音が普通だ。訓  
だとヨシトサであつたりノリヨシであつ  
たりするところ。

かういふ例を考へてみると、我々の腦  
中のありやうは決して音が主で表記が従  
だとはかりは言ふわけにはいかない。

#### 【acronym の Iteration】

英語にもなつていふものがあると思ふ。例  
へば略語がなつた。略語は通常の意味の  
語と異なり、意味を指し示すわけがなく  
語を指し示すのが原則だ。だから一つの  
見出しと、その語の觀念のまとまりとの  
對應關係を氣にする必要がない。例を擧  
げれば耳の意味の ear と種の意味の ear  
は別の語であつて、一つの語に一つの意  
味を併記するところはなう。

こののが LSD が大陸用舟艇母艦 (Land-  
ing Ship Dock) の L の D の L の 幻覺劑の一  
種 (Lysergic acid Diethylamide) のあ  
らうと一つの見出しに纏めることができ  
るのは、意味ではなく綴りといふ形を問  
題にしてゐる觀念の問題ではなうからだ。  
しかし、その形の使用頻度が高くなるた  
直接にものを指すやうにもなる。NATO

(North Atlantic Treaty Organization) も  
その例かも知れない。

かういふ略語を acronym (頭字語) と書  
ふところがあるが、本来の acronym は單語  
として發音可能なものを指す。LSD も頭  
字の組合せではあるが一文字ずつ字母の各  
前を讀み上げねばならぬこの Iteration  
と呼んで區別する。この區別は丸善の『學  
鑑』昭和五十一年六月號に「Webster 大  
英語辭典第三版新補遺六千語」の紹介で  
用ゐたのが我國でははじめてだと思ふ。

頭字語が本當の語にならば語源とつて R  
の形は取れなかつた。Radio Detection  
And Ranging の頭文字を並べた radar  
はその例だ。語源が忘れられた組織名例  
に UNICEF がある。一九四六年 United  
Nations International Children's Emer-  
gency Fund とつて設立された、その  
acronym だ。一九五三年 United Nations  
Children's Fund になつたが名稱はそのま  
ま踏襲された。

#### 【NATO】

英語を母語とする人の發音を假名に寫  
せばネイティブであることに間違ひはな  
い。これをナートーといふのは英語的感  
覺からしてもそれほど外れた讀み方では  
ないのではあるまいか。といふのも、廣  
口母音のレターが續くことも廣口母音で  
をはることも英語的でなく、その意味で、  
YOKOHAMA のやうに音節として區切  
るやうな發音は十分考へられるからだ。

#### 【PISA】

このは第一一八三號で書いたことの再  
論。PISA は Programme for Interna-  
tional Student Assessment の acronym  
だ。朝日新聞平成十九年十一月廿四日の『ニ  
ューズがわからん』に PISA は英語であ  
るが佛語風に「サ」と發音するところ。ネッ  
トで調べると「サ」と讀む人が多い。彼ら  
は間違つてゐることになるのか。OECD



Dの本部はパリ。だから日本人はフランス語風にこれを発音しなければならないのか。

音聲が一次的で文字は音聲を表す二次的なものとするのが西歐言語學の主張。しかし、PISAのやうな場合は、この大文字で綴られた視覚上の語形こそ一次的であつて、音聲はこの視覚的語形を想起せしめるために働く二次的なものだ。この綴りを想起せしめるアルファベットの読み方は各言語ごとに癖がある。英語でも佛語でも<sup>s</sup>は有聲音に圍まれれば同化して<sup>z</sup>と同じ發音になること、それは彼らの言語の、その限りでは缺陷といふべきもの。我國で、これをピサと讀む人が多いのは、一つにはそれが、ラテンアルファベットの元來の讀み方であり、そのことをローマ字を通して學んでゐるからであるが、もう一つには、おなじみの米國風イタリア料理の名前と區別するにも都合が好いからで、かかることを、さかしらをして問違であるかのやうに識者がいふことこそ問題。戦後の國語行政はかかるさかしらの暴走した結果だとみることが出来る。

要するに我々も、NATOならばNATOの、PISAならばPISAの綴りを想起せしめる讀み方をすればよいはずだ。ローマ字は母音は大陸式で子音は英語式といふのが大原則。NATOのナーも、PISAのピサも、ローマ字式に適った讀み方だ。もしピサと讀めば私だったらpizaといふ綴りを考へてしまふだらう。

ただしIterationとなることだ。字母の名前まで母音字は大陸式とするわけにはいかない。もし大陸式ならエーはAでなくEであり、イーはEでなくIになるからだ。

#### 「字母の名前」

字母の名前は英語式で我儘してもらふよりしかたがない。するとJSDはエルエ

スデーでなくエルエスデーとなる。ドイツは國語本來の音ではない。つまり擴張五十音圖の擴張部分のカナまで援用せざるを得ない。もちろん國語本來の部分が役立つならばその方がよいはずだ。

「私の國語論」の二「カタカナ語の問題」に次のやうに書いた。

ポルトガル人が日本語をラテンアルファベットに轉寫したとき、ジを「ジ」とし、ヂを「ヂ」とした。ポルトガル語で「ジ」は同じ音を表す。しかし書き分けが徹底してゐるのでジとヂを違ふ音であつたはずだと橋本進吉は述べてゐる。

狭口母音の前の<sup>g</sup>の音價はソフト<sup>g</sup>と言はれるが、これがフランス語では摩擦音で英語では破擦音であることはよく知られてゐる。ポルトガル人の鑿みに習ふまでもなく、フランス語の場合はザ行音で英語の場合はタ行音にすべきだらう。この場合、音がどうのかうのと文部省の役人に言はれたくなければ、區別する方が情報的に價値が大きいといふだけでもよいかもしれない。

子音字の名前は母音と異なり、その表す音にながしかの響きが伴ふ。この響きは母音字<sup>o</sup>で表される音だ。<sup>o</sup>の音價は大陸式ではエであるが、英語の場合はもう「イー」があつて、この二つは開音節と閉音節に分布してゐる。閉音節とは子音で閉じた音節。

例へば、字母<sup>s</sup>の名前はエスであること、これはドイツ語でも英語でも變らない。しかし字母<sup>r</sup>の場合はドイツ語ではデーであり、英語ではティーになる。それぞれに字母の名前をアルファベットであらわせば<sup>es</sup>と<sup>te</sup>だ。つまり或るときは<sup>o</sup>が前について閉音節となり、或るときは後ろについて開音節となる。

持續して發音するのに支障のない音は後ろに響きを必要としない。アルファベッ

トの字母の名前にみてとれることは、持續して發音できる音であるかないかが大きな違ひとされてゐることだ。このことに氣づくまで随分時間がかかったが、さう氣づいてみると、摩擦音と破擦音の違いはアルファベットにとっては非常に大きな意味があると思はれて來た。

ところで、「」の字母の名前は響きとしての介添へとして標準の<sup>o</sup>でなく<sup>h</sup>だ。これは<sup>o</sup>が廣口母音の前では hard つまりガ行音になるので、それを補充するチの子音だからだ。だからこの介添への響きは<sup>h</sup>といふ廣口母音をあててある。そこでこの名前はチェイとしなければ正しく發音が教へられないと思はれるのだ。いや、少し欲張つてゐるかもしれないが、發音だけでなく、かう言へば少し大袈裟に聞えるかもしれないがアルファベットに僭む文法の説明がやりにくからう。

「」の字母としての名前の介添への響きが<sup>h</sup>であれば、當然<sup>h</sup>のことも聯想が及ぶ筈。<sup>h</sup>の名前も例外的。本来<sup>h</sup>といふ名前の字母がなければならぬ。狭口母音による口蓋化によつて、この<sup>h</sup>は<sup>s</sup>の音に變つた。つまり<sup>o</sup>が本来<sup>h</sup>の音を表してゐたわけだ。もし<sup>o</sup>の音價が最初から<sup>s</sup>であれば介添への響きは前についた筈だ。

國語音韻史ではチとジ、ツとズは別の音を表してゐたが、いつからか、その區別がなくなつたとする。へポンは和英語林集成でチジに「」を當て、ツズに<sup>h</sup>を當てたのだから、ダ行音の方向に收斂したとみてゐたと思はれる。だからへポンのローマ字を前提にして字母を刈込むなら禁止すべきはジズであつた。戦後の文部行政はボタンを掛け違つた。

しかし、そもそも禁止する必要がどこにあるだらう。言語は音聲が基本。音聲は變化する、その變化に従つて表記を變へるべきだとするのが表音主義者の論だ

と思ふが、ではまた音聲が變化したらどうするのか。實際、主として英語の洪水のやうな流入によつて四つ假名の區別どころか、逆の方向に動いて戦前の假名字母で足りなくなつたのが實體だ。

岩波文庫『米歐回覽實記』では George-town はチヨーチタウンだ。福原麟太郎先生は Samuel Johnson のことを決してジョンソンと書くことはなく、チヨソン大博士で通されたのだつた。

語學の入門期にはレターと音價の關係は重要だ。「」と<sup>h</sup>が有聲音無聲音の關係にあることを外すわけにはいかなうと思ふ。以上、「」の名前をチェイとすべきだとする理由を述べた。◇1599(21.7.8)

### 憲法改正は二言語で

一六一三號でミュンヘン在住の永治ベックマン啓子さんが一時歸國した東京で漢字驛名の下に簡體字とハングルが書かれてゐるのを見てカルチャーショックを受けたとして次のやうに述べておいでだ。

不快で何だか怖くもあり同時に腹が立ち、こんなバカな事は許されるべきではなく、直ぐに消すべきであると思つた。外國人に分かり易い表示を考慮するのならば、ローマ字だけで十分である。(中略)

観光客の爲と言ふならば、それは明らかに詭弁である。(中略)

もしも、ドイツの驛名の下に、ドイツ人が讀めないアラビア語やトルコ語などが書かれてゐたとしたらそんな事はエイプリルフールの悪い冗談にもならず、行政や市民にとつても考へられないし實行不可能で當然許されない事である。

それが、今日日本で實際に起きてゐる忌々しき出來事である。今阻止しなけ

れば、更にウィルスのやうに増えていくに違ひない。

そして話はドイツの科學番組で見た實驗のことに及び。ピーカーに水を入れ、その中に蛙を入れて時間をかけて加熱していくといふもの。

水温が適當に上がり暖かくなれば、蛙は氣持よくなり春のやうだと感じるかもしれない、そのうち夏が来たかと思ひ、やがて絶えられない温度になり致死熱温度となる。

蛙はその危機的状況に氣がつかないのか、氣がついた時は飛び出す力が残ってゐなかつたのか、飛び出して逃げやうとしなく、その内氣を失ひ茹で上がり死んでしまふ。

最近讀んで知つたことだが、河野與一は戦後の現代假名遣や當用漢字の制定、公布を不満だとする奥方を「まだいい方だよ。日本語の使用が禁止されなかつただけでもね」となだめられた由。しかし、使用禁止に比べれば我慢できるではないかといふ状態がかくも長く續くとは思つてゐなかつたに違ひない。

文部省の人だけでなく、教育関係者は氣持よくなり春のやうだと感じてゐるのだらうか、或は茹で上がってしまったのだらうか。教育関係者、特に英語教師養成の大學関係者の發表を聴く機會が何度もあつたが、行政の民度は、その自治體が幾つの言語に對應してゐるかに比例するといふが如き論が多かつた。

さういふ學者が教育や行政に口を出せばどうなるか。驛名だけの問題ではない。市の廣報にもハンゲルや簡體字が踊ることになる。もちろん英語での案内もある。錢湯にある、風呂の入り方の説明のポスターもさうだ。その英語が大分怪しい。「入る前にご覧ください」と冒頭にあるところは Look で始まるのだ。いふまでもなく「ご覧ください」は讀んで欲しいとい

ふことで、湯殿の境のところに張つてあるからといって裸體を覗けといふことではない。

廣報など、ハンゲルや簡體字を使用するコストは相當なものだらうが誤植があつても氣づく人はあるまい。舊字體にすれば簡體字の場合より裨益する外國人は多いと思はれるが、さういふことを指摘する學者は少ない。

漢字檢定協會といふところの試験、現代假名遣新字體が基本なのださうだ。もしこの檢定を大學や會社の試験など廣く日本中で採用されるとなると、河野與一は大きく間違つてゐたと言はなければならぬ。

いやあの世代はまだ日本人を信賴してゐた。今はみんな春のやうだと感じてゐるので、舊字體で書いたり歴史的假名遣で書いたりするだけで忌避される。この際、御觸れをだして、舊字體や歴史的假名遣での出版物に對しては公的助成をすべきではないだらうか。もしくは、一定の割合で傳統的表記の頁を設けることを新聞に義務づけるべきではないだらうか。さうでなければ、皆焼け死んでしまふことになる。

ことに重要なのは憲法改正だ。今の憲法は傳統的表記。これに對して文化廳は何も手出しがでなかつた。もし憲法改正がいよいよゆる現代假名遣や新字體でなされるとすると、常用漢字表はまだこれからも改訂が續くものであり、現代假名遣も四假名など、これと決つてゐないものがある。そもそも文部省方式は永遠にうつりゆくことが基本なのだ。しかし憲法は文化廳の審議のつど表記を變へるべき性格のものではない。

憲法改正は傳統的表記で行ふしかないのだが、さう言へば現状を氣持よく春のやうだと感じてゐる人々からそつぽを向かれるだらう。せめて二言語方式、つま

り戦前の表記と文部省方式の二本立てにすべきだ。 ◎1614(21.7.21)

## 憲法改正は二言語で(二)

(一六一五號で岡崎溪子さんが憲法改正は新かなづかひでよいと述べられたのを受けて)

憲法改正問題と表記の問題とは一應別次元の問題とすべきだと思ふ。少なくとも、憲法で取上げられるあらゆる問題に關して表記は中立的だと言へるのではあるまいか。つまり傳統的表記であらうと、文部省方式であらうと改定について十分議論が可能はずだ。だから、この問題で岡崎さんのやうな方を煩はすことは本意ではなかった。

少し補ってみたい。

DNAを設計圖として細胞が生物個體を組立てる(constitute)といふことになぞらへるなら國を組立て、國の形(constitution)を決めるのは國民で、國民にとつての指針となるべきは先祖代々受け継がれてきた國語であり神話であると思ふ。憲法(constitution)は勝れて國語の問題でもある。

戦後の文部行政の指導理念は表音主義であった。表記は第一義的に音を表すものであり、ローマ字化こそ彼らの理想であったのではないか。漢字制限は漢字廢止に到るための移行措置であつたし、ローマ字で書き分けられない假名字母を不要とした缺損五十音圖のために工夫されたのが現代假名遣であつたとみることができ。

私見によれば、假名遣とか正書法とかいふことは社會的慣習によつてなりたつものだ。だから假名遣には本來歴史的假名遣しかない。現代假名遣とか新假名遣とか言ふのは形容矛盾。表音主義者によれば、音聲は時代によつて變はるから、そ

の時代時代で新規に考へ直すべきだといふことになる。

現代假名遣の場合、根本的にはどの表記が正しいといふことはなく、むしろさういふことに煩はされることを不要としたものだ。だから、テニヨハの場合を例外として、「フ行の「ぬ」「ぢ」を「や」「ぢ」「じ」あるいは八行轉呼音を用ゐてさへるなければ、現代假名遣として通用する。

表音主義は歴史的表記を破壊したが、新しい規範が示されたわけではない。現代假名遣の缺點とされる四假名(チとジ、ツとズ)の書分けやオ列長音(公理はコウリ、氷はコオリ)はヘボン式や訓令式にすれば消えてしまふ問題。ローマ字化の必要性が強調されたに過ぎない。そして、そのローマ字化も日米の間ですら統一されてゐないのだ。刹那主義だけが残つた。

◎1616(21.7.23)

## 十年かけて戦後の國語行政を見直すべきだ

七月二十七日ワシントンにおける米中戦略經濟對話ではオバマ大統領が孟子を引用したのをはじめ米側に支那先哲の言の引用が多く叩頭外交との評もあるらしい。

オバマ大統領の引用は最初「山道は人が歩けば道になるが、歩かなければ雜草でふさがれる」といふ譯で知つた。

岩波文庫『孟子』下巻四百七頁にある

山徑之蹊間

介然用之而成路

爲間不用即茅塞之

に當るものやうだ。「兩國の間の交流を雜草で塞いではならない」とする、まことに適切な引用のやうであるが、實はこの箇所は「孟子謂高子曰」と始り、最後に「今茅塞子之心矣」と結んであるもので、弟子高子の心のありやうを論じたものだ。そこまでの意味があるのかどうか

は判らない。なほ岩波文庫によれば一行目末尾の「問」の解釋は一樣ではない。

クリントン國務長官は「人々の心が一つになれば、泰山を移すことができる」といふ孔子の言葉を使ったとするニュースもある。何か配布されたものにさうあったのかもしれない。中國語で「人心齊泰山移」のことだといふことは判つたが、『論語』にあるものなのかどうか。論語のアーカイブ、ネットで見つけた一つは簡體字なので見ても判らない。繁體字の方は文字コードのこともあるのかもしれないが「泰山」では何も出てこなかった。

また、中國に短期留學した経験のあるガイトナー財務長官は「風雨同舟」をそのまま原語で用ゐたとのこと。我々なら少し意味がきつくなるが「呉越同舟」の方が馴染みの表現だ。

どうもアメリカ人に故事成語の教へを受けてゐるやうで變な氣がする。

三十日の夜、NHK十一時の大人ドリルといふ番組「これでいいのがニッポンの教育」の最後のところを見た。ゆとり教育のことが話題だったらしい。或る論者は詰込み教育が必要だといふことを否定するものではないが、詰込む中身が問題だと、無用なものの典型に漢文をあげたのであつた。英語のやうに役立つものを詰込むべきだと言ふのだ。

支那先哲の思想も英語を通じて學べばよいといふことなのだろうか。どんなに最新のことを教へやうとしたところで、未來のことを教へるわけにはいかない。所詮過去のことしか教へることはできないのだ。ただそれが心の働きを助けるやうなものであることが重要だ。

朝日新聞二十九日には繁體字復活の兆しのことが大きく報じられてゐる。

臺灣が正字體であることはよく知られてゐるが、大陸中國で「今後十年かけ簡體字を廢止し、繁體字を復活すべし」と

いふやうな意見が公然と唱へられるやうになつたといふのだ。「日本では繁體字を主體に独自の簡略字も併用してゐる。昭和二十一年に米國の方針もあつて漢字を制限する常用漢字表を定め、独自の簡易字體を導入」の結果がこれなのだ。

その常用漢字表は常用漢字表となり新常用漢字（假稱）が目下審議中だ。時事通信「内外教育」メールマガジン第二五七號に以下のやうな記事がある。

しんにゆうなどの形が違ふ漢字を混在させた「新常用漢字表（假稱）」の試案をめぐり、文化廳に寄せられた字體に關する意見の四割超が「字體を統一すべきだ」と求めてゐたことが二十八日、分かつた。文化審議會漢字小委員會の同日の會合でも、委員の間で「そろへた方が分かりやすい」「混在を認めないと情報機器の對應で問題が生じる」と意見が分かれ、議論が紛糾した。

現行の常用漢字のしんにゆうは點が一つだが、文化審が三月に公表した試案では、新たに追加した「遯」「遜」「謎」を書籍で廣く使はれる「二點しんにゆう」で表記。「餌」「餅」でも現行表と異なる形のしよくへんを採用した。

同廳が四月まで受け附けた意見募集では各種團體、個人から約二百二十件が集まつた。字體への意見は九十五件あり、うち四十二件が「字體が異なる」と教育現場に負擔が掛かる」「調和を圖るべきだ」として、現行表と同じ字體にそろへるやう求めた。

漢字小委は今後、新漢字表の案を練り直し、來年二月には文化審として答申する豫定だ。

常用漢字のための字體が特別なのだから字體を統一するなら、一點しんにゆうを捨てるべきだ。逆の方向をとるくらいなら常用漢字表の變更を一切認めるべき

ではない。ただしさうすると、文化廳の仕事が一つ減ってしまう。霞ヶ關の無駄をいふ政黨はなぜこの問題を取上げないのだらう。

常用漢字表は廢止する。「しんにゅう」は二點を正體とするが、十年かけて戦後の國語行政を見直すので、その間は一點でも間違ひとはしないとすればすむことではないか。◎1625(21.8.1)

裁判員制度は廢絶するに限る

裁判員制度、マスコミは判りやすければよしいふ態度だが、それが問題ではないか。

テレビで耳にした限りでは言葉についてすこぶるいい加減だ。「被害者に對して刃物を突き刺した」といふ表現があつたといふが、よく聽いてみると「被害者に刃物を突き刺した」といふことだった。「に對して」なら「突き刺した」は「突き出した」と同じやうなこともかもしれない。

殺意があつたかどうかが問題だつたらしい。裁判官の用ゐた「死亡させる」といふ表現は易しく言ひ替へたつもりかもしれないが難解だ。量刑からすると確定的殺意を認めてゐるやうであるが、死亡といふ結果を状況にゆだねたやうでもあり、さうであるなら未必の故意といふことになりはしないか。

「被害者に刃物を突き刺した」といふ表現が被告の自發的なものであるなら、殺意はなかつたとみるべきだらう。殺意があれば局所的な表現ではなく「被害者を刺した」だらう。

奇妙に感じたのは裁判員の被告に對する言葉遣ひ。すこぶる丁寧なのだ。ここは「役儀なれば言葉を憚らず」質すべきところではないのか。裁判官が指南してゐるのだらうが、肝心のことがなされてゐない氣がする。

裁くものが裁かれる者に對して權威として高みにたつことがなければ、人間を卑小なるものとしてみることがなければ、罪を犯した者に對して怒りを覺えるのが當然。量刑にも影響するはずだ。

裁判員制度は官から民へ移して効率化を圖つたものではない。効率の點でいへば全く逆だ。その上、裁判の權威を損なふのだから採るところがない。今は未曾有のとき。かかる制度は廢絶するに限るが、さしあたって施行中止を考へてもらひたい。◎1633(21.8.8)

國立慰靈施設は日中友好のためにこそ決してやつてはならない

或る大新聞のコラムで政黨のマニフェストの場合はフェにアクセントがあり、マにアクセントを置けば別の意味だと書いてあつた。日本語にアクセントによる區別があるとは初耳だ。いや英語であれば語頭にアクセントがあるのが本来。今問題の二語、一つは語末に。がある。つまり manifest と manifesto だ。この。があるのは外來語の印。これに引きずられて語末の方、最後の「つ」前の音節 (penultimate) にアクセントを置く。だから假名に轉寫するならマニフェストとした方が近いはずだ。

マニフェストなら明白なといふ意味。しかしちつとも明白ではない。天氣豫報が當らない。臺風の進路豫測なども、氣壓配置の變動によつてどう動くか判らないから常に最新の情報に氣をつけるやうにとの注意があるのが普通。民主黨のマニフェストは天氣豫報のやうに變る。それでマニフェストなどといふ變な外來語が廢れることになれば結構なことだ。

民主黨は國立追悼施設建設を考へてゐるとのはなしがある。マニフェストにあるのなら比較的安心だが隠してゐただけに本氣かもしれない。

どうしてさう考へるのだろうか。媚中政策のためだとするのは簡単だが、やはりさう信じてゐる根本のところがあるに違ひない。

首相の靖國參拜に反對する人々がある。さういふ人々は別に國立追悼施設を建設すれば參拜するといふのだらうか。そもそも一般に御靈を信じてゐないのでないか。靖國神社のやうな存在に意味を認めず、花見の公園や遊戯場など何等かの世俗的實利のある施設に變更したいといふのが本音ではないのか。國立追悼施設ならもつと狭い場所ですでなくらいに考へてゐるやうに思はれてならない。さういふ人々は國立追悼施設を必要ともしてゐないはずだ。

御靈のために靖國に參拜する人に對して、別のところへ行けといふのは餘計なお世話といふものだ。

何故靖國參拜に反對かと問ふとA級戦犯が祀られてゐるからといふ。A級戦犯とは何だと問ふと戦争犯罪人だといふ。ではB級やC級戦犯はどつかと問ふと、えつといふ。B級やC級の戦犯も當然問題のはずだ。國立追悼施設ではB級やC級戦犯はどつするのだらう。戦争犯罪人が問題であれば級によつて區別する理由はない。

國立追悼施設が出来れば靖國參拜は問題がないことになるのか。そんなことはあるまい。國立追悼施設ができて、心ある政治家は靖國參拜を續けるだらう。

國立追悼施設への御靈分けはどのやうに行はれるのか。「井の中の蛙」といふブログで書いたことだが、先年、祖父の歸天三十五年祭を機に、半世紀以上も前に没した二人の叔父の位牌を焼いた。二柱の御靈に神棚に祀つてある鏡に移つて貰ふ儀式を行ひ、空にしてから焼いた。位牌やご神體は祈りをささげる方向を示すpointerのやうなもの。位牌の間は個別的なpointerであつても、鏡になれば御先

祖様といふ集合的なものになる。もう個別に移つて貰ふことはできない。さういふことだと思ふ。

たとへ、分祀が可能なやうに取り纏つて別に祀つたところで、もとのところから抹消することはできないし、一部だけをコピーすることも出来ない道理。

「井の中の蛙」は英語日本語混交のブログ。こんなことを書いた。

ベンチャミン・フランクリンの一七六一年八月の文章 “The Jesuit Campanella's Means of Disposing the Enemy to Peace” といふのがある。カンパネラは英國を懐柔するには平和主義を説くことだ、さうすれば、彼の國の知識人は自ら平和を唱へるやうになるだらう。平和であれば經濟もつまく行くとの主張も生まれてこやう。さうして講和に持込んで時期を待つべきだと説いた。この文章の凄いのは平和を説くやからを唾棄すべき人として描いてゐるところ。

フランクリンがカンパネラに假託して説いたことは、マッカーサーはじめ占領軍高官の知識にあつたはずだ。日本を弱體化するには、平和主義をばびこらせることだと、さうはつきり意識してゐたかどうかは別として、我が國に見事に龍の齒を蒔いたのだ（龍の齒を蒔くとはギリシヤ神話に由來する表現で不和の種をまくといふほどの意味）。中國が靖國を問題にするのはその反映でしかない。

參拜といふこと、和英辭典では worship と譯してあるが、普通は visit とか go to といふ程度の意味。初詣などで神社にお参りしても祭神のことなど意識しない。「神社に參拜する」のを go to the shrine to worship the enshrined ghosts of the deceased といふのも當たらないと思ふ。worship ではなく pray to the heaven for one's family etc. して行くだけなのだ。近頃の「靖國を參拜する」といふ人

が多い。日本語が衰微した。

昭和四十七年の日中共同聲明の五に、「中華人民共和國政府は、中日兩國國民の友好のために、日本國に對する戰爭賠償の請求を放棄することを宣言する。」といふのがある。周恩来は「戰爭の責任は日本の一握りの軍國主義者にあり、一般の善良なる日本人民は、中國人民と同様、一握りの軍國主義者の策謀した戰爭に驅り出された犠牲者であるのだから、その日本人民に對してさらに莫大な賠償金支拂ひの負擔を強ひるやうなことはすべきでない。」といふ論法で中國人民を納得させたと報道され、我々は大いに感謝した。

A級戦犯を祀る靖國神社に首相が參拜することは賠償放棄を納得した中國人民の感情を逆なでするものであり、問題の解決には新たな國立慰靈施設を設けるべきだとする論調はマスコミに多い。マスコミは新字體現代假名遣ひだ。國語について戦前を無化し、新制日本を昭和二十年から起算する。國立慰靈施設を設けようとするのも戦前の無化に通じる。歴史認識もなにもない。

A級戦犯も我らの先祖であると引受けではじめて歴史を語ることができる。當時の中國人の善意を疑ふわけではないが、今になってみると反問苦肉の策にはまったわけだ。

國立慰靈施設などといふものをつくれば、それこそ日々、薪に臥し、膽を嘗めたりするやうなもので、恨みを残す。日中友好のためにこそ決してやってはならぬことだ。 ◎1640(21.8.16)

### 音と訓の間違ひ

英語には malapropism とか spoonerism とか言ひ間違ひの種類によつて呼び方がある。音と訓を読み間違へるのはどう呼ぶべきだらうか。音と訓は通じるものだから、あながちにとがめだてすべき

ものではないかも知れないが、テレビで聞えて來ると耳ざわりだ。ダスティーホフマン主演のアウトブレイクといふ映画、エボラを思はせる疫病のウィルスの宿主は小型の猿。テレビの吹替へはこれを訓でヤドヌシとやったのだ。和語になると意味が具體的すぎる。醫學用語なら音で読んで欲しい。

もつとも手許の辭書をみると訓でもよいやうだ。念のためウイキペディアで見るとシユクシユ、キシユ、ときにヤドヌシとあるが、分子生物學ではシユクシユとあるから、あの映画の場合はシユクシユであるべきだと思ふ。

音讀みのはずのところを訓讀みにする傾向は某放送局の場合に強い。今度の水害で床下浸水家屋の數をいふのに、たとへば二十三棟は絶対にニジフサナムネであつてニジフサントウといふことがない。二通りに讀むのは聽取者には難しいと考へてあるのかもしれない。

漢字の讀み、麻生さんもよく間違へる。しかし、間違ひを指摘する側も五十歩百歩のことがある。未曾有はミゾウウが本來のはず。このことは一四九一號(三月十七日)で書いた。今回はキズアトを音で讀んだので硝石と聞えたとのこと。では傷跡と書いてあつたのだ。字義からすれば傷痕だらう。これだと硝石にはならずシャウコンだ。要するに戦後の國語教育が漢字をないがしろにしてきた結果なのだ。

裁判員制度による二つめの裁判についての報道があつた。檢察も辯護側も如何に裁判員に判りやすくするかにおほむらはだ。豫行演習をやつて、刑の執行を猶豫するといふ表現のところを猶豫といふ語は裁判員には難しいだらうから言ひ替へを工夫するのだといふところがあつた。

猶豫の第二字の新字體は編だけに略した。畫數からしても難しいと思はれ



たのは猶の方だらう。辭書で調べると常用漢字だ。では、その前の常用漢字表には入ってゐなかつたのかとネットでみてみると、最初から常用漢字であつた。ただし教育漢字ではなかつたので、國民の大多数が學校で教はらなかつた字であることは確かだ。

しかし、裁判員が猶豫といふ語を知つてゐやうと知つてゐなからうとどうでもよいではないか。そんなことなどにかかずりはず眞面目に裁判のことをやつて貰ひたい。第一、猶豫の意味くらい文脈で見當がつくだらうし、見當がつかなければ質問するだらう。言葉といふものはさうやつて覺えていくものだ。

裁判員がそんな語を知らなかつたとして誰が一體困るといふのだ。文部省が國語教育を放棄したつけを法律關係の人が拂ふことはない。それとも法曹の市場擴大をねらつたものなのだらうか。

法曹關係だけではない。一六二五號(八月一日)で書いたやうに孔子孟子など支那先哲についての知識も必須なのだ。時事通信「内外教育」メールマガジン第二五九號(八月十三日)の巻頭のコラムは櫻美林大學孔子學院院長光田明正氏の秋田にある國際教養大學で「アジアの思想」といふ科目を擔當しての感想。

高校で英語を磨いてきた日本人學生、日本に興味を持つ留學生を相手に Confucius (孔子)の思想が世界に與えた影響はどうかとか Prince Shantoku の思想をどう評價するかなどを議論するのは楽しいものらしい。しかし多くの日本人學生は孟母三遷を聞いたことがないばかりか、孟子そのものを知らない。

氏は「泉下の父祖と再會し語りふ時 Confucius said と述べても理解してもらへないであらう」と結んでをられる。漢字を桎梏とした戦後の文部行政そのものに立ち戻つて考へるべき時だ。

なほ、花田氏は聖徳太子を Prince Shotoku と書いてをられる。Shantoku は擴張ハボン式による傳統的表記の翻字。ローマ字にしてみれば傳統的假名遣の方が合理的であつたことが判然とする。漢字だけではない。假名遣においても戦後の文部行政は間違つてゐたわけだ。

◎1642(21.8.18)

#### 民主党の國旗毀損

民主黨の集會で掲げた黨旗が日の丸を切斷縫製したものであつた。八月八日鹿兒島のこと。

このこと十七日の黨首討論で麻生さんが指摘するまで民主黨はほつかぶりする氣であつたらしい。麻生さんの批判に對して鳩山さんが「國旗でなく、我々の神聖なマークで、きちんと作られなければいけない話だつた」と答へたといふのは本當だらうか。釋明になつてない。

麻生さんも政權を擔當してきた黨の總裁だから、さう一概に批判できないのではないだらうか。國旗を單なる布きれとしかみないやうに教へてきたのは文部省の育成した教師たちであつた。最近になつて國家國旗法をつくつたけれど、君が代の歌詞の表記をみれば、眞に傳統を尊ぶものではないことが判る。

國旗を布きれとみる(鳩山さんは布きれ以下とみてをられるやうだけれど)ことも、靖國神社ではなく國立追悼施設でよいではないかとするのも元是同根。

麻生さんにはさういふ國民をつくつてきたことに對して少しは責任を感じてもらひたい。いや、そんな手合ひが國權を司ることになるとは思つてゐなかつたと言つても遅いのだ。民主黨は絆のある社會を目指すのだと言ふ。鳩山さんはキズナと書くのだらうか、キツナと書くのだらうか。

麻生さん、ここは崖っぷち。文部官僚に氣兼ねせず自民黨はキツナとするのだと宣言して欲しい。さうすれば文化廳のマッチポンプみたいな業務はなくなってしまうし、教師も國語が教へやすくなる。これこそ官僚に對する政治の果たすべき役割だ。 ○1646(21.8.22)

もともと教員免許更新制度に期待はしてゐなかつた

『日本經濟新聞』「私の履歴書」(三菱商事相談役横原稔)に英佛アラビア語を流暢に操るベッセといふ人のことが出てくる(九月十六日)。交渉は何語がいいかと訊くと「英語」と即答があつたさうだが、その説明が面白い。「英語は適當に正確、適當に曖昧で商賣の交渉にちょうどいい。フランス語はあまりに正確無比で、話が枝葉末節に入り込む。條約の交渉にはいいかもしれないが、商賣には不向きだ」といふのだ。

マニフェストなるものが登場してから枝葉末節に入り込んだ議論ばかりだが、その枝葉末節を論じる國語はどうだったのだらう。自民黨が駄目になっていったのはひょっとしたら國語のことがあつたのではないだらうか。

最近、電話の子機が毀れたので修理に出したところ、戻ってきたときの説明書に「過放電防止の爲、バッテリーのコネクタは抜いてありますので云々」と大書してあつたが、バッテリーが抜いてあるといふことだつた。電氣機器の使用説明書がこんな具合であると、とんでもない事故が起きてても不思議ではない。

『日本經濟新聞』の表記「何語がいいかと訊く」といふところは「聞く」となつてゐた。かういふ打ち間違へはよくやる方なので他人様のことを言ふ資格はないのだけれど、新聞社の人も見落したわけだ。ついでにいふと、「流暢」は「流ちょう

う」と交ぜ書きになつてゐた。「暢」は常用漢字でないからと編集部が直したものだらう。常用漢字は漢字を廢止するための移行措置。文字は表音機能が基本だから平假名にしても變りはないのだと編集部の人には信じきつてゐるわけだ。

東洋史の教授をしてゐた友人は、嚴密に意味をとる訓練になるからと院生の最初に必ず漢文教育を施すことにしてゐたとのこと。戦後の文部省の漢字廢止の方針のため父祖の代の國語力と今の我々の國語力の差がいかばかりになつたことであらうか。

いや、戦後の文部省の方針は吉田提案で覆つたのだといふ人がある。吉田提案とは以下のやうなものだ。

明治三十五年の國語調査委員會で、「文字八音韻文字ヲ採用スルコト」云々と云ふ基本方針が定められた。以來、漢字全廢論に基いた國語改革の思想が文部省では支配的となつてゐた。「當用漢字」は、さうした漢字廢止の流れの中で實施された。その流れを斷切るべく、吉田富三が昭和三十七年、第六期國語審議會において「吉田提案」を行ひ、表音主義に基いて行はれて來た國字政策の轉換を主張した。吉田氏は、國語審議會が國語に關して審議する際の方針として「國語は、漢字假名交じり文を以て、その表記の正則とする」と規定し、公表すべきであると考へ、検討すべき議案として提案した。

昭和四十一年、中村梅吉文部大臣の諮問に基いて、第八期國語審議會が始まつた。その諮問に際して「今後のご審議にあたりましては、當然のことながら國語の表記は漢字かなまじり文によることを前提とし」と云ふ文言が盛込まれた。(野寄健秀氏のサイトから)

吉田提案で漢字全廢の流れが斷ち切られたのは確かだらう。しかし、假名字母の制限はそのまま續けられて今日に至つ

てをり、漢字を表音機能においてみる交ぜ書きがひろく行はれてゐることは左に見たとほりだ。

小學校に上がる前に書くことができたのは名前だけで、それはトシヨだった。しかしヨの使用は禁止され、長いあいだ用ゐることができなかった。昨年五月十二日に三菱東京UFJ銀行の口座名義の振假名を、また今年六月には年金受給者氏名振假名もトシヨにした。銀行や社會保険廳も文部省の方針に従つてゐたのだと思ふ。それが籠が緩んでヨの使用を認めるところが出てきたのだ。しかし文部省が禁止を撤回したわけではない。禁止を撤回したのであればヤやエも解禁されるべきだ。いはゆる一バイト假名にはヤもエもない。ヨはア行の前に置いてあるのが通常の假名として考へられたものでない。しかし、とにかく一バイト假名の中に登録してあるので、その氣になれば使用することができたといふだけのことだ。

指導要領を改正して古典教育をやることになった。しかし文部省は假名字母の制限を撤回してゐない。實は新指導要領解説なるものが存在する。その中に「神話・傳承については、古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に傳はる傳説などが教材として考へられる。その際、兒童の發達の段階や初めて古典を學習することを考慮し、易しく書き換へたものを取り上げることが必要である。」とあり、また「古典を解説した文章を読むことによつて、それぞれの時代における人々がどのやうなものを見方や感じ方をしてゐたのか、傳統的な言語文化がどのやうに變遷してきたのかを、生活や文化とともに知ることができる。解説の内容を基に、昔の人々の生活や文化など、古典の背景をできる限り易しく理解させ、昔の人のものの方や感じ方に關心をもたせたり、現代人のものの方や感じ方と

比べたりして、古典への興味・關心を深めるやうにすることが重要である。」ともある。要するに内容を問題にしてゐるのだ。國語は形式の問題。まして古典はさうだ。換骨奪胎も極まれりといふべきだらう。これは一四五六號に「文部官僚の面従腹背をこそ」として書いたこと。

國家國旗法のときも、君が代の表記は字母制限のままになされたのだ。字母制限表記つまり現代假名遣は文語に及ぼすべきでないと定められてゐるにもかかはらず表音的表記が行なはれ先祖との傳統が斷ち切られた。文部官僚にコケにされたと言つてよい。當時このことを問題にして反對票を投じたのは西村眞吾ただ一人であつたと聞く。

要するに文部省に自民黨は手玉に取られてゐたのではないか。教員免許更新にしてもさうだ。そもそも、何故免許を與へたのか。昨年、大分縣の教員試験が話題になつたときの頃であるが、錢湯で「眞に知識のあるものは教員試験に受かるのが難しいのではないか」と話してゐたら後から「その通り」と聲がかつた。まったく知らない人であつたが、試験に落ちたため講師といふ資格で高校の國語を教へてゐるとのこと。後日、正字正假名遣の著書をいただいたのであつた。

教員に免許を與へる場合と更新する場合とどこが異なるのか。教育は過去の知識と智慧を次の世代に傳へることが基本。まして義務教育の段階であれば新しい知識を追ひかける必要などないのではないか。それより、教師の養成方法こそ問題だ。教師の養成は何時はじまるか。小學校の一年のときから始めるのだと言ひたい。その小學校から表音的表記と、表記より音聲を基本とする考へを刷込まれるのだ。瑞穂をミズホと書く人が大臣になるのは仕方がないのではないだらうか。

もともと教員免許更新制度に期待はし

てゐなかつた。自民黨は野黨になつたのだから、しがらみにとらはれず、戦後の文部行政を根本のところから追求して欲しい。なほ、昨日出逢つた人、名刺に某フーズ株式會社とあつた。普通ならフーズとなるところ、文部省の字母制限はこんなところにも行きわたつてゐると、後でネットで検索してみたら、フーズ株式會社で百六十九萬、フーズ株式會社だと九萬六千七百であつた。結構縮が緩んできてはゐるやうだ。

九月七日の新聞に次のやうな記事があつた。

「英語の授業は英語で」と定めた高校の新學習指導要領について、文部科學省が教員向けの説明資料で、英會話では流れを大切にされた指導を行い、生徒の積極性を損はないやう求めてゐることが六日分かつた。細かなミスの修正より、実践的なコミュニケーションを重視してをり、文法などの正確さを優先したこれまでの教育課程からの轉換が明確になつた。

東洋史の院生は中國語をマスターした人達だ。その人達に漢文訓讀で嚴密に讀むことを教へようといふのと、何といふ違ひだらう。英語だけではない。國語教育でもコミュニケーション重視なのだ。表音的表記の根本は發音に従ふといふこと。何が正しい表記かといふ意識がない。そこへもつてきてコミュニケーション重視だ。國語力の劣化はさらに進むだらう。それが残念だ。 ◇1672(21.9.17)

戦前の良い歌が弊履の如く捨て去られたのは假名字母の制限のせいだ

二十三日は地元の天神様の例大祭。町會の御輿、幟に奉祝天皇即位二十年とあつたのはつとした。確かに今年は二十周年の平成二十一年だ。年號で記年するの

はさういふ思ひを新たにすることでもあるわけだ。西曆でADとするのは主の生れたまひし年より數へて何年目と言祝ぐ意味があるのだらう。イスラエルの人はCE (common era) といふさうだがキリスト教徒でなければADと言ひにくいことがよく判る。

西曆は縦組では書きにくい。「頂門の一針」の記事をときどき縦組のPDFにして友人に送ることがあるが、西曆は昭和なり平成なりに書換へることにしてゐる。横組だけになると平成、昭和、大正、明治などといふこと自體消えてゆくのではないだらうか。

一六七九號の反響欄に戦前の文部省唱歌を聞いて感動したと前田さんが小文を寄せておいでだ。結語は次のとおり。

「あのやうな歌を何故積極的に歌はずに放置しておくのだらうか。折角だから、昨夜聴いた曲名を列記して終はる。花、朧月夜、早春賦、春の小川、霞か雲か(「ドイツ民謡」)、海、夏は來ぬ、濱邊の歌、濱千鳥、夏の思い出、赤とんぼ、紅葉、里の秋、荒城の月、冬景色、スキー、ペチカ、冬の夜、雪の降る街を、故郷」

戦前の良い歌が弊履の如く捨て去られたのは横組ではなく假名字母の制限のせいだと思ふ。擴張へボン式といふ翻字式ローマ字でいろいろ轉寫を試みたとき眞つ先にやつたのは「故郷」と「荒城の月」だった。

眞道重明さんのサイトの閑人妄語(三)にある「學生時代に憶えた懐かしい唄の数々」は舊制高校寮歌が中心。閑人妄語(四)にある「懐かしい歌(其の二)」は軍歌が多い。調べてみたら「故郷」も「荒城の月」も落としてゐた。

「學生時代に憶えた懐かしい唄の数々」は以下のとおり。

第一高等學校東寮寮歌「嗚呼玉杯に花つけて」、三高道遥の歌、第一高等學校第十七回紀念祭東寮寮歌「仇浪騒ぐ」、七高

寮歌「北辰斜めにさすところ」、雲鷹丸記念歌、戦友、梅ヶ枝節、すててこ、ハイカラ節、美しき天然、われは湖の子さすらいの(琶湖周航の歌)、七里ヶ濱の哀歌、奈良丸くづし、カチューシャの唄、コンドラの唄、籠の鳥、金色夜叉、パイノパイ節、ストトン節、東京行進曲、サーカスの唄、満州娘、誰か故郷を想はざる、君待てども、デカンシヨ節。それから佛説摩訶般若波羅蜜多心經

「懐かしい歌(其の二)」は人を戀ふる歌、蛍の光、さくら、故郷の空、婦人從軍歌、夏は來ぬ、軍艦、青葉茂れる櫻井の、花、日本陸軍、水師營の會見、青葉の笛(敦盛と忠度)、歩兵の本領、紅葉、われは海の子、海行かば、廣瀬中佐、冬景色、海、朧月夜、濱邊の歌、濱千鳥、影を慕ひて、月の砂漠、昭和維新の歌、ラバウル小唄、青い山脈、人生劇場、旅の夜風、惜別の歌、曾我兄弟、義士(四十七士の歌)、明治節唱歌、あざみの歌

前田さんの擧げられたものと重なるのは、花、朧月夜、海、夏は來ぬ、濱邊の歌、濱千鳥、紅葉、冬景色の八曲だけだ。なほ、其の二にある「曾我兄弟」「義士(四十七士)」の歌は郷里鹿兒島の先輩が歌ふのを聞いて入れた。他縣では知られてゐないといふことを知らなかった。

◎1680(21.9.25)

#### 鳩山さんの國聯演説など

鳩山さんが國聯で演説した。リビヤの最高指導者カダフィー大佐が國聯安全保障理事會をテロ理事會だと烈しく弾劾した演説はアラビア語でなされたのだと思ふ。我が國の首相も國語でやって欲しかった。正確な文言でないかもしれないが同時通譯では「核廢絶を訴へる」のは「唯一の被爆國であるから」とか「唯一の被爆國としての道義的責任から」と理由を述べたやうに聞えた。ここは順接ではな

く「唯一の被爆國であるにもかかはらず」と逆接でなければ話が通らない。英語ではどう言ったのだらうか。

麻生さんのときに國語のことが話題になった。麻生さんの場合は辭書的單位の問題で、表現全體が誤解を與えるやうなことがなかったのではないか。

大舞臺にできれば誰でも言ひ間違ひのひとつやふたつはあるだらう。氏より育ちといふくらいだから世襲の政治家であれば言葉についての嗜みもそれ相應にあるはずだ。當方、氏も育ちも賤の男。嗜みとして身についてゐるわけでない。他人のことなら判りやすいといふだけのこと。今回、民主黨やその他の人の言葉で氣になったことが幾つかある。

野黨の總裁候補に民主黨のやうな人がある。聯立を組んでゐたK黨との關係を問はれて「信賴關係がある。その信賴關係を利用する」のだとのたまふたので驚いた。「信賴關係を大事にして」とか言ひ方がありさうなものだ。ゲマインシャフト、ゲゼルシャフトといふ言ひ方がある。「利用」はゲゼルシャフトの場合だ。向ふから逃げ出してしまふのではないだらうか。

總理の記者會見、アフガン支援で給油活動の代替案について「してあげる」といふ表現だった。要するに義務だと考へてゐないわけだ。こんなところが正しく譯されて海外に傳はったら大變だ。

對等の關係で交際したいといふ人に對して「申上げる」といへば、やはり對等ではないと思つてゐるのではないか。カナダの首相の發言を「申す」と表現したのは逆の認識なのだらうか。

マスコミも變だ。或る大臣が専門委員の人達に對する挨拶で「しがらみに拘泥せず」と言つたやうに聞へた。二度目のニュースでは「しがらみにこだはず」とテロップが出た。どちらが本當なのだらう。「拘泥せず」は誤りだからと「こだは

ららず」と放送局が直すことがあるのだらうか。もしさうなら麻生さんのときと對應が違ひすぎる。しかし、直すなら「とらはれず」だらうし、そもそも「しがらみのない」人を委員にしたはずだらうから、「とらはれず」も變ではないか。

走り出しただんじりの方向を急に變へるのは難しいだらう。何十年もかけて走り出したものを突然中止するとなると被害はいかばかりか。そのための補償がいくらになるかも意に介せず國會での審議も經ずにマニフェストに書いてあるから中止するのだといふ。せいぜい四年の附託。また次の政權で走り出せばよいといふのだらうか。そのために増加した支出は無駄づかいとは言はないのだらうか。その大臣が地域住民に詫ひたと報じられた。てつきり中止を中止したのかと思つたらさうではなく「詫びる」といふ文言を口にしたに過ぎなかつた。

敬語モテニヲハも國語教育の問題、漢文訓讀など嚴密に言葉を用ゐる訓練を怠つた結果がこれだ。言葉の意味を嚴密に考へること、英語教育にもその効果があるはずだ。しかし現状はどうか。川端大臣が無駄がないかと視察された中に英語の模擬授業があつた。どうして誰も、馬鹿馬鹿しいと席を蹴つて立たなかつたのだらう。◎1682(21.9.27)

もとの十九にしておくれ

政權が交代するといふことは社長交代のやうなもので、その會社としての法人格は同一とみなされるはずだ。だから、その會社が契約をしてゐたものは守らなければならぬだらう。どうもそのあたりがはつきりしない。

外國との契約も問題だが國民との契約も問題。長年行なはれてきたことを、突然、その方が合理的だからと變へられたりしたらたまつたものではない。

こんどの首相や閣僚は、契約したことをあらためて検討しなほすとか中止するなどと輕くいふ。まあ、現地住民に謝罪すると口にした場合でも取り消したわけでないから、言ふことが必ずしも本氣でないことがあるけれど、マニフェストもさう考へてよいのだらうか。ひよつとしたら、自分達の見直しは、また次の政權交代で見直されてもかまはないと考へてゐるのかもしれない。

土地所有といふことがなければ治水治山の議論は簡單だらう。治水治山の技術的議論の他に土地所有の問題がある。

契約のために時間がかかり、破棄すればまたかかる。「十九の春」といふ歌を思ひ出した。

私があなたにほれたのは

ちよつと十九の春でした

いまさら離縁といふならば

もとの十九にしておくれ

なんとも凄い政權が出来たものだが、三權分立はどうなつてゐるのだ。未だ國會で議論もなされてない方針。補償問題も法律だけで済むはずがない。移住を決意したのは少なくとも建前では治水治山に必要だと納得したためであり、つまり、同胞のため、うからやからのためだつた筈だ。その大義が否定されれば純粹に金額だけの問題になる。司法にゆだねる覺悟が必要だらう。かくして同胞意識を殺いでいくのだ。まつりことは同時に大きな意味での教育でもあるのだと思ふ。

確か大臣は長い間には方針變更があつてもよいと言はれたのだつた。政權ごとに方針變更があつたらまともなことは何ひとつできないだらう。初めての外國旅行でデンマークのロスキルレに複数家族で古い家で共同生活をしてゐるハルトムートといふ言語學者を訪ねたことがある。圖書室にあつたデンマーク語辭典のことを、

これは比較的短期間でできた、たった四十五年しかかかってぬいと言はれて、大伽藍を數世代をかけてつくる民族のことを思った。

三権分立などと言はなくても、一時不再理とかいふこともあるはずだ。裁判で審議をやり直す場合も新しい證據が見つかった場合など、判決の前提となることから明らかにかな變更があった場合に限りといふ制限があるはずだ。群馬縣の知事が獨裁者といはれるのも頷ける。

いろいろバラマキをやる。そのための財源確保のために無駄づかいをやめる。まさか、そんな目的のためにダム建設を止めるのだとしたらどう考へてもつじつまがあふまいと思つてゐたら、そのあたりを丁寧の説明したブログがあった。初めに中止ありきとなつてゐるのは、家系のせいではないかと結んである。要するに、机上の空論からする方針ではないかといふことだ。

机上の理論で國民が被害を蒙つたものに戦後の表記改革がある。お蔭で萬葉から昭和まで行なはれた五十音はずたれ、タイプライター時代に考案されたローマ字にパソコン時代になつても縛られることになつた。聯想が突拍子もないやうに映るかもしれないが、表音主義は變化を基調とし、コミュニケーションを謳ふ。假名遣を壊すことをもって正義としたのだ。民主黨のやうな考への人が自民黨にまでみられるやうになつたのは教育のせいだと言つてきたが、世襲であれば家系のせいと言つてもよいだらう。以下、その「罐詰にしん」といふブログの説くところを、例によつて表記をあらためて引用する。

「以下「罐詰にしん」氏の文章」

中止を公約して大勝した民主黨は「ダム中止を掲げて勝つた」と言ひ張つてゐるといふ。間違ひぢやない。確かに民主黨マニフェストには中止がうたつてゐる。

でも、それをおほっぴらに争點にせず、八ツ場ダムのある選挙區に候補者を立てなかつた。それまで八ツ場ダムを争點に据ゑたメディアがあつたか？

ほとんどない。東京新聞がちよこつとまとめてただけだ。あとは、公共事業でひとくりにされてゐた。八ツ場で僕のところにはほとんどヒットがなかつたのが、何よりの證據だ。

それをしも、信任を得たといふのなら、民主黨は、ダムの地元で「無駄なダムです、やめませう。」と言へばよかつたのだ。「國民の税金だから、一部地域の人には犠牲になつてもらひます」と。そしてもし、民主黨がその選挙區でも勝つてゐたならばはじめて「ダム中止を掲げて勝つた」と言へるだらう。

残念ながら民主黨は、建設中止のために一番大事な選挙區を放棄した。その事實は消えない。その選挙區では、ダム推進候補が反対候補に三倍弱の大差で當選した。もし「マニフェストに従ふのが民意だ」といふのなら、かうも言つておかう。民主黨は、前回衆院選でも「八ツ場ダムの見直し」を掲げて選挙を戦つた。そして負けた。

あの時は争點になつてなかつた？ ぢやあ今回もさうだ。

「無駄な公共事業」といふ。無駄ってなんだ？ つまりは、「効果がない」といふこと？ だから、その金を福祉や醫療など、別の用途に使ひませう。さういふ意味なのだらうか。

民主黨のマニフェストには、「ムダづかいの根絶」「財源の確保」として「八ツ場ダムの中止」が掲げられてゐる。無駄な公共事業を減らして、「子ども手當」の財源にませう。わからないでもない。しかし、八ツ場は財源にはならない。しかも、民主黨自身がそれを認めてしまつた。ダム建設には、一都四縣が惡名高き「直

「軽負擔金」利水者負擔金を支出してゐる。これまで投入した額は、およそ千四百六十億圓。「ダムが中止になった場合、これらの負擔金に返還義務が生じると考へられる」と、國交省が見解を示した。まあ、常識的に考へればさうなるだらう。

一方民主黨は、ダム建設は中止するが、生活支援は行ふとしてゐる。で、ここで當然の疑問が生じる。もし、負擔金を返還し、なほかつダム建設地の再生事業をするとなると結局國庫負擔はダムを造るよりかかつてしまふのではないかと。

それを受けて、七月十六日、民主黨が出した見解は傑作だった。次の内閣國土交通部門公共事業検討小委員會は「負擔金は各都縣に返還する必要がある。しかし、この還附は公會計内での負擔者の變更にほかならず、新たな支出増には當たらない」とする談話を發表。つまり、國が出さうが都縣がださうが公的資金の大部分の總額は變はらないのだから、假に都縣に還附してその分を國が出しても支出が増えたわけぢやないといふことだ。

いや、その理屈はをかしい。假にダム事業豫算總額四千六百億が、まったく手がつけられてゐない状態で地方が出してゐた千四百六十億圓を還附するならば、事業が中止になるんだから残りの分が餘るわけで、負擔は増えない。まあ、これならわかる。

しかし、事業費のうち、すでに土地買取りや附け替へ工事などでおよそ三千二百億圓は執行済みだ。そして先ほどの千四百六十億圓といふのは、この執行済み豫算の中の額であり、つまり基本的にはもう使はれてしまつて、戻つてこない。それを返すといふことは、國側で新たに千四百六十億圓を作り出さなければならぬ。幸ひ、八ツ場の總事業費は四千六百億圓だ。(本當は違ふが)中止にするならば、まだ千四百億は餘つてゐる。六十億圓

位足が出るだけで済む。

でも、再建事業費は？

もうおわかりだらう。すでにこの時点で大赤字なのだ。ちなみに、以前も書いたが、この四千六百億といふ總事業費のうち約八百億圓は生活再建事業費にあたる。もし、民主黨が同じ規模の生活再建を約束するとすると、還附金と合はせて約一千億圓負擔が増え、かつダムはできない。

しかも、もともと道路や線路の附け替へ工事はダムの成立を見越して、相當高い位置を走つてゐる。これを壊して作りなほすのならば、さらに高い工事費が見込まれる。

民主黨は、負擔金の返還が問題になつてから、「ダム費用が無駄だ」といふ言ひ方をおほつぱらにしなくなった。その代り、「現在の進捗状況を考へると、建設にはまだ時間がかかり、さらに工事費がかさむのでやめよう」といふ論理を持ち出し始めてゐる。

しかし、それは民主黨が言ふところの「生活再建事業費」にもそのまま當てはまる。民主黨は、特措法をつくつて、中止とセットで生活再建事業を行ふとしてゐる。大枠が定まつてゐるダム推進の民生事業に對し、民主黨の特措法はまだ骨子の段階だ。その法律案を作り、かつ、法律を制定させ、それから地方にどのような再建計畫にするのかを決める。計畫策定のタイムラインは示されてをらず、そもそも、どれだけの總額になるのかすら示されてゐない。いつそれができるのか不明なうへ、ほとんど工事費がかさむかもしれないのは、民主黨案も同じことだ。

さうなると、「正義」とか言ひだす家系ぢやなからうな。 ◇1685(21.9.30)



寢言は寝ていふべきものだ

九月三十日、外務大臣がテレビに出てゐた。マニフェストなんぞといふのはみたこともないけれど、東アジア共同體構想なるもの、本氣らしいので驚いた。

もっとも本氣といふのにもいろいろある。オバマ大統領の評判が悪い。以下伊勢平次郎といふ人のブログに出てゐるリチャードコーエン氏のいふところを要約。

テレビへの露出度が高く、どうもまだ選挙運動をやつてゐる氣ではないのか、いい加減、大統領であることを認識してもらひたいとか、彼の發言は眞劍、つまり本當に考へてゐることを述べてゐるのだけれど、問題は、さう考へてゐるのが、述べてゐるときどまりであるといふのだ。

この批評、そのまま民主黨にあてはまるやうだ。コーエン氏はオバマ大統領にしつかりしと言ひたいらしい。私は外務大臣にはしつかりしないで欲しいと思ふ。早く、いい加減なこと、もしくはハチャメチャのことだったと氣づいて欲しい。その道の權威が諭して欲しいけれど、落ちこぼれの者の視点から見えることも判りやすいかもしれないので我田引水の辯をひとつ。

出版社に入つて、英和辭典のゲラをみると *centillion* といふ數詞は英米で意味が異なるのであつた。またドイツ語やフランス語への言及があつて、米佛と英獨といふくりであつた。米佛が同一であるといふことは、アメリカ獨立革命のときフランスから資金援助を受けたといふやうなことを聞いたことがあるので何となく納得したのであるが、百科辭典でしらべてみたらフランス語の場合が違つてゐた。結局ユマニテが何かを圖書館でみて千九百四十八年にフランスが數詞の意味を切替へたことを知つた。まあ、英和辭

典なのだからドイツ語やフランス語に言及することは必要のないことと英米の違いだけにしたのである。これは *centillion* だけの問題でなく、*billion*, *trillion* . . . と續く一連の數詞の問題。 *cent* は百。或る底の百乗を意味する。英國式は百萬、米國式は千が底。但し米國では最初の千をひとつ餘計に考へる。つまり英國では百萬の百乗、米國では千の百一乗になる。十を底として言へば、片や六百乗、片や三百三乗となる。そのうち、アメリカ英語の影響がイギリスに及んで *billion* の意味を米式に解する人が英國に増えたといふことが傳はつて來た。だから數詞の扱ひといふのは結構面倒なのだ。

歐州共同體が姿を現して來るにつれてフランスが千九百四十八年に數詞を切替へたことは、それを見据ゑたもののやうにも見えてきた。しかし、實際のところは知らないけれど、不便だから修正したといふ單純なことなのだと思ふ。東アジア共同體などと寢言を言はず、不便なことを除くことを一つ一つやつてゆくべきだらう。ひとつは漢字の問題だ。我々は新字體を止める、中國は簡體字をやめる。個人名の同定など漢字でできるやうになれば、外務大臣のいふ構想に少しは近づくのではないだらうか。

もちろん靖國參拜などに口を挟むやうなことがあつてはならない。これは外交問題ではない。戦前と戦後を分かつ教育の問題だ。國語辭書が戦後の國語しか覆ふことができなといふ事態こそ異常。表音主義者は表記の傳統を捨て、今また夫婦別姓を言ひだして、先祖からの流れを斷つ、その最後の斧鉞を加へようとしてゐるやうに思はれてならない。瑞穂はミツホだった。ミズホと書きたければ書いてもよい。だからといつて國民全體にツの使用を禁止し、ミツホは誤りとすることはない。夫婦別姓にしたければ勝手に

さつ名告りつづけねばよい。それを法制化して、家系といふことの法的根拠を抹消することはない。もし別姓であれば先祖にさかのぼれば果てしなく擴散してしまふ。

鳩山さんが國聯で演説して名告つたときに姓名の順序をひっくり返したのだ。簡単に相手の文化圏に合せてしまふ根性では、どこかの國と共同體構想をいふのは早いのだ。

大臣であることを自覺して欲しい。寢言は寢ていふべきものだ。◇1687(21.10.2)

表記についての規制を撤廢して欲しい

大東亞戰爭中の英語教育について、政府から禁止令のような物が發せられた證據物件は見つかつてないが、恐らく内務省(當時)などから様々な團體や分野に對して「通達」など文書が發せられたのではないかと渡部氏は言はれる(1889號)。さういふ風潮があつただらうし、いろいろなレベルでその風潮に竿さす動きがあつたに違ひない。さういふ風潮に流されずに英語教育を續けたところの教授法はきはめて本格的なものであつたやうだ。

私の場合、鹿屋市立菟川中學(のちに鹿屋中學と校名變更)に入學したのが昭和二十七年。久木田稔郎といふ先生に發音のイロハからたたき込まれた。鹿兒島師範卒。英語の同期は四名だつたさうだ。先年久木田先生にうかがつたことだが、舊制鹿屋中學の池袋といふ先生はかならず口型圖を板書して授業を始められてゐたよし。英語教師の数はともかく質はきはめて高かつたのだと思ふ。戦前の英語教育は間違つてゐたといふのも一種の神話かもしれない。何かのとき、久木田先生に引率されて新制鹿屋高校の新村先生といふ英語の先生を訪ねたことがある。我々が質問すると大きな辭書を引いて答へて下さつた。OEDを見た最初である。新村

先生は廣島高等師範出身。のちに大學の先生になられたのだつた。舊制鹿屋中學に轉入してきたといふ先輩の話では、どちらの中學でも英語の授業はあつたとのこと。

正式の通達の前に行なはれたためか證據物件の見つかつてゐないものに現代假名遣のことがある。昭和二十一年國民學校入學。二年のときだつたかテニヲハをテニオワと書くことを教はつた。數年前、このことを國立國語研究所の人に話したところ、さういふ話はきいた事があると云つてゐたから、文書で知つてゐるわけではなかつたのだ。「現代かなづかひ」が昭和二十一年内閣告示第三十三號として官報にのつたのは十一月十六日。細則の第一には「ゐ」「ゑ」「を」「は」「い」「え」「お」と書く。たゞし助詞の「を」を除く。」とある。この「たゞし書き」がない形のもが行なはれた時期があつたのだ。

ウイキペディア「現代假名遣」にはこの問題について

現代かなづかひでは、言及はされてゐないが、助詞の「は」「などは」「わ」と書いても問題がないと解釋されてゐた。書いてゐるが、「を」についてしか言及してないのだから「わ」と書かかなければならなかつたはずだ。ところが文化廳編集の「ことばシリーズ三言葉に關する問答集一」では「こんにちは」「こんばんは」と書き表すことになつてゐる。問答集の刊行は昭和五十年一月。昭和六十一年の現代假名遣を先取りしてゐるわけだ。これも一種の通達だらう。

新字體は示扁はカタカナのネのやうな略體を用ゐる。それで我々の頃の菟川中學校の被は略體で書かれ、ためにヌケガハと呼ばれることが多く、ついに校名變更を陳情、鹿屋中學となつた。新字體は當用漢字に關する規定。表外字である被

には適用すべきではない。通達はどういふ形でなされたのだらう。表外字は使用されることを想定してゐなかつたから觸れられてゐなかつたかもしれない。當用漢字は昭和二十一年十一月十六日、字體表は昭和二十四年四月二十八日。校名變更陳情は昭和二十八年。「被」といふ字を知らず「抜」と見誤るやうに育ててから四年で誤讀が見過ごすことのできない程になつたわけだ。今では周邊の地名表示は正字。校名變更の必要があつたのが嘘のやうだ。

示扁をネのやうに書くのは漢字全廢を前提として例外的に使用を認められた漢字に限つての話であつた。當用漢字は昭和五十六年に常用漢字となつた。今また常用漢字表を見直すといふ。漢字の使用をもつと認めよつといふことのやうだが、そのために例外的字體が増えるのは御免だ。いや假名遣の問題もローマ字の問題もある。ここは一番、表記についての規制を撤廢し、ゼロベースで見直して欲しい。◎1693(21.10.8)

事態は或る意味一層深刻だ

先日出てみた公民館主催の教育問題をテーマとする成人教室。四十人ほどの教室が満席で椅子を足す盛況。乳飲み子を抱いた人もあるけれど、大半は還暦すぎだらう。女性が多い。講師は某有名大學教授。

ドイツに留學してカントやヘーゲルについて學んできたとのこと。カントが利用できるところはカントを、ヘーゲルが利用できるところはヘーゲルを利用すればよいとのたまふたので驚いた。ディケンスのピクウィックアンペイパースの挿話そのままだ。或る地方紙の社主(だつたと思ふ)ポット氏と主人公ピクウィック氏との對話のところを抄譯するとこんな具合だ。

ポット氏「ここ三ヶ月ほど不定期連載して喝采を博した論考、御覽になられたこと存じますが」

ピクウィック氏「いや、實を申せば所用に取り紛れ未だ讀むにいたつてをらぬ次第」

ポット氏「一讀なされてしかるべきものなり」

ピクウィック氏「承知つかまつた」

ポット氏「論考と申すは支那哲學に關する著作を批評したものにて浩瀚なるものなり」

ピクウィック氏「左様なれば、さだめし御自分の筆によるものなるべし」

ポット氏「いや、書きしは我が社の批評家なり」

ピクウィック氏「難解なる主題なるべきに」

ポット氏「まさに然り。俗にいふ詰込みが必要なれば批評家はそれがしの求めに應じ主題につきブリタニカを讀破せり」

ピクウィック氏「まことなりや。あの百科辭典に支那哲學に觸れたる項目のありしとは存ぜざりき」

ポット氏「さればテの箇所にて哲學につき讀みシの箇所にて支那につき讀み、得たるところを加へしなり」

ポット氏はこの最後の科白を得意さうに言ふ。現實にかういふ人があるとはしなかつた。しかも教育運動の指導者なのだ。

愛國心のことに觸れて在日朝鮮人の子供の話があつた。成績の良い子であつたさうな。しかし愛國心のことで初めて優秀の評価を逸したとのこと。だから愛國心など指導要領にあるのが可怪しいといふ。納得できる話だ。愛國心を指導要領に取上げるのは變だし、それで成績をつけるのも變だと思ふ。

日本經濟新聞「私の履歷書」(九月十八

日)に横原稔氏のロンドン時代の幼稚園參觀のことがある。God save the queen を歌ひ始めるところ

そのとき園長先生が三歳の息子に向つて「これはエリザベス女王にささげる歌ですが、あなたは日本人だから、エンペラーのことを思つて歌ひなさい」とおっしゃった。息子はきょとんとしてゐたが、思ひやりに満ちた園長先生の言葉に私は深い感銘を覺えた

かういふことが當り前である、さういふ風に教員は養成して欲しい。然るに我國においては教育問題の指導者が外國人があるから君が代は歌ふべきでなく、國旗は仰ぎ見るべきでなく、凡そ國を思ふこと自體あつてはならぬことだと説く。したがつてさういふ人が教員のなかに占める割合は平均より高いはずだ。教員養成や教員に免許を與える仕組みそのものが毀れてゐるといふべきだらう。

夫婦別姓、外國人参政權附與、移民で少子化を補ふなど一つ一つは大したことはないやうに映るかもしれない。しかし其處にこの教育のことを加へてみよ。種々の藥品が混じて猛毒に變じるがごとく、或は放射性物質が臨界點に達するがごときものがある。我國はとびちつてしまふだらう。

聽いてゐて「違ふ違ふ」とか、「話の脈絡が通つてない」といひたいことが多い。そのやうな箇所に限つて頷くやうの吐息が周りのあちこちで聞える。

「子供の主體性を重んじることが大事。何が正しいか決めつけるやうな教へ方をすべきではない」

「指導要領に書いてあるから、その通り教へる教師がよい教師ではない。書いてあることが正しいかどうか子供に考へさせるやうでなければならぬ」

遅刻してでたこともあつて席を蹴つて

立つのがはばかられたけれど堪りかねて「子供の主體性を仰せられるが幾つくらいの子供なりや」と口を挟んだところ、小學生の話であつた。「指導要領に書いてあるから」といふのは愛國心の場合、「ツの使用が事實上禁止されてゐる。E.P.D.の複數形の意味であればキッズでなくキッツと書くべきだ。さういふ風に教へるといふことが」と訊くと、この場合は「統一が必要」と一貫性がない。

講師はよく「我々」といふ表現を用ゐた。戦前に對する戦後の我々といふやうな意味なら判らなくもない。しかし國歌國旗法をめぐる裁判に話が及んだときは原告團を意味してゐるやうに感じられて仕方がなかつた。日教組の集會にでたこととはないし、折伏の會にでたこともないけれど、どうもそんな場所に紛れ込んだやうな氣がした。

講師の最後のところをまとめるとかうだ。

どのやうな教育をするかは親が決めるべきだ。民主黨政權になつたので良くなると思ふが、民主黨には自民黨より右の人もあるからまだ安心はできない。教育委員會は政權によつて教育が左右されないやうにと設けられた制度であるが、もはやその必要はなくなつたのだから、教育委員會は廢止され、教育は自治體の首長の所管になる。親が教育を決める時代が近づいたのだ。

時代は變つた。ひよつとしたら世間は通達の川上にあるのかもしれない。民主黨と言はず自民黨と言はず、今の政治家は國民を經濟活動をする人間といふ極めて抽象的な存在としてしかみてゐない。物語の復活、時間を取り戻すことが必要だ。朝鮮やドイツと異なり我國は分割を免れたからよかつたと聞いて育つたけれど實は垂直方向で二分されてゐたのだ。事態は

或る意味一層深刻だ。 ㊦1694(21.10.9)

人名漢字変遷の目まぐるしさ

一六九九號掲載の MoMotaron 「佛敵  
チャンネル櫻」の《は》「討論 日本解體  
阻止! どうする 外國人參政權 (原題)」  
を視聽した。

鄭大均といふ方の發言に在日朝鮮人の  
歸屬意識のことがあった。歸化手續きをす  
る段になると外國人として扱はれる、そ  
のことに微妙な抵抗があるのださうであ  
るが、何より漢字制限のために名前の變更  
を求められたのが苦痛であったとのこと。

十月十四日テレビ朝日の夕方の報道番  
組で前原國土交通大臣が韓國の仁川空港  
をジンセン空港と言はず、恐らく朝鮮語  
風に發音してゐた。かういふのが困ると  
思つてゐたところ、アナウンサーも似た  
やうな讀み方をした。

民主黨の大臣が國民のことより朝鮮人  
(韓國や北朝鮮の人)に通じるやうに配慮  
するのは判るけれどアナウンサーまで視  
聽者無視はないだらう。大臣やアナウン  
サーは朝鮮語を勉強したのだらうか。そ  
れが國民もしくは視聽者に通じると考へ  
てゐるのだらうか。大臣が朝鮮語を知つ  
てゐるからといつて朝鮮語をひけらかす  
のは知つたかぶりではないか。

或は大臣には朝鮮語の素養がなかつた  
のかもしれない。では豫め讀み方を指導  
した人があつたのだらうか。そのための  
専門家を置いてゐるのだらうか。

百濟、新羅、高麗、金玉均、李承晩、  
いやそもそも韓國を何と讀むのだらうか。  
今に日本海と言はず東海といふやうにな  
るのかもしれない。そのくせ、歸化する  
場合には漢字の使用を認めない。戦後の  
國語行政が内むきであつたがために、こ  
のやうな事態は視野に入つてゐなかつた  
と思はれる。

鄭さんの歸化は平成十六年。この字の  
使用は認められなかつた。漢字廢止を目的  
とした施策がまだ生きてゐるわけだ、典  
據のある、世間で通用してゐる字であれ  
ば使用するのになんの支障があるものか。  
戦後の文部省の大前提をそのままにして  
人名漢字表で許容するとか常用漢字をふ  
やすとか小出ししてきた結果どんなに  
複雑な事態を生じてゐることが。

人名用漢字の變遷について Kan-  
jinkuro でみると、この年はまことに目  
まぐるしい。

二月二十三日に一字を追加。六月七日  
に更に一字の追加。七月十二日に三字を  
追加。九月二十七日には「漢字の表」に  
四百八十八字を追加するとともに、「人名  
用漢字許容字体表」の二百五字を「漢字  
の表」に統合したとある。複雜でよくわ  
からないが、鄭さんの申請が九月二十八  
日以降であれば姓の變更は必要なかつた  
と思はれる。

本人も困るが、事務を司る役人も大變  
だ。役人を減らす前に表記の規制緩和が  
先だらう。 ㊦1700(21.10.18)

イロハを教へることから始めて欲しい

ときどき「頂門の一針」に掲載になつ  
たものを知人友人に送ることがある。一  
六九三號(十月八日)に戦前の英語教育  
について書いたものを『英語名人河村重  
治郎』の著者田島伸悟先生にお送りした  
ところ觸發されて思ひ出すこと少々とお  
手紙をいただいた。こんなところがある。

師範學校、高等師範學校を出られた  
先生の中には偉い方が少なくありません。  
「教へ」のためにキリストから遣はされた  
使徒の自覚がありました。戦後學制が變つ  
て、さつゝいふ使命感も薄れてしまつたや  
うですね。東京高師も、東京教育大學に  
なつてもうだめ、筑波大に至つては論外。

私の高校の擔任篠原省治先生は東京下町の生れで東京高師の御出身。物理化学の高校教育では都内でもかなり知られた方でした。NHKのTV講師もなされました。

私の級友のA君が自分の勤める私立校の系列に大學が新設される際、學長の意を受けて、篠原先生を訪ねたさうです。先生は都立高をすでに完全退職され、自宅の向ひの私立高校に時間講師として勤めてゐらっしゃいました。「大學の教養部で物理を教へていたゞけませんか」とA君が言ふと篠原先生はしばらくじっと考へてゐらっしゃいましたが、「教養部でボクが教へても大した役に立たないでせう。ボクの經驗歴からみても、高校で教へるはうが役に立ちます」と言つて辭退されたさうです。A君は、高校よりも大學、と考へてゐた自分がかしく顔の赤らむ思ひをした、とこれはごく内輪の機關紙に書いた話を最近送つてくれました。

篠原先生は「粹な人」でした。先生が他界されるまで、私は暑中の御見舞と新年の御挨拶を缺かしませんでしたが、私が時折氣張つたことを言ふと、やっぱり、その野暮をたしなめて下さいました。亡くなられてから、二三の友人と先生のお宅を訪ねると、佛壇はなく、ただ先生の机の上に謠曲のカセットテープが一本置いてありました。「私が死んだら、お経など上げるな、このテープをかけて、私を送つてくれ」と言ひ遣されたとか。

日教組以前に教員養成に問題があつたわけだ。民主黨政權になつてから、いはゆるマニフェストに書いてあることと、國會で審議し、たとへ強行であつても採決といふ形をとつたものとの違ひが判らなくなつた。教員免許更新制度は廢止になつたのだらうか。教員養成期間を延長するといふことも取り沙汰されてゐるが、これもマニフェストにあつたのだらうか。

とにかく教員養成期間を延長するのは正しいと思ふ。小學校の最初から、そのつもりで教へるべきなのだ。さうすると實に十二年間の延長だ。

英語の綴りの複雑さは我國の歴史的假名遣の比ではない。英國に我國にもまして現代假名遣のやうなことを考へた人々があつたのは當然だ。そのあたりのことは山口美知代『英語の改良を夢みたイギリス人たち』にくはしい。いろいろ實驗もし、また貧困層の子弟のために小學校で教へる簡易表記として導入し、やがて傳統的表記に切替へるなどの方法も提案されたらしい。しかし簡易表記が制度として採用になることはついになかつた。不合理だと思はれた綴りをそのままにしたことが英語の普及に役立ったのだと思ふ。

我國は戦後一舉に傳統的表記を廢止して今以つて標準表記が確立してゐない。教員にでもならうとすれば戦前のもも讀む必要が出てくる。特に國語であれば萬葉から昭和に至る時代のもを無視するわけにはいかないはずだ。小學校から高校、いや大學まで文部省管轄のところでは生徒や學生に傳統的表記をみさせまいと必死だ。戦前にくらべて教員養成の時間が短くなつたといへば牽強附會だらうか。是非小學一年でイロハを教へることから初めて欲しい。◇1704(21.10.22)

にほひぞいづる

公教育の目的は生徒が獨り歩きできるところまで導くことだと思ふ。獨り歩きするとき助けになるのは地圖や辭書だ。地圖も索引が引けなければならぬから結局これも辭書の一種と言つてよい。辭書を引くには五十音圖や漢字の部首の知識が必須。アルファベットのことを考へてみて欲しい。ローマ字のためであればLOVX、もしそれが訓令式であれば更にCFJも不要だけれど誰もこれらの字

母を小學校で教へることは無用だとは言はない。將來の英語辭書檢索のためにはアルファベットの字母を全部覺えることが必要だ。假名字母も最初から全部教へておくべきなのだ。

ローマ字のことを書いた小文を讀んだ湯仲間が『しゃがむ姿勢はカッコ悪いか』といふ本をもつてきてくれた。ローマ字のことがでてゐるといふのだ。數字は四桁區切りにすべきであるとかローマ字書き姓名の順序を變へるべきでないとか同じやうな主張があるので驚いた。ただし時々ついていけない。

「小學校の先生たちへ」と題する一文のなかで日本古謠の歌詞を比べたところ。著者は「教科書にでてゐる歌詞が、子供が童謠集レコードで覺えたものと異なる。レコードのチャケットに書かれてゐるそれは、周知のやうな古謠のままである。この兩者を比べてみて、小學校の先生たちよ、何か想ふところがないだらうか。やや大袈裟に言へば、私には教科書の方の詞が、まるで民族滅亡の歌のやうにみえる」と言はれる。

著者が古謠のままとするのは次の通り。なほ引用に際して傳統的表記に直してきたが歌詞の部分はそのまま。

さくらさくら  
やよいのそらほ  
みわたす かぎり  
かすみかくもか  
においぞ いずる  
いざや いざや  
みに ゆかん

これがどうして古謠のままなのか。ニホヒゾイツルでなければ變だ。そのイヅルがイズルとなつてゐるのはまるで民族滅亡の歌のやうにみえないのだらうか。ツスはローマ字で書分けなければならぬは必要ないと假名字母の一方を使用禁止にし

たのが現代かなづかひだ。ただし「主として現代文のうち口語體のものに適用する」ものだから、古謠に適用したのはレコード會社の勇み足。しかしATMの端末もカラオケのリモコンも缺損五十音圖だから、我々は勇み足を至る所にみることになる。

でもどうやってイズルを國語辭書で調べるのか。ゾが係り結びの助詞で連體形を要求するからイズルは連體形。終止形はイズだ。ではイズといふ語が國語辭典に出てゐるのだらうか。手許の辭書で出てゐるものはない。古語辭典ではイヅで出てゐた。

表音主義者は音が基本だとして萬葉から昭和の敗戦まで使ひ分けされてゐた假名の遣ひ分けをやめた。そのため我國の國語辭書は古語辭書と國語辭書に別れ、古語辭典は平安中心。古語辭典のための假名を何時教へるのか知らないけれど、アルファベットを二段階に分けて教へる愚を犯してゐるわけだ。普通の生徒は國語辭典しかつかふことができない。戦前のものは讀めずともよいといふ姿勢だ。

「小學校の先生たちへ」の中で著者は君が代がサクラサクラと異なり文語體のままだと憤つてゐる。サクラサクラについて言つてゐること全く逆。結論が先にある。結論が氣に入らなければ方法を變へる、これがついていけないところだ。その上、文語體のままだといふが、國家國旗法の場合と同じく節約字母表記。平成十一年の國家國旗法で改竄がなされたと思つてゐたが『家庭畫報』昭和四十八年十一月號に掲載されたといふこの文章からすると遅くとも昭和四十七年の教科書ですでに行なはれてゐたことになる。

『Romazi no Nippon』昭和五十四年三月一日號掲載といふ「ローマ字は日本式でなければならぬ」といふ短文がある。書出しがいはいは歴史の證言。

今も覚えてゐる中學二年のときの光景がある。そのとき私たちは八ダシで體操の時間を終へたあと、水場で足を洗つてドヤドヤと校舎にはいる途中だつた。同級生のN君が足を洗ひながら横のだれかに話してゐるのを耳にした。――「日本語をローマ字にしたらどうかつて案が出たんださうだぞ。そしたらマツカーサーが「そりゃあ良いことだ」っちうことになつたんだつて……」

著者はこのとき「反對だ」と反射的に思つたとある。マツカーサーといふ名前に反撥したのかもしれない。日本式でなければならぬとする根據は何なのだらうか。ひよつとしたら字母の使用がヘボン式に比べて少ないといふことがあるのかもしれない。さうであれば古謠が節約字母で書かれてゐることに違和感を持たないの一般だ。

節約字母表記、現代假名遣、表音主義表記、どう言つても同じことだが、彼らは言葉の形式より意味や内容を問題にする。「にほひぞいづる」が「においぞいずる」となつても氣にはしないが「あさ日におつ」となつてゐるのが問題だと思ふのだ。

或る大臣が國會開會に際して下される陛下のお言葉を問題にした。莊重な文語體であれば時代を超越するものとしてかかる問題提起はなかつたかもしれない。さすがに同じ黨の人からさへ政治利用に繋がるものと窘められたやうだが、この主張は見えないところで我國の土臺を侵蝕し民主黨の支持基盤を強化すると思はれる。表記といふ形式をときに應じて變化させること、形式より表現される内容を問題にすること、これこそ表音主義のテーゼだからだ。マスコミにも國民にも表音主義者が多い。敵は本能寺とみるべきかもしれない。◇1707(21.10.26)

「政治への信頼を取り戻せるやう全面的に協力する」

一七〇八號の「捏造と獨占」新聞業界の病理」、餃子業界に仕立てた寓話が秀逸。名指しで指弾された三人の獨りが一七〇七號「にほひぞいづる」で取上げた人。彼は奴隸根性といふ表現を用ゐた。ツを禁止された結果、教科書の編者は「朝日におう」と逃げた。レコード會社の方は古語に及ぼすべきでないといふ規定を知つてか知らでか、無造作に字母制限表記で音を寫した。教科書の編者には痛みがあつた。レコード會社の對應こそ奴隸根性といふべきで、字母制限表記に無批判であることと南京大虐殺のキャンペーンにのせられるといふことはどこか通じるやうに思はれてならない。

主宰者は首相の演説は論評に値しないと云はれる。あらためて讀んでみた。絆にキズナとルビ。新聞社に問合せると配布されたものにさうなつてゐたとのこと。絆の語源ははっきりしない。ヒキツナともツナギツナともいろいろあるらしいけれど、後半がツナであることは動かぬところ。絆が大事だといふ割には共同體の紐帶を大事にしてゐないやうに思はれる。ダム建設で轉出する場合、御先祖様との縦の紐帶も共同體との横の紐帶も捨てなければならぬだらう。其の水系地域を百年二百年にわたつて豫測してみた場合に必要だとされたからの決斷であつたはずだ。かういふ場合の判斷はあくまで蓋然性の問題。素人なら疑問符は何時だつて附けることができる。しかし専門家なら疑問符を附すのも簡單ではないだらう。當時の判斷が間違つてゐたとなれば何故間違つたかの説明が必要だからだ。また村や墓を捨てる必要がなかつたとなればその補償はどうなるのだらう。キツナを重視すると言はれれば、やはり「もとの十九にしておくれ」と言ひたくなる。



在日米軍再編については「安全保障上の観点も踏まへつつ、過去の日米合意の経緯なども慎重に検討した上で、沖縄の方々が背負ってこられた負擔、苦しみや悲しみに十分に思ひをいたし、地元の皆さまの思ひをしっかり受け止めながら、真剣に取組んでまいります。」とある。合意の経緯なども慎重に検討するとは合意を見直すといふ意味だ。本氣なのだろうが。

Our Man in Abiko という blog に岡田ゲーツの會談の要旨がある。米語に譯したところを上げる。意味はよくは判らないが外交上のやりとりが罵り合ひをオブラートに包んだものであることはよくわかる。

日本語は時事通信社のサイトから補ったが日米関係のところはなかったのもとの英語をブラケットで圍んで示す。

#### 【日米關係】

Okada: [The Hatoyama administration fully understands the importance of the Japan-U.S. alliance.]

You got no money, you got no money, falso.

Gates: [The Japan-U.S. alliance is the cornerstone of U.S. security policy in Asia.]

Yeah? Next time that Nork nut fires off a few nukes, talk to someone who cares, ass-wipe.

#### 【普天間飛行場移設】

ゲーツ長官: 現行案は日米兩國間で長い時間をかけていろいろな選擇肢を検討した結果で、唯一實現可能なものだ。日米合意に従って着實に實施するところが必要だ。つきぬだけ早期に結論を出すつもりだ。 You gonna pay for Uncle Sam's pizza or what, pencil dick.

岡田外相: 現行案に至った経緯を検證中だ。合意の存在は十分に認識してある。日本國內の政治状況は變化して

をり、先の衆院選で沖縄縣の4つの小選挙區で現行案に消極的な議員が當選した。できるだけ早期に結論を得たいが、困難な政治状況を理解してほしい。 No. Suck my dick, Master Sergeant.

#### 【アフガニスタン支援】

ゲーツ長官: 日本のこれまでの(インド洋での)補給支援は(軍事作戦参加の)各國にとって重要だった。日本がいかなる對アフガン、パキスタンの支援を行ふかは日本が決定することだ。日本が力強い支援をすることを期待する。 Shit or get off the pot, fish breath.

岡田外相: アフガン、パキスタンへの支援は重要な外交課題だ。日本の得意分野を生かした支援策を取りまとめつつある。(來年1月で期限が切れる)補給支援について、臨時國會に(延長のための)法案を提出する状況にはない。

Yeah, who's gonna pay for your guns now, cowboy? The China boys? Bend over now Brokeback Mountain boy!

#### 【核軍縮・密約調査】

岡田外相: (核兵器持ち込みをめぐる日米間の)密約の調査は、國民の信頼を得て外交を行う上で重要だ。基本的には日本國內の問題だ。政府内で核兵器保有國に先制不使用を求める問題について検討している。今後よく協議しよう。 You been dickin' with the wrong Asian Tiger, whitey.

ゲーツ長官: 核のない世界といふ目標を日米兩國は共有してあるが、核の抑止について柔軟に考へることも必要だ。核の問題は今後よく協議したい。(2009/10/20-19:45) Come here and say that and I'll smack you upside the head, checkout boy.

もし判つてゐて「慎重に検討する」と言つたのであれば鳩山さんの度胸は大したものだ。しかし、例の政治資金問題へ

の言及のしかたははっきりしない。

「私の政治資金の問題によって、政治への不信を持たれ、國民の皆さまにご迷惑をおかけしたことを、誠に申し諱なく思っております。今後、政治への信頼を取り戻せるやう、捜査に全面的に協力してまいります。」最後の「政治への信頼を取り戻せるやう、捜査に全面的に協力してまいります。」とあるところ「取り戻すやう全面的に協力する」となっていないのが鳩山さんの正直なところだと思ふ。

引用のために入力してみても前半の部分がよくわからないことに気づいた。「政治への不信を持たれ」といふのは受身なのか尊敬なのか。尊敬ならば主語は國民だらう。すると其のあとに「國民の皆さま」と續くのが變だ。「國民の皆さまが政治への不信を持たれるに到りましたこと、眞に申し諱なく云々」とすべきところではないか。「ご迷惑をおかけした」といふのが邪魔。誰も迷惑を受けたと思ふ人はあるまい。この程度のも謝罪なのかもしれないが、「誠」といふ字も意味からすれば變だ。要するに、ここところはいささが狼狽へてゐるやうに感じられる。

◎1710(21.10.29)

關門海峡海難事故について

ネットで拾った記事二つ。

鳩山由紀夫首相は二十八日、國會内で北澤俊美防衛相と會ひ、海上自衛隊の護衛艦と韓國船籍のコンテナ船の衝突事故に關する報告を受けた。韓國籍船が海上保安廳の指示に従い航路を變更してゐたことを踏まへて首相は、「日韓關係にいささかでも差し障りがあるやうなことになるようなことが大事だ」と慎重な對應を指示した。

鳩山由紀夫首相は二十八日、國會内で北澤俊美防衛相と會ひ、海上自衛隊

の護衛艦と韓國船籍のコンテナ船の衝突事故に關する報告を受けた。韓國籍船が海上保安廳の指示に従い航路を變更してゐたことを踏まへて首相は「日韓關係にいささかでも差し障りがあるやうなことになるようなことが大事だ」と慎重な對應を指示した。

森さんがゴルフをすぐ止めなかったと問題になったことからすると、官邸を去ったことが問題にならないのは何故なのか。二十八日の指示が天津事件と逆ではないかとの印象を持った次第。

首相官邸の内閣情報集約センターに事故の第一報が入ったのは發生から十五分後の午後八時十一分。平野博文官房長官は連絡を受け、直ちに首相に報告した。事故發生時、首相は官邸5階の執務室にゐたが、午後八時三十七分には田園調布の自宅に向けて出發。官邸を出る際、危機管理監に「情報収集を徹底するように」と指示し、官邸を後にした。

北澤防衛相は午後八時十分には第一報を受け、同五十分に防衛省に到着。省内に對策本部を立ち上げ、榛葉副大臣を現地に派遣した。省内で記者會見を開き「くらまが衝突を起こし、國民に心配とご迷惑をかけたことは極めて遺憾」と陳謝

「國民に心配とご迷惑をかけたことは極めて遺憾」が變。「くらまが衝突を起こしたことが」でなければならぬ。

◎1711(21.10.30)

制限假名字母表記が深く静かに僭行してゐる

たまたま開いた岩波書店の『圖書』に喧々諤々といふ表記があつて氣になつてゐたところ、翌日の朝刊の小説に侃々諤々

とあったのでやはりさうかと納得したのだった。

カンカンガクガク（侃々諤々）とケンケンガウガウ（喧々囂々）、手許の字書によれば侃は誠心をつくして論議すること、諤は憚らず論議することであるのに對し、喧はかまびすしい、囂は頭から湯氣を立てて怒號することあるからまつた意味が異なるが、響きが似てゐるから逆に用ゐられたり今回のやうに混交で用ゐられことも珍しくない。學者でもなければどれが正しい形であるかなど判らないのが普通だらうし、間違つたとるころで瑣末なことだ。

問題はそれが明治期のものの復刻に關する文にあつたことだ。詳しく言へば十一月號十八頁下段（引用の表記は支障のない限り読みやすい正統表記に直してある）

本来なら原文のままの組み方で、句讀點なしで翻刻するのが、ある意味で理想的になるのかもしれない。しかし、読みやすいテキストとして再生させたといふ願望からは大きく遠ざかるため、喧々諤々の討議を経ながら段落分けや句讀點を打つ作業を進めていったが、現在では使用されてゐない文字を含む原文を新たに活字として起す際に思ひもかけない誤植が生じることもあり、校正の度に冷や汗を流れることの繰り返しであつた

『學問ノススメ』で諭吉は middle class をミツツルクラスと書いたこと、これは國會圖書館の畫像で確かめることができる。しかし地元の圖書館でみた限りはミツヅルクラスだ。典據とされるものの編集が戦後の國語教育を受けた人によつてなされたからだらう。

この改竄された表記を根據として諭吉の英語の發音はいいかげんだつたなどとする説を讀んだことがある。外來語が増えている書分ける現代の表記なら諭

吉はミッドウルとしただらうし、古い看板に今でも見ることのできるビルヂングはビルディングとなつてゐたはずだ。いはゆる現代仮名遣の規定のやうに、ツとズ、チとジを同音だとみてはいけない。まして復刻と斷る以上、漢字を假名に開くことなどもつてのほかだ。

なぜ改竄するのだらうか。現代仮名遣といふものがあるとするなら、それは音を寫したものだ。時代時代で變るのが當然。だから復刻するにあつて、もし表記を改めるなら、その復刻するときの表記に合せるべきだとする、その考へ方が判らない。將來、讀む人のときの表記を豫め想定することなどできないはず。せめて元どほりにしておくべきだ。

最近、八幡製鐵所のことではヤハタなのかヤワタなのかと外國の人から質問を受けて八行轉呼音のことから説明した。八と幡との間に切れ目を意識すればハ、さうでなければワで通するものなのだ。伊呂波歌の首句七文字には八行轉呼音が三文字もある。我々は音節單位でイロハニホヘトと讀み、續けて「色は匂へど」と讀んで、これが國語に内在する文法であることを身につけてきた。表音主義者が見落してゐた點の一つだ。

ところで「現在は使用されてゐない文字」とは何のことか。一瞬、漢字のことかと思つたが、ひよつとしたるワ行のヰエヲ（但し助詞としてのヲを除く）、八行轉呼音（但し助詞としてのハやへを除く）、それにチヅ（文部省が許容した例外的語に用ゐられる場合を除く）のことを指すのかもしれない。

問題にした『圖書』の文章は冒頭に朱熹の偶成詩「少年易老學難成、一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢、階前梧葉已秋聲。」の讀下し文を掲げてゐるが、これがすでにいはゆる現代仮名遣であつた。漢文はいはゆる現代假名遣を適應すべきもので

はない。しかし、そのことを踏みにじつてまで適應しようとするからには、「現在は使用されてゐない文字は使はない」とした方がよい。漢文だけではない、明治期のものに適應しようとするものが現代といふ時代的限定があつては困る筈だ。だから、「現在は使用されてゐない文字」をつかはない表記、制限假名字母表記といふ捉へ方に逃げたのではないかと思はれてきた。

先般（一七〇七號）、唱歌「サクラサクラ」の歌詞のことを問題にした。或るチャーナリストがレコードのチャケット記載の「かすみかくもか、においぞいずる」の後半が教科書で「朝日ににおつ」となつてゐることを嘆いてゐたからだ。しかし、チャケットの表記が既に改竄であること、そのことこそが問題なのだ。いはゆる現代假名遣を古文に及ぼすべきでないとすれば、「においぞいずる」と書くわけにはいかない。いや及ぼすべきでないといふ法律がなくとも、「いづる」といふ語の一部を否定の助動詞のズに書換へることなど、多少なりとも國語の感覺のしつかりした人にはできなかつたはずだ。だから「朝日ににおつ」と逃げた、その苦衷が判らなかつたわけだ。チャーナリストの文は昭和四十八年。今やこの苦衷を察する人がどれほどあるものであらうか。古文も制限假名字母表記で書けるのだと主張してゐる文化廳の役人もあるくらいだ。

因みに私の名前はトシヲ。年金も銀行口座も市の圖書館もさつなつた。旅券をとることがあれば toshiwo とする筈だ。しかし、多分ミエコとか中ノウヘとかは受けられないだらう。一バイト假名にないからだ。だからこれも制限假名字母表記だ。先日、或る携帯電話の假名漢字變換の方法を教はつた。實にみごとなので驚いたけれど中もエも不可能であつた。

復刻の校定者は友愛精神に満ちあふれてゐて讀みやすいものにしやうとする。餘計なお世話だ。判らなければ字書や辭書を引く。問題は字書や辭書の内容が法律で規制されてゐることだ。法律といふのは國會で議決されたといふ意味でのものではない。しかし役所の出したものにあるのだからマニフェストに書いてあるより法律に近いだらう。

文化廳編『言葉に関する問答集』にはこんなところがある。

二語の聯合については、實際問題として、語の構成に對する分析の仕方でも相違も出る。「現代かなづかひ」では、次のやうな語は「二語の聯合」と認め、「じ」を用ゐることとしてゐる。

あいそづかし かたづく ことづて たづな等

また、次のやうな語は、現代語として語構成の分析的意識がないものとして、「ず」を用ゐることとしてゐる。

うなずく おとすれ おのずから ぎずな等

要するに、「たづな」「じ」「づ」を用ひ「ぎずな」「に」「ず」を用ゐるあたりがその境目である。

その境目の絆がいまや引つ張りだつた。しかし、それが紐帶を意味するものだとしてキツナと書く人は民主黨にはゐないやうだ。

昭和六十一年の内閣告示には

なほ、次のやうな語については、現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として、それぞれじずを用ゐて書くことを本則とし、「せかいぢゅう」「いなづま」のように「ぢ」「づ」を用ゐて書くこともできるものとする。

といふ説明の後に例として「ぎずな」が擧がらる。本則だとかさうでない

か、こんなことを法律で決める馬鹿があるものか。しかし我が國民は從順。ドイツのやうに表記のことで父兄が訴訟を起すこともない。本則通りでなければ辭書も賣れない。かくして國語辭典で本來のキツナでこの語を引くことなど不可能なのだ。國語國字問題、新聞における漢字の使用が廣がったので、もはや峠を越えたと見る人もあるけれど、制限假名字母表記が深く静かに僭行してゐることを知つて欲しい。 ◇1723(21.11.12)

國語の運用に役所が關するろくなことがない

人名漢字のことが氣になつてゐる。先日聞いた對談、演壇背景幕に憂國對談と大書したものが掲げてあつたが、國が新字體。對談者の名前の櫻が正字體。かういふことは戦前でもありえたらうか。

こんなことをいつても、漢字のことはよく知らない。特に書く方は苦手。小學校の時に習字で張り出されたことは一度だけ。一番下手だといふ理由で一番上手い飯山君と並べて張り出されたときだ。今なら一種のいぢめだらう。書體と字體といふことも十分に辨へてはゐない。とにかくこれが字形に關する用語であり、字形が異なれば別の字であると必ずしも言入ないことだけは知つてゐる。行書、草書などは書體。明朝體、教科書體といふのも書體に數へるらしい。字體といふのは、その字をその字たらしめるところの字形の骨格を抽象的に捉えたもののやつだ。出版社時代、英語辭書の編集に携はつて訓練されたことは活字の書體を混用しないこと。ローマン體にTimes New Romanを使用するならイタリック體もボールドもそれに合せなければならぬ。勿論、活字體と筆記體を混在せしめることなどあり得ないことだ。そのためもあつて略體と正字體との混在に違和感がある。

戦後の漢和辭典が文部省式の表記で可怪しくなつてゐると知つて定年後古本屋で求めた『大字典』によれば音訓索引には國の新字體はない。正字の近くに立項されてはゐるが國の俗字と書いてあるだけだ。因みに水戸光圀の圀は別體である。俗字には正式ではないといふ響きがあるが別體にはない。このあたりも難しい。

ところで、これを書くとき、つまり入力するときは字體のことは氣にしない。後で變換して整理する。國の場合は正字であつても俗字であつても正字になる。圀は變換されない。俗字と正字が共存することはあり得ないとする設定だ。二とほりの字體を使ひ分けるには、俗字の方に變換してはならないといふタグを付けておかねばならない。それが面倒でもあり且は原則にもかなふので俗字は用ゐない書き方を心掛けてゐる。

さて、俗字も別體も字形の問題。字形は筆記具や筆順によつて變化する。西といふ字の第五畫つまり中央の縦方向の右側の線であるが、この先端を丁寧な右に曲げるのは筆で書くときだけであるまいか。第六畫は左から右へ引く底邊。鉛筆のときは右に曲げずに底邊の左端に運筆するのが私の書きぐせ。むかし、イギリスのエクセターで世界辭書編集者會議といふのに出たときに、鄰合せた佛蘭西人に名前を訊かれてカミニシと答へたら漢字で書けといふので書いたところ、翌日になつて、このところは右に曲げるべきではないかと質されてしまった。父は戸籍を作るとき硬筆だったのだと思ふ。我家の戸籍は、この字形で作られた。しかし、これが別の字であるなどと考へたことは一度もない。データー化するときは字形のために丁寧に書いた西とは別の番地を割り當ててくれたらしく、別の字であるといふ通知を役所から貰つたことがあつた。文部省なら字種を減らさうと

するだらうが、戸籍係は書かれた字形に忠實であつたわけだ。

人名漢字表なるものがある。以下、巖饅工場といふサイトの記述を借用する。

昭和二十一年に、表音主義に基く國語文字改革の一環として、「常用漢字表」が公布されました。これは全部で一八五〇字あり、これ以外の漢字は使つてはならないとする漢字制限政策でした。これを受けて、昭和二十二年に施行された「戸籍法」では、子供につける名前に使ふことが出来る漢字を、この「常用漢字表」内の漢字に制限しました。しかし、一八五〇字では足りないといふことになり、誕生したのが「人名用漢字」でした。昭和二十六年に九二字が人名用漢字として制定されたのを始めとして、その後幾度かに互つて追加・拡充されてきました。

漢字制限で走り出したものの人名で行きづまり、使用漢字の枠を大きくするための彌縫策であつたわけだ。人名用漢字表は頻繁に改訂され、その都度大きくくなった。千七百號「人名漢字變遷の目まぐるしさ」で書いたやうに平成十六年度では二月二十三日に一字を追加。六月七日に更に一字の追加。七月十二日に三字を追加。九月二十七日には「漢字の表」に四百八十八字を追加するとともに、「人名用漢字許容字体表」の二百五字を「漢字の表」に統合したとある。昔の同僚であつた中島さん、定年後に葉書を貰つたら中嶋さんであつた。嶋が人名用漢字として認知されたのもこの年だつたやうだ。漢字制限は姓には及ばさないとあつてゐるらしいが、そんな區別は一般の人は知らない。

最近、雑誌記事などで本文は新字体、自分の名前は正字体といふのを見かける。或る雑誌でロシア軍がジョージアを攻めた

と、グルジアを英語式に書いてあつたが、この場合もさうであつた。執筆者は國際機關に長かつたとあるので、耳から入つた形に引きずられるのは仕方がない。かういふのは編集部で氣をつけなければならぬだらう。戦前の教育を受けた年代、本文も正字体であつたのを、編集部で署名のところを除いて新字体に直したのかもしれない。さう思ふのは、ローマ字問題について或る新聞に書いたとき表記を文部省式に変更することを求められたことがあつたからだ。人名について逐一人名漢字表に當つて役所の認めたものに限り正字体にしてゐるのであらうか。國語の運用に役所が關ると結局かういふことになる。さういふ編集作業を誰ができるものか。恐らく、人名については人名用漢字表に登録してあるかどうか拘らず正字でかまはないと決めてかかる以外に方法はない。國語の運用に役所が關るとろくなことがない見本だ。◇1728(21.11.17)

これをしも無駄と言はずんば何を以つて無駄とや言はん

民主主義といふのは集團における智慧に到達する方法だと思つてゐた。多數決の前に言説を重んじるといふことがあるはずだと。事業仕分け人が權力でもって専門家の意見を裁斷する。何時から權力が議論を押し切るやつになつたのだらうか。しかし、よく考へてみると、これほどあからさまではないが戦後の國語行政もさうであつた。昭和三十六年三月の第五回國語問題審議會總會で宇野精一・成瀬正勝・山岸徳平・鹽田良平・舟橋聖一の五人が退席・脱退したのは人選の問題であつた。言説がまかり通るやうな場ではなかつたことを象徴するものだと思う。

國語問題審議會の決めた現代假名遣の前書のみてみよう。(傳統的表記に直して

の引用。繰返し符號（くノ字點）は假名に開く）

この假名遣は、法令、公用文書、新聞、雜誌、放送など、一般の社會生活において、現代の國語を書き表すための假名遣のよりどころを示すものである。

この假名遣は、科學、技術、藝術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼさうとするものではない。

ここには専門家の表記と一般社會生活における表記は別だとする考へ方がある。前書の最後は次の通り。

歴史的假名遣は、明治以降、現代かなづかひ（昭和二十一年内閣告示第三十三號）の行はれる以前には、社會一般の基準として行はれてゐたものであり、今日においても、歴史的假名遣で書かれた文獻などを讀む機會は多い。歴史的假名遣が、我が國の歴史や文化に深いかかはりをもつものとして、尊重されるべきことは言ふまでもない。また、この假名遣にも歴史的假名遣を受け継いでゐるところがあり、この假名遣の理解を深める上で、歴史的假名遣を知ることが有用である。

つまり、戦前は専門家と一般人とを表記において區別するところはなかつたわけだ。戦前のエリート教育は小學校からだった。今は恐らく大學からだ。専門家と一般人との區別を考へた人達は勿論専門家であつた。彼らは自分たちには問題ない表記であるが、一般人のために易しくした方がよいと考へた。最近、新井白石の「折たく柴の記」を岩波古典文學大系で讀んだ。底本は手書きだから略字もある。凡例には「漢字の俗字・略字・古字の類は、おほむね通行の正字體に改めた」とある。これが復刻の本來のやり方だ。専門家向けのものであれば戦後のも

でも正字體が當り前であつた。

戦後の國語教育で育つた世代が今の政權。内と外と言葉を變へる嗜みがないのはあるまいか。さうでなければ、身内の事情で先代の約束を見直すなどと言へるはずがない。白石なら「いかにかくまで、我國の恥ある事をしれる人なき世とはなりぬらむ」と嘆くところだ。

歴史的假名遣は別に難しいものではない。いや、いはゆる現代假名遣より筋の通つたものだといふことは五年ほど前に切替へてみてよく判つたし、外國人に日本語の讀み方を説明するときも明解であることを經驗した。歴史的假名遣に比べて英語の綴りははるかに複雑だ。だから、英語には現代假名遣のやうなものを導入すべきだとする運動があつたのはむしろ當然だらう。英國でも學校教育に簡易綴りが導入されかかつたことがあつたが、危ないところで回避され、役人が表記に介入することはなかつた。もしさうなつてゐたら今日の英語の隆盛はなかつたであらう。しかし、英語の簡易表記はあくまで入門期に限られたものであり、やがて通常の綴りに切替へるものとされてゐたださうだ。このあたりは山口美知代『英語の改良を夢みたイギリス人たち』に詳しい。

我國においては簡易表記の導入が一擧に行なはれたため、知の世界における一種の下克上が出現した。我々の親も教師も、身につけた知識を、古いもの間違つたものとして否定することを迫られたわけだ。そして今では岩波の復刻でさへ、いはゆる現代假名遣になるかもしれない状況だ。絶対多數の一般人のために専門家といふ存在が忘れられかけてゐること、かくの通り。言説に意味がなくなれば、頭數だけの多數決がはばを效かすのは仕方がないのかもしれない。

戦後導入された簡易表記は未だ定まつ

た標準に到達できていない。前提が間違っているから當然なのだが、國語審議會は文化審議會國語部會と名を變へて存続してゐる。言葉を権力で差配すること、これをしも無駄と言はずんば何を以つて無駄と言はん、と我ながら小癩のことを一筆。◇1736(21.11.26)

略體は正字にするのが本来

學士會アーカイブスといふサイトがある。今月のもは鳩山秀夫法學博士「穂積老先生不朽の功績を憶ふ」(大正十五年五月)。この表記は當り前のことながら原文通り、つまり正字歴史的假名遣だ。先月のもは新字體現代假名遣に直してあるやうに思はれた。電子書庫に收納するのは後世の讀者のためだらうから偶々收納するときの表記だからと「現代」と時代を制限した表記を特權的に扱ふべきではないのではないかと葉書を出したところ折り返し「検討する」と返事があり、更に一週間後に、原文通りにすると封書が届いたのであった。

最近、電子テキストに復刻するときの表記について氣になつてゐたところ、『ナショナル芝加哥グラフィック』平成二十一年十二月號二十四頁(表紙から數へて十七枚目)に面白い圖を見つけた。同心圓狀に英單語二千を、外縁にいくに従つて小振りの文字にして配置したもの。中心にあるのは I, two, five, who, three の五語。歐洲、中近東、印度亞大陸の 87 の言語で同じ二千語をレディング大學進化する情報學教授マーク・パーチエル氏が電算處理した結果ださうだ。品詞では名詞代名詞數詞が安定してゐるとある。

中央の五語はもつとも使用頻度が高く、一萬年以上に亘つて同じ語形であるが外縁の方は八百年で廢れるとある。中央の五語は八十七のすべての言語に共通だとして英語の three に對してスウェーデン

語 the デンマーク語 tre ドイツ語 drei タリア語 tre スペイン語 tres ギリシア語 tria ヒンディ語 teen パンジャブ語 tin 等々が列擧してある。

語形が安定してゐるといふときの音は、語の同定を許す範圍での變化を許容するもので、表音假名遣論者のやうに單音もしくは單音節單位で捉へてゐるものではないだらう。

この頁と見開きを成す頁は最古の聖書の寫眞。古代ギリシャ語で羊皮紙に書かれたもの。一四八七頁あつたと推定されるがシナイ半島の修道院の外、英國、ドイツ、ロシアなどに別れて殘存するのは計八三三頁。これの電子化の作業が進行中。詳しくは [codexsinaiticus.org](http://codexsinaiticus.org) を参照されたい。復刻とは何かから始めて、テキストデータに翻字してからの自動校合けうごのこと、電子版になれば、如何に研究がやりやすくなるか等が論じてある。

最初になすべきことはすべての文字を翻字すること。すべてをギリシャ字母のどれと決めて行くわけだから字母制限などありえない。一々の字形が問題なのではなく、どの文字だとして書かれてあるかが問題。つまり略體は正字にするのが本来なのだ。これは電子版では一層重要なことだと思ふ。◇1745(21.12.5)

現代漢字で歴史を語ることはできない

孫の學藝會に行った。會場の體育館に入つてみると舞臺袖のめくり札に「休けい」とある。戦前の教師なら、「こんな書き方をしてはいけない。もし字を知らないのなら辭書で調べて書きなさい」と教へたはずだ。今なら假名漢字變換で休憩と簡單に入力できる。「休けい」と入力するのはかへつて面倒だらう。しかし、以上はこの語を耳で聽いて判る程度には知つてゐるとしての話。さうでなければ、假



名の前の漢字は訓讀が原則だからヤスケイと讀まれても仕方がないところだ。

今の教師はどうしてこのやうな表記を見過しにするのか。いや漢字制限がある、このめくりは教師が書いたものかもしれない。文部省が漢字を使用禁止にし、例外的に使用を許可したのが教育漢字だ。しかもこれには學年配當といふものまである。だから教師たるもの油斷してはならない。使用禁止なのは、憩の字一字の問題なのだろうか。この字を教へなくてよいとしたのは、この字を用ゐるやうな言葉をつかふべきでないといふことだったのではないだろうか。だから「休けい」とすべきではなく「休み」とすべきなのかもしれない。これだと、送假名がある場合は訓讀するといふ原則にも叶ふ。しかし、ついキウケイといふ語を使ってしまったわけだ。それでも、禁を犯さぬやうに、語の前半だけが教へない。あとは何時教へるのか。學年配當の表をみてみると、どこにもない。結局、教育漢字でないから、小學校では教へてはならない字といふことになる。かういふことを教師はどうやって調べるのだから。一々、學年配當まで明記した辭書があるとも思はれないが、實に御苦勞なことだと思ふ。

學力検査といふのがあるが憩の字は知っているのが學力ありとするのだからか。もしさうなら、その語を用ゐるときに、その語を書くときに教へるのが一番だろう。教育漢字とか學年配當とかいふものは變更になることはないのか。常用漢字はよく變るから、これだつて變るかもしれない。小學校教師がノイローゼにならないのが不思議だ。

國語教科書の編集をやつてゐた友人に教はつたことだが、小學校の教科書の場合、學年配當は二段階になつてゐて、三年生の教科書であれば、三年配當のもの外に、既修つまり一年二年配當の漢字も

使用可能、それから四年配當のものはルビ附で使用可能であつたさうだ。教科書に掲載する作品はこの基準にそつて書換へる。そのとき假名表記の部分で配當漢字で表記できるところは漢字表記にする。著者から書換への了解が得られなければ掲載しない。教科書編集者といふのがとてもない専門職だといふことが判る。

かういつたことはすべて、「現代假名遣」「現代國語」といふ名稱に象徴されるやうに、今といふ時點に於て便利であることが一番として定められた戦後の表記改革に起因する。漢字も「現代漢字」と言つた方が判りやすい。

奈良縣橿原考古學研究所は三日、奈良時代の文人官僚として知られる石上宅嗣の名前や位階、官職名を記した木簡が出土したと發表したと、本日四日の新聞にてであつた。石上宅嗣の説明に「當時の貴族で政府高官、自宅を寺とし、書庫を芸亭と名附けて云々」とある。石上宅嗣の「いそのかみ・やかつべ」、芸亭に「うんてい」と讀みが示してある。「いそのかみのやかつべ」としなかつたのは、「の」に當る漢字がないと律義に考へたためかもしれない。芸亭の芸は藝の略字と同じ字形だが別の字。とにかく現代漢字で歴史を語ることはできないことがよく判る。

◇1746(21.12.6)

一バイト假名を使用してゐることに問題はないのか

むの字屋さん、御感想に感謝します。深い教養と廣い知識を必要とする文字のことに、漢字の苦手なものが口幅つたいことを書いてゐること忸怩たるものがあります。「歴」が正字でないことも、指摘されて氣づく程度なのです。以下、雑感。

小學校に上がつて最初に覺えた字は「學校」。「メーメーヨーヨーカムリコー、

キーロクカケルに行ってみた」と唱へて  
覚えたものでした。

辞書論に microstructure といふ言葉が  
あります。項目の構造。項目は標題があつ  
て、それに對する記述がある。標題は調  
べたいことがらといふか、單語であり語  
形。標題は辭書利用者にとって所與のも  
の。つまり出發點。舊情報と言つてもよ  
い。それに對して項目の記述が、辭書を  
引いて得られるところの新情報。

字典の場合は舊情報は字形でせう。標  
題になる字形は親字と言ひます。『大字典』  
では「學」を新字體で引くことはできな  
い。正字で引いてみると、親字は正字。そ  
この記述の中に新字體も略字の一つとし  
て掲げてある。ところが文部省に遠慮し  
た漢和辞典では略字が親字で、正字が新  
情報という形のものがある。

ところで「欠」の場合は少し事情が違  
ふやうで、『大字典』では獨立した項目。  
欠缺といふ熟語もある。讀みはケンケツ。  
以下、友人からのメール。

どうも日本の新字體と言ふのは中國  
の簡體字と比べても實にいいかげんな  
もののやうです。朝鮮語を勉強するさ  
いにもうつかりすると間違へます。先  
日は放物線のことをうつかりパナムル  
ソンといひさうになりました。朝鮮語  
では拋物線で、ポムルソンといひます。  
關數もクアンスでは通じずハムス(函  
數)です。また新字體では欠席とかき  
ますが、朝鮮語では缺席でキョルソク  
といひます。欠は韓國語ではフムと讀  
んで疵のことです。

中國語を學ぶときにも同様のことが  
起こるでせう。朝鮮語や中國語を學ぶ  
には日本語の正字を覺えると良いとい  
へます。

新字體といふか、私のいはゆる「現代  
漢字」のやうなものがなければパソコン

で使用できる漢字の混亂は小さかっただ  
らうと思ひます。書くときに略體をつか  
ふことも、書の上手い人が草の手で書く  
といふこともあるでせう。しかし文字と  
して精確に書いたものと異なるものでは  
ない。さうしないとテキストとして検索  
するとき不便だ。まあさういふことを書  
いたわけです。たとへば「讀賣」といふ  
文字列を検索するとき、新舊の組合せま  
で考へると四回も検索しなければならな  
いといふやうなこと、これは判りやすい。

しかし、假名字母の制限はもつと根本  
的なところで國益を損なつてゐるのでは  
ないかといふ氣がする。C言語をかざつ  
たとき、一バイト假名はつかふべきでな  
いとすることを讀んだ。實際、一バイト假  
名を處理するための函数はコンパイラー  
に組込んでなく、コードを自分で書く必  
要があつた。COBOLのころは一バイト  
假名がデータの基本だったのだと思ふ。  
COBOLは處理速度を考慮してゐないの  
でプログラム言語ではないと書いた本ま  
であつた。

銀行統合のときに事故が起る。銀行の  
データは未だに一バイト假名なのだと思  
はれる。おそらくその部分の處理は  
COBOLで書かれたはずだ。この處理ルー  
ティーンはそのまま持ち越されてきてゐ  
るのではないが、翻字式ローマ字で ASCII  
にマッピングすればプログラムが書きや  
すくなるのではないかと思ふのだが、實際  
のところは判らない。◎1747(21.12.7)

一バイト假名を使用してゐることに問題  
はないのか(二)

一七四六號反響欄で一バイト假名のこ  
とについて觸れたところ一七四九號で批  
判があつた。飛躍があるといふこと、それ  
はさうであつただらうと思ひます。また  
讀み直してみると間違つたところもあつ  
た。なほ「實際のところは判らない」と

書いたのはASCIIにマップピングした場合の効率のことで、これは、すでに行なわれてゐるかもしれないと思つたから附け加へたことでありました。

擴張へボン式といふ翻字式ローマ字で轉寫してみても戦後の文部行政の間違ひに氣がついたもの。漢字の話なのにいきなりカナの話になつたりします。間違ひだと思ふのは、「銀行のデータは未だに一バイト假名なのだと思はれる。おそらくその部分の處理はCOBOLで書かれたはずだ。この處理ルーティーンはそのままで持ち越されてきてゐるのではないか。」と書いた最後の部分。單に持ち越されたといふのではなく、加筆修正されたのではないかといふことです。

COBOL の J とは知らなかつた、全體は Object Oriented Programming 言語の C++ で書かれたのではないかと思つたけれど確かなことは知らない。しかし、少なくとも二つの言語が使はれたと思ふ。外部のソフトウェアは C++ で、データのことは知つてゐる内部の人は COBOL といふやうな區分けがあつたかもしれない。事故の原因はいろんな側面があるでせうが、C や C++ の方がすっきりした書き方がしやすいのではないかと、これは事故のことを聞いて思つたことでした。そんな話を會社の電算室の男にしたところ、しばらくして日經パソコンといふ雑誌に記事が出たと教へてくれた。COBOL の記述にエラーがあつたとあつた。

一 バイトカナの制約といふことは考へなくてもよいとなれば、東京三菱UFJ が昨年五月に口座名義の振假名にヲを許容したとき平やエを同時に許容しなかつたのは技術的問題ではない。銀行協會取引相談所に訊くと平エは使用禁止のカナヲは使用可能。しかし「みずほ」は今いつヲの使用を認めてゐない。文部省の意圖はてんでんばらばらに解釋されはじめ

てゐるやうだ。

また飛躍しますが、昨年一月に東京證券市場のシステムの處理速度が諸外國に比べて桁違ひに遅いといふ報道があつた。ハードのせいではないでせうし、アルゴリズムのせいだとも思はれない。結局データ構造のせいなのではないかと思ふのですが、如何なる事情があるのか不思議です。

それからもう一つ。國會圖書館の Japan/Marc はカナ領域とローマ字領域の二つのフィールドを持つてゐる。これはどう考へても餘計。なほ、この場合のカナは一バイトカナでない。ローマ字も EBCDIC の ASCII ではない。

JAPAN/MARC マクセス・ポイントのカナ形サブフィールドにおけるカナ表記要領には

助詞「ハ」「へ」「ヲ」は「ワ」「ヒ」「オ」と表記する。

二語の聯合または同音の連呼によつて生じた「チ」「シ」は「ジ」「ス」と表記する。(可能な限り正字にしての引用)

いはゆる現代假名遣のやうな中途半端なものではなく、實に徹底した假名字母制限だ。これはローマ字を一方において考へてゐるためだと思はれる。文部省式假名遣が制限假名字母表記でしかないことがよく判るではないか。なほ「字を書く」は「ジ オ カク」となつてゐるから、助詞は分かち書きすることになつてゐるらしい。

また「外來語、外國人名、地名等は、その發音に従ひ、第一表によつて表記する。」とあるので、第一表なるものを見ると、昭和二十一年内閣告示第三十三號によるといふ表がでてくる。これは私のいふ制限假名字母表であつて平もエもないものだが、そのうちの六つにアステリスクが附してあつて、Japan/Marc では使用しな

いと注記がある。六つとは、ヲ、ヂ、ツ、チヤ、チユ、チヨ。これはローマ字で捉へた音節に對應する表だから六つになるわけで、假名字母だけでみればヲチツの三字。従つてビルヂングはビルジングと轉寫することになる。表音といふ機能からすれば、ビルヂングは今ならビルディングとあるところ。しかし、デイといふカナは認めてない。なほ追加のカナが二つある。一つはツの小書き。もう一つはプ。テーターの世界での日本語の捉へ方がかくもばらばらでよいものだらうか。

◎1753(21.12.13)

「陛下に訊いてみたら」

(一七五五號所載「賣國奴、小澤一郎を追放せよ」の執筆者東郷勇策氏へ)

當方はまことに愚かなことですが、小澤一郎なる人物について、かつてテレビの日曜討論などでの発言で、待遇表現が一番しつかりしてゐるところから、それなりの人物であるものとはかり考へてをりました。しかし、それにしても昨日(十一月十四日)の発言はひどい。

國事行爲について内閣の助言と承認で行はれるといふことから、まるで操り人形のやうに指示できるものであるかの如き發言にはだれでも怒りを覚えるでせうが、「天皇陛下に訊いてみたら」といふ表現からすると陛下に對する敬意のかけらもないことが判ります。

この檄文、大勢の人に讀んで貰ひたいし、特に岩手の人には讀んで欲しいものです。

なほ、會見といふことば、「敵の將軍ステッセル乃木大將と會見のところはいづこ水師營」で覺えました。談判のやうに實質的内容を伴ふやうな氣がします。

國語問題協議會で復刻した『皇室敬語』には「會見」は各陛下が外國元首又は御名

代と御面會のときに用ひる、「謁見」は各陛下に見ゆること。主として外國使臣に賜謁の場合に用ふとあります。各陛下とあるのは、天皇、太皇太后、皇太后、皇后の敬稱は陛下とすとあることによります。然らば、今回の場合は會見ではなく謁見とすべきではないか。そんなことを思つてをります。 ◎1756(21.12.16)

## メルマガ「頂門の一針」に書いたこと

縦組にする際に元の西暦記年は原則として昭和や平成に直した。末尾に掲載號などを示したが①のついたものは反響欄掲載なので標題がない。目次のために便宜見出しを立てた。

「お上に傳へてくれ」(『日本語が「ひる」と「わ」』)	一
英語教育について	一
敗戦日本に残ってゐたもの	三
ローマ字・田母神氏の主張と村山さんの誤解	四
• 日本式、へボン式の論争とは無関係だ	四
• にぎたまのローマ字	六
姓名の順序	七
常用漢字表など廢止するに限る	八
A L Tは廢止すべし	九
オバマは黒人にあらず	九
Jyūnichīは變だ	十一
「障害者」の表記について	十一
王様は裸だ(ヂュジ)	十二
Jyūnichīは變だ(二)	十三
Jyūnichīは變だ(三)	十三
文部官僚の面従腹背をこそ(古典教育)	十六
「未曾有」の読み	十七
官叩きの風潮	十八
N H Kの表音主義者	十九
挨拶の言葉も知らんもんで(日本語について)	二十
(潛在的文法)	二十
(敬語)	二十一
(膠着語)	二十二
(英語の影響)	二十二
ワキウエヲ	二十三
G H Qに便乗した國語學者たち	二十三
韓國人の名前の呼び方	二十四
「確実性が高い」は變だ(太田行藏の金田一京助評)	二十五
ローマ字化をやってみるべきだった	二十七
新常用漢字表案、應募意見はすべて公開すべきだ	二十八
文部科學省はエイリアンに乗っ取られてしまったのだらうか	二十八
N H K抗議行動に参加して	二十九
漢字は嫌ひだった	三十
英語教育に成功したはなし	三十二
英語教育に成功したはなし(二)	三十三
故人獻金での謝罪、苗字のことなど他	三十四

縦書か横書か	三十五
國語と外國語の錯綜	三十五
音韻體系に併せて變化せざるを得ない	三十七
發音論考察若干	三十九
憲法改正は二言語で	四十二
憲法改正は二言語で(二)	四十四
十年かけて戦後の國語行政を見直すべきだ	四十四
裁判員制度は廢絶するに限る	四十六
國立慰靈施設	四十六
音と訓の間違ひ(「傷跡」の讀み)	四十六
民主黨の國旗毀損	四十九
教師の養成方法こそ問題(教員免許更新制度)	五十
年號のこと、唱歌のこと	五十二
鳩山さんの國聯演説など	五十三
もとの十九にしておくれ(ハツ場ダム)	五十四
寢言は寢ていふべきものだ(東アジア共同體構想)	五十七
表記規制の撤廢を	五十八
事態は或る意味一層深刻だ(教育問題の成人教室に出席して)	五十九
人名漢字變遷の目まぐるしさ	六十一
イロハを教へることから始めてほしい(教員養成)	六十一
にほひぞいづる(唱歌の改竄)	六十二
「政治への信頼を取り戻せるやう協力」(キツナ、ハツ場ダム)	六十四
關門海峡海難事故について	六十六
制限假名字母表記が深く靜かに僭航してゐる(復刻テキスト)	六十六
國語の運用に役所が關するところくなことがない(人名漢字)	六十九
これをしも無駄と言はずんば何を以つて無駄と言はん(事業仕分け)	七十
略體は正字にするのが本来(復刻テキスト)	七十二
現代漢字で歴史を語ることはできない(交ぜ書き)	七十二
一バイト假名を使用してゐることに問題はないのか	七十三
一バイト假名を使用してゐることに問題はないのか(二)	七十四
「陛下に訊いてみたら」	七十六